

## 豊中市立図書館みらいプラン(素案)に関する意見公募手続の結果について

令和5年(2023年)1月17日~2月6日に実施した意見公募手続の結果は下記のとおりです。

### (1) 集計結果

#### ①提出方法別提出人数と意見件数

	提出方法	提出人数(人)	意見件数(件)
1	郵便	2	8
2	ファクシミリ	12	38
3	電子メール	3	27
4	電子申込システム	91	272
5	所管課への直接提出	95	336
6	その他	0	0
	合計	203	681

(上記以外に、政策等の案の内容とは直接関係のないもの2人5件の意見がありました。)

#### ②市民等の区分別人数

	市民等	提出人数(人)	意見件数(件)
ア	市の区域内に住所を有する者	191	647
イ	市の区域内に事務所等を有する個人及び法人等	1	13
ウ	市の区域内に存する事務所等に勤務する者	7	13
エ	市の区域内に存する学校に在学する者	0	0
オ	市税の納税義務者	0	0
カ	意見公募手続に係る計画等に利害関係を有するもの	1	2
	市民等の区分について未記入のもの	3	6
	合計	203	681

(上記以外に、政策等の案の内容とは直接関係の無いもの2人5件の意見がありました。)

(2) 提出意見の概要と市の考え方

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
1	市の施策	P4	市民が「施設階層」を望んでいなくても、施設マネジメントの観点でのみ設置方針が決められるのでしょうか。基本コンセプト、基本方針は、何のために考えられたのでしょうか。基本方針の(3)にのみ特化しているというのは、ここにも表れています。 市全域から「比較的アクセスしやすく」の基準は誰ですか。この配置では、空白地帯が多すぎて、すべての市民の「わたしの図書館」ではありません。設置方針に、交通弱者(障害者、高齢者、子どもたち)の考慮がありません。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年(2017年)3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度(2014年度)比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年(2021年)2月に(仮称)中央図書館基本構想を策定し、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
2		P23	利用者数は平成30年度(2018年度)で193万8931人。こんなにも多くの市民が利用している公共施設が他にありませんか。市長も「豊中では図書館はもっとも利用されている施設だ。従来の枠にとられずにすべての市民、年代の人の要望に応える必要を感じる。」と議会で答弁しておられます。沢山の市民が利用し、今後も利用し続けられることを願っている地域図書館が大幅削減されるのは納得できません。	
3		P34	判定結果の中で服部、蛍池は借地・借家なので費用削減効果が大いとしていますが、公共施設マネジメントでは市の公共施設の面積削減を目的に挙げています。これはダブルスタンダードになっていると思います。廃館に都合の良い基準を持ってきているような気がします。	
4		P23	みらいプランに関する総合計画や行財政改革、公共施設等総合管理計画などは、行政全体が関わる課題です。市民からの質問に対し受け答えをする図書館職員の方が図書館の立場として自由に話せず、つくづく行政内部の図書館の立ち位置を意識させられました。みらいプランが主として財政的な側面から、とにかく図書館数を減らすことを目的としているとしか思えません。	
5		P1	「教育文化都市の発展に寄与する」というのが本旨ですか。平たく言えば経費削減に主眼を置いているのですか。教育委員会の立ち位置を知りたいです。	
6		P23	なぜ図書館を主な削減対象にするのでしょうか。	
7		P4	「公共施設等総合管理計画の趣旨に従い」とあります。この計画では公共施設の延べ床面積80%フレーム設定がなされています。現在の図書館の総床面積は約15136㎡ですので、80%では約12108㎡です。ところがみらいプランの示す中央館・地域館・分館・利倉西センター併せて9398㎡サービスポイント5か所として全部で9648㎡現有床面積の63%程度です。図書館だけがこのような大幅縮小されるのはなぜなのか理由を教えてください。すべての人の「私の図書館」をめざすならば、大幅縮小するはずがないと思います。	
8	図書館運営	P23	本構想は「デジタル化社会に対応した多様な媒体による情報の提供」「ICTの積極的活用による人員配置」という記述にみられるように、豊中市立図書館のうち中心的な図書館だけを残して、あとはインターネットで繋ごうという構想と理解できます。そのため中央館、地域館、分館を合わせても10館未満で市立図書館の大幅削減・廃止となります。サービスポイントは50㎡という広さから推測して図書館利用者あるいは職員が端末を利用するだけのスペースと思われる。図書館はインターネットを利用して電子書籍で情報が得られれば良いというものではなく、子どもから高齢者までが書棚にある本を手に取りいろいろなと探索する中で「癒し」を得、また共有する場です。また「ICTの積極的活用による人員配置」は言い換えれば、図書館職員の大幅な人員削減を意味しませんか。かなり以前から図書館職員の非正規化が進行し、問題となってきました。「みらいプラン」の策定は非正規職員の大量雇止めをもたらすと思います。「みらいプラン」は市民サービスのうえからも、また図書館で勤務する職員の雇用の問題としても深刻な内容をはらんでいます。上記の観点から「みらいプラン」の再検討をお願いします。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要です。そのため、サービスポイントの設置とともに、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」を今後検討しサービスの充実に取り組んでまいります。職員体制については、今後の図書館運営に必要な職員数や役割に応じた配置に努めてまいります。
9		P38	施設の再編ではなく、より細かなより身近なところに図書館や、図書室のような小さくても徒歩10分以内で行ける場所を求めます。高額で個人では買えないものもある程度そろっている、そんなイメージの図書館を求めます。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
10	図書館運営	P23	<p>大学図書館に勤務する豊中市民です。最近の大学生は本を読まないと言われていますが、たしかに年々貸出冊数は減っています（この現象は国立、公立、私立を問いません）。利用ガイダンスや教員と連携して図書館利用のプログラムを実施しているのにも関わらずです。本学図書館に所蔵がない図書は図書館相互利用制度で他大学から借りますが、「近隣の市立図書館が早いよ」と案内もしています。このような状況で「身近で歩いていける図書館」が少なくなればますます若年層の図書館離れは深刻になります。もちろん現在の主な利用層の中高年齢層や子ども連れも行きにくくなり、図書館活性化とはほど遠い結果となるのは明らかです。これは図書館だけの問題ではなく、市民の情報リテラシー、そして日本国民の知的レベルに関わるものではないでしょうか。</p> <p>現在の図書館全館が縮小されれば、蔵書も処分しなければならず、そうなると貸出希望に応えられません。「電子ブックやジャーナルの拡充でカバー」とのことですが、電子資料の流通が増えたといっても限られており、まだ紙資料の情報量には及ばず、紙資料のように多くの利用者が利用できる状況でもありません。また費用も紙媒体に比べて高価です。将来的には電子資料が増えると思いますが、まだ電子資料に頼るのは時期尚早、まして「すべての市民」がサービス対象となる市立図書館ではなおさらではないかと思えます。「アウトリーチでカバー」とも記載されていましたが、移動図書館車が増えるとは思えません。</p> <p>また、図書館では利用者が目当ての本や情報にたどりつけるように、情報探しのプロフェッショナルである司書が手伝います。司書が削減されれば、個人の能力や知識の範囲で情報を探さなければならず当然望んでいたものには辿りつけません（その結果、図書館には本がない、という不信感が増加）。図書館のサービスは本の貸出返却だけでなく、レファレンスや企画（利用者の動向チェックや学校との連携などに基づく）、場の管理などが含まれます。司書が少なくなる（「サービスポイント」は不在でしょうか）であれば、サービス低下は免れません。司書削減は再考いただきたいと思えます。オンライン司書（駅にあるような、モニター越しで随時対応可能。その代わり夜間でもOK）なども考えられますが…</p> <p>以上、ハコ・モノ・ヒトの側面から考えましたが、「みらいプラン」は粗すぎて、まだまだ検討の余地があると思えます（そもそも図書館関係者が構想に参画したのかも疑わしいほど）。施設の老朽化、資金難、利用者の固定化などの問題は十分に理解できますが、コロナ禍も日常化し利用者の増加が予想されるなか、まだ素案の段階で「2023年度から閉館」は無謀です。しばらく延期し、そして先進的で具体的な、大人も子どもも「健やかに育ち、楽しく学ぶことができるまち とよなか」にふさわしい、夢のあるプランの提示をお願いします。</p>	(前項の市の考え方参照)
11		P20	<p>現況と課題の整理について、図書館は「民主主義への投資」ですし、文教都市を標榜する豊中市としても、必要不可欠な施設だと思えます。それを利用者が減ったから図書館を減らすというのは、あまりにも無能の施策ではないかと思えます。</p>	
12		P23	<p>図書館が果たすべき、あるいは果たし得る役割や使命を、狭く、小さく限定しすぎていると感じます。さまざまな社会課題（例えば格差の拡大と貧困の蔓延、子どもの育ちを社会全体で支えること、「大人の引きこもり」にどう対応するか、高齢者の居場所づくりや生きがいづくりや元気な高齢者の社会参加、空家対策、防災と自助・共助・公助の整理…等々）を克服あるいは解決するために、図書館は単なる「無料の貸本屋」にとどまらず、もっと積極的・前向きに役割を果たす方途を考えるべきではないでしょうか。</p> <p>単に情報を提供するだけでなく、市民とともに社会課題の解決に積極的に関わっていく、市民活動の拠点としての図書館。また、自治体職員として社会課題の解決・克服のために蔵書や資料を最大限活用する図書館職員、であるべきではないでしょうか。</p> <p>野畑・東豊中のように、500㎡の小さな図書室では、人は集まりません。統廃合し縮小し、機能も貧しくなり、司書さんはじめ人も減らされては、行く意味がありませんから当然です。「縮小→機能低下→利用者減少→さらに縮小→さらに機能低下→さらに利用者減→廃止」が目に見えるようです。</p> <p>「ここは削れる」「ここは不要」というのは、図書館を無料貸本屋としか捉えていないからです。そうではなく、「市民活動の拠点」を、行政職員として「市民福祉の向上」のために尽力する図書館職員をめざして、機能と役割と使命を、もっと大きく捉えるべきです。</p> <p>結論。 公共図書館は、統廃合・整理縮小ではなく、強化・充実すべきです。未来なき「みらいプラン」は撤回あるいは大幅に見直し、今の9館から18館に増やす。図書館費を倍増する。そして、果たす役割も2倍に。それでこそ言葉通りの「みらいプラン」です。</p>	
13		P23	<p>私は熱心な図書館利用者のひとり。昨秋、市民主催の「明日の図書館」に参加、本年1月21日は「豊中市立図書館みらいプラン」にZoom参加しました。質疑NO1に腹をがたちました。パネリスト豊田高広氏（フルライトスペース）が紹介した豊橋市まちなか図書館や鹿児島市立天文館図書館の斬新な施設を知り、わが町にできるかと期待しました。先月、隣の吹田市に誕生した「まちなかりビング北千里」を仲良しの司書とたずね「多世代が出会い、つながり、交流する施設」の活況を目の当たりにし、5年、10年先の「豊中の図書館」の姿を想像しています。</p>	<p>図書館に寄せられる多様なニーズにお応えする取り組みを展開する必要があります。シンポジウムでパネリストから紹介のあった図書館での事例も含め、今後、全国の先進的な取り組みを参考に、検討してまいります。</p>

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
14	図書館運営	その他	なにやら社会が劣化してしまったような気がします。格差の拡大。富の再配分がうまく行っていないのでしょう。政治の一番大事な部分が機能不全を起こしています。図書館が資本をやるだけのものになりそう。また3~4年前、テレビでAIによる分析の結果、高齢者の健康と図書館の充実に関連があると言っていました。AIなので原因は提示されませんでした。市民によるタウンミーティングでは高齢者が多数参加していたが、直感が働いたのかも知れません。危機感は切実なのだと思います。	豊中市立図書館の基本目標として掲げた「市民がより豊かで潤いのある文化的な生活を営むために、必要な資料や場を提供し、市民の人間の・文化的教養の醸成を支援します」という理念のもと、今後も多様なニーズの把握に努めてまいります。
15		P23	地域の人々の「集いの場」「くつろぎの場」「学びの場」となるような図書館であって欲しいです。	豊中市立図書館の基本目標として掲げた「市民がより豊かで潤いのある文化的な生活を営むために、必要な資料や場を提供し、市民の人間の・文化的教養の醸成を支援します」という理念のもと、今後も多様なニーズを把握し、サービスの充実にも努めてまいります。
16		その他	中央に立派なモノをとるのであれば、TSUTAYA図書館のように、民間に運営委託してそこに予算はある意味投下しません。来館者の少ないエリアにこそ、税金を投入しないと意味がないでしょう。それらのエリアには民間は投資しないのだから。	(仮称)中央図書館での多様なサービスをワンストップで提供できるよう、機能の検討を進めるとともに、施設再配置のなかでも市民の皆様の情報アクセスを効果的、効率的に保障する方法を検討してまいります。
17		P4	基本構想のコンセプトは、素晴らしいと思います。3つの基本方針もよく考えられていて、このような図書館は、望ましいと思います。しかし、みらいプランの内容は、基本方針の(3)にのみ、特化したものになっており、(1)(2)については、実現には程遠いプランだと思います。その一番の問題は地域の図書館をなくすことです。具体例としてあげると、すべての市民と言いながら、自由にどこへでも行けてインターネットが使える人だけに便利な仕組みです。子どもたちのことを考えていません。学校連携を維持と言いながら地域の図書館と学校の関係を断っています。地域課題に対応する情報の積極的収集・「場としての図書館」の効果的な活用というコンセプトについても地域の図書館を失くしたら元も子もありません。	今後の持続可能な図書館運営を考えるうえで、基本構想のコンセプトでもお示しした「サービスポイントの設置等による利便性の確保」や「(仮称)中央図書館を中心としたサービス網の構築」をすすめるのと同時に持続可能な組織の構築をめざして、図書館施設の老朽化、社会保障関係経費の増大などの課題に取り組みする必要があります。一方で、「政策課題や地域課題に対応する情報の積極的収集」「『場としての図書館』の効果的な活用」についても、図書館として重要な課題です。学校図書館支援についても物流の拠点は地域館4館に集約されましたが、分館での資料提供は可能な形で実施しています。また、今後は、図書館機能とともに、子ども・子育て世代をはじめとした様々な世代の人たちが滞在できる空間づくり、地域活性化、地域課題の把握や情報発信などについても、他機関と連携して取組みを進めてまいりたいと考えています。
18		P23	いろんな分野の書籍に出合える図書館の活用をもっと市民に広く知らせるべきです。現在の図書館を減らすのは反対です。	ご指摘のとおり、図書館の機能について市民の皆さんにご理解いただけるよう今後一層取り組んでまいります。
19		P22	市民団体主催のタウンミーティングで、最優先課題が「公共施設の20%削減」ということがわかりました。立派な中央図書館を作っても、誰もが気軽に利用できる訳ではありません。「みらいプラン」は豊中市や市民の文化性を高める話ではなく施設面積を減らす点から話が始まっていることにつながりました。サービスポイントに至っては、図書館と言えません。その業務は事務のみだから誰でもできます。図書館は司書という専門家がいてこそ成り立つのです。	図書館施設の老朽化対策とともに、市有公共施設の持続可能なあり方、増大する社会保障関係経費を克服する課題と向き合いながら、基本構想とみらいプランのもと、新しい図書館サービス網の構築に取り組みます。箕池・高川につきましては、予約受付、新規登録などに対応できるよう、司書を配置したサービスを考えております。
20		P38	図書館が実質少なくなると、今までよりも図書館空白地域が広がります。そのことへの対策が全く見えません。	今後、新たな図書館サービスとして、電子書籍の拡充やオンラインでの新規登録などの非来館型サービスとともに利便性の高い交通結節点でのサービスポイントの設置などを予定しております。
21		P34	誰が、評価・判定したのでしょうか。利用が少ないから閉館するのですか。子どもの利用が多いから必要なのですか。服部図書館においては子どもの利用割合が高いのに、それについては触れず、中央館がカバーできる地域だということで閉館することになっています。(中央館の場所も決まっていないのに機能が重複するから閉館して良いのですか。子どもは自分の足で中央館まで行けません。)そもそも、本当に子どもたちのことを考えるなら利用の少ない所にこそ「公共図書館」が必要です。現在、図書館評価を図書館協議会で行っています。利用が減った原因がどこにあるのか真剣に考えていますが、こんな評価のやり方を通すのであれば、今やっている図書館評価は一体何なんですか。何のために図書館の評価システムがあるのか教えてほしいです。この部分について、誰が、どういう過程で評価・判定したのか、その正当性についてどうお考えか、公表してください。	基本構想で本市の財政的課題に触れましたが、将来にわたり持続可能な図書館サービス提供体制を構築するため、早急に施設の機能変更を含む、施設配置の見直しが必要です。そのため、全体最適を考えた行政において分析・判定しています。服部図書館は中央館の計画地が岡町駅周辺か、曽根駅周辺かのどちらかに決定するかによって、今後のあり方が変わるのには素案にてお示ししたとおりです。ご指摘のように未来を担う世代への教育支援につきましては、今後も重点的に取り組めます。学校教育関係部局とも連携し、学校図書館などの支援に一層取り組んでまいります。
22		P38	利用が減少しているところがあるが、大幅に減少しているわけではありません。図書館を減らして、利用者が増加するとは思えません。教育や文化は効率重視の中では育ちません。「行きたくなる図書館づくり」をめざすなら、市民の行きやすさを最優先に考えるべきです。	(仮称)中央図書館を核とした新たな施設配置と「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」によって、貸出利用の促進と行きたくなる図書館づくりに取り組み、持続可能な図書館運営を図りつつ、利用者数の向上に取り組んでまいります。
23		その他	登録や予約申込みに際し、紙に書いて手続きすることは引き続きできると考えていますが、合っていますか。	引き続きご利用いただけます。
24		その他	図書館法によって貸出の無料化は保証されていますが、ネットフリックスなどが社会的に定着している現状から、一部有料化に向けて図書館法の見直しも全国公共図書館の共通課題として取り組むべきではないでしょうか。	本市の図書館では、資料の複写に係る代金以外の資料情報提供に関わるサービスは図書館法により無料としています。他市では資料の宅配貸出などを一部有料で取り組んでいるところもあり、他市の動向も注視し研究してまいります。
25		その他	各自治体で図書館充実計画の声はよく上がりますが、なかなか実現までに至っていません。公共図書館の予算増は出版文化を支える事に繋がりますが、これも難しいと言えます。ここで思い切って、公共図書館利用の有料化など、従来に無い発想も必要では無いかと考えます。ご一考ください。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
26	図書館運営	P23	現状のプランでは廃止する図書館が出てくるため、身近な図書館を無くさないで欲しい、住民の意見を聞かないで進めているという声がよく聞かれます。 豊中市公共施設等総合管理計画では、複合化・多機能化の推進・施設利用の促進が求められ、中央図書館構想では協働の場・市民活動の場としての図書館、エリア活性化への貢献が求められています。こうしたことを踏まえ、各エリアの公民館・集会場施設の中に図書館機能を取り入れ、運営については、地域住民との協働を図ることはできないでしょうか。徒歩圏内に図書館がないことで、サービスの提供から外れてしまう幼児やその父母(特に母親)、高齢者をカバーすることができ、その場を中心として地域のコミュニケーションを活発にする方策にもなると思います。	公民館をはじめ他の施設と連携し図書館サービスを展開することで相乗効果が生まれ、まちの活性化に寄与するものと考えます。また、図書館は、これまで子ども読書活動や障害者サービスなど市民協働での取組みを通して市民の皆様のご協力のもと、サービスの向上を図ってまいりました。新たな図書館ネットワークでのサービス提供においても、地域の皆さまとの連携・協働は重要であると考えております。このような視点を「新たなサービス展開」に追記します。 (豊中市立図書館みらいプランP44、P45)
27		その他	公共図書館が持つ使命を、もっと市民に問いかけるべきだと思います。来館者の増加はともかくとしても、貸出数を競う事はいかがなものでしょうか。 法律的に現状では無理ですが、公共図書館利用を有料化するなどの荒療治を施せば、新しい公共図書館のあり方が見えてくるかもしれません。	貸出数は図書館サービスの基本的な評価指標です。市民ニーズの多様化に合わせたサービス指標とセットで用いることで、多面的で、総合的な図書館評価ができると考えます。今後も豊中市立図書館評価システムの運用を通し、適切な運営に努めます。 本市の図書館では、資料の複写に係る代金以外の資料情報提供に関わるサービスは図書館法により無料としています。他市では、資料の宅配貸出などを一部有料で取り組んでいるところもあり、他市の動向も注視し研究してまいります。
28		その他	そもそもの理念と目的がおかしいと思います。 効率や集客率を全面的に持ち出し、居心地の良さだのなんだのと並び立てるのはどうかと思います。 身近な場所で無料で多種多様な本(現物)に触れることができるという環境が何より大事だと考えます。 民間図書館であればある程度仕方がないことだと割り切れることができますが、「知の探究と教養の底上げ」が本来の目的である公立図書館において、本計画は逸脱していると考えます。	(仮称)中央図書館の機能について基本構想(P57)でお示ししました。その中でこれまで図書館を利用していない層に対して、多様な利用形態に対応した閲覧環境を提案する必要性に触れています。それにあたっては賑わいと静寂を必要とする空間を明確にわけると(音のゾーニング)、資料情報提供の機能の充実とともに、多様な利用形態に合わせた居心地の良さを追求したいと考えております。
29		その他	素案全体を通しての感想ですが、まちづくりの部分が出来過ぎていて、図書館のもつ本という公共の財産を大切にするという意味が薄れているように感じました。このプランを見て、詩人の長田弘さんの「読書からはじまる」を思い出しました。 引用一部抜粋：図書館が、一人一人にとっては、すべて読むことなど初めから不可能な条件のうえにたつてつくられるように、「本の文化」を深くしてきたものは、読まない本をどれだけもっているかということです。(中略) 読まない本、読んでいない本が大事なんだという本の付きあひ方が、目先でなく、どこまでも未来にむけられた考え方としての「本という考え方」を確かにしてきたということです。 「豊中の図書館の未来を考えるシンポジウム」(1/21開催)でも、長田さんの言う「本という考え方」という視点が欠けているように思いました。図書館にアクセスできなくなる人が出るようなプランが、図書館の未来なのでしょうか。貸出が少ないから、来館者が少ないから、図書館を減らして情報にアクセスできるサービスを増やすということで、図書館の持つ役割が果たせるでしょうか。「本の文化」のありようをもう一度考え直してもらいたいです。	今後も資料、情報へのアクセスを保障し、読書を通して生活や仕事、余暇などの充実に資する役割を図書館は果たしてまいります。そのうえで多様なニーズにお応えする新しい図書館の将来像を示すのが本みらいプランの趣旨です。併せて市有公共施設の持続可能なあり方、増大する社会保障関係経費を克服する課題と向き合いながら、基本構想とみらいプランのもと、新しい図書館サービス網の構築に取り組みます。
30	施設再編賛成	P23	市民団体主催のミーティングで、大阪府下自治体の「市民一人当たりの貸出点数」順位が、資料として配付されていました。豊中市は6位と健闘しているものの、「市民一人当たりの蔵書数」では平均をはるかに下回り大阪府下では最低ランクです。貸出が多いのは図書館数が多いことあるのですが、図書館が多いが故に図書館購入予算が分散し貧弱な蔵書数となっています。 貸出の多い自治体を見ると、いずれも早くから中央図書館を中心とした運営を進めてきた自治体です。近隣の尼崎市や西宮市も同様に、立派な中央図書館が存在します。人口の多い東大阪市の数字が悲惨なのは、大規模な中央図書館が存在しないことと図書費予算が低いことなどが要因と考えられます。それ故、東大阪市の図書館運営を指定管理者に委託せざるを得なかったと言えます。松原市をはじめ指定管理に移行したいいくつかの図書館の数字が悪いのは、指定管理者の問題ではなく自治体に問題があるようです。 この点からも、中央図書館基本構想は豊中市にとって急務です。交通の便などが問題視されますが、茨木市・吹田市などの中央館は決して交通の便は良くはありません。	みらいプランでは、(仮称)中央図書館を核とした新たな図書館サービス網を構築することとしており、施設配置の見直しとともに、新たなサービスを展開することとしています。「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」において、蔵書(電子書籍含む)を充実していく予定です。
31		P29	中央館の立地候補として、案1(豊島公園、曾根駅南)、案2(岡町駅周辺)、案3(曾根駅周辺)の3つが書かれています。現在蔵書数25万冊を有する岡町図書館(岡町駅西、廃館予定)を利用されている近隣の住民の方々からみると、案1と案3は1駅遠くになってしまい非常に不便に感じられると思いますので、中央館は案2の岡町駅周辺で進めていただくように希望いたします。	基本構想及びみらいプランに基づき、評価基準をまとめ、(仮称)中央図書館の計画地を選定してまいります。
32		P29	民有地Bへの設置が良いと考えます。これからの人口減少や税収を考えていくと、統廃合を含む合理化を図る計画となっている点を支持します。	
33	みらいプランに期待	その他	市民団体主催のミーティングに参加した際に、教育委員会による「図書館みらいプラン」の説明は、中央図書館の候補地やサービスポイントの機能などが少し具体化されつつあり、今までの市民の意見などがかなり反映されているな、と言う感想を持ちました。 その「プラン」に対する参加者の意見の大半は、自宅近くの図書館の存廃が最大の関心事であり、中央図書館を中心とした市全体の図書館サービスにはあまり関心が無いように感じられました。市民としては、当然の反応と考えられますが、「市から図書館再配置の説明が無かった」「もっと市民の意見を聞け」などの声ばかりでは「プラン」に吸収しにくいだろうと思います。サービスポイントの運営が確たるものであれば、予約本の受け取りなどはむしろ現状より良くなる筈です。	「Ⅱ-1(8)コロナ禍の状況」の予約受付件数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大きく増加しています。今後、新たな図書館サービスとして、電子書籍の拡充やオンラインでの新規登録などの非来館型サービスとともに利便性の高い交通結節点でのサービスポイントの設置などを予定しております。
34	シビックプライドの醸成	P23	今後の図書館の使命を見据え、社会的弱者、図書館を必要としているすべての市民、特に未来を担う子どもたちが“みらいのとよなか”の礎となるためにも、また未来志向型の改革を志向し豊中の都市ブランドを高めるためにも、市民の協働・参画を大切にしながら、長年積み重ねてきた豊中の強みを生かした新しい図書館ネットワークの新構築を望みます。	ご意見も参考にしながら、将来にわたり持続可能な図書館運営に取り組んでまいります。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
35	シビックプライドの醸成	P23	人間の成長にとって読書は不可欠であるにもかかわらず、こんなにも図書館を減らし、地域から奪っていいものでしょうか。子どもも大人も一生勉強したいのです。その結果がすぐに数値としてあらわれるものではなくとも、豊中市の住民・子どもが精神的に成長できることは素晴らしいです。市民の財産である公的施設・土地を民間に売り飛ばし、できるだけ市民サービスを減らそうというのは、自治体のあるべき姿ではありません。	意見No.9に対する市の考え方でお示ししたとおり、施設配置の見直しは必要ですが、螢池・高川図書館などの跡地につきましては、現在、図書サービスポイント等の機能を含めた子どもや子育て世帯などを対象とする住みよいまちづくりに資する施設の在り方を検討しているため、その内容をみらいプランに追記してまいります。
36		P22	長年図書館をととても身近な存在として暮らしてきました。みらいプランが本当に豊中市をより文化都市にしてくれますか。コストパフォーマンスだけでなく取り組んでいただきたいです。	将来にわたり持続可能な図書館サービスを提供するにあたり施設配置の見直しは必要ですが、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」の電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスの充実に取り組むなど、今後も図書館サービスの向上に取り組んでまいります。
37		P22	「微減しています」と自然現象みたいに書いてありますが、それでよく教育文化都市を標榜しますね。教育委員会はもっとがんばらなくては！（文化にお金をケチって、どうやって未来が守れますか！？）	
38		P23	図書館は身近のところにあって本を読む、借りるだけではなく情報発信の役割をもち、「市民の生活上の課題やニーズを持ち寄り、解決策を見つけ他の人も分け合う広場」だと言われます。厚生労働省は地域包括ケアシステムの構築を進めています。豊中のように自治会の組織率も低く地域の核の少ない町では、図書館は地域の集いの場であり情報を手に入れる場でもあります。地域の宝箱である図書館をなくしていくことは地域の崩壊につながります。	螢池・高川につきましては、予約受付、新規登録などに対応できるよう、職員を配置したサービスを考えております。、今後も市民の皆さんの資料、情報へのアクセスを保障し、他機能との連携によりサービス効果の最大化を図り、地域の知の拠点としての役割を果たしてまいります。
39		P23	利用状況が悪化していることを示して、図書館費削減の口実にはしていますが、悪化していることを踏まえて、それをどう打開するかの手を打つことが文教都市の使命！！打開努力を示し、実行することが先決です。	（仮称）中央図書館を核とした新たな施設配置と「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」によって、貸出利用の促進と行きたくなる図書館づくりに取り組み、利用者数の向上に取り組んでまいります。
40		P23	私の世代は、新学制の初年度生として学びました。「文化都市豊中」を学校教育の中で、また外でも、繰り返し耳にして育ちました。それは今でも大切な豊中市の方針であってしかるべきものと思っています。身近に図書館があり、図書館資料利用はもちろんのこと、集会（学習・学び合い）もできる場として機能していることは、まさに文化を支える土台。それを縮小する計画。方向が反対だと思います。単に公共施設面積を縮小という枠の外にあるべき問題だと考えます。	意見No.11に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築し、サービスの向上をめざすため、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要です。例えば野畑図書館は集会室や自学自習スペースの利用が多い点、東豊中図書館は子どもの利用が多い点等各館の利用状況を考慮し検討してまいります。
41		P23	豊中市の特徴である市民とともに作ってきた図書館ネットワークを崩してしまうのではなく、既設館を含めて現在の図書館すべてを独立した図書館として維持し、人的配置（正規の司書職員）を行ってください。そのうえで各館が地域のニーズに応じた特徴を持つことは良いことです。庄内・千里・野畑・東豊中図書館を新しい地域館とし、螢池・高川・いぶき・服部図書館さらに「新設」を検討している豊中駅周辺と緑地公園駅周辺を加えて分館とし、新しく構想している中央館を中心とした12館構想をぜひ推進してください。	
42		P23	私は豊中生まれで70歳の今まで、ずっと豊中で暮らしてきました。小学校3年生の時から、土曜日には住んでいた曽根から岡町の図書館に、10円玉を握って阪急電車に乗って、1人で図書館に通いました。当時子どもの電車料金は片道5円でした。土曜日ごとに、図書館で、いろいろな本に出会い、いろいろな世界を知りました。行ったことのない国や地方や、会ったことのない人、知らないことなどに触れることができました。そのことが、自分の人生に大きな影響を与えました。高校生や大学生になった時は、なかなか図書館通いはできなくなりましたが、大人になってから仕事を始めて、また図書館通いを始めました。仕事に必要な資料調べや生活に必要な情報、子育てのことなど、身近に利用できる図書館があったからこそ、自分は仕事も定年まで続けられ、生活に必要な情報も得られ、本に親しめる生活ができたと思っています。住んでいる場所に、すぐ行ける図書館があって、たくさんの本に出合える機会があつてこそ、豊かな情報や読書の楽しみが得られる生活ができていると思っています。その身近な図書館が、減ってしまう今回の市の図書館みらいプランに危機感を感じます。これから、もっと年をとっても歩いて行ける身近な図書館、ゆったり本を選んだり、本が読める図書館、調べ物もできる図書館、そんな図書館が、すべての豊中市民には必要だと思いますし、子どもや孫にも残していきたいと思っています。豊中市が、人口が増える市になる要因に、図書館の充実も含まれていると思いますし、私も、他市に引越したくない理由の1つです。図書館の充実、賢明な判断のできる市民を作る大きな要因になって、豊中市を住みやすい良識のある街にしている一因だと思っています。豊中市民にとって貴重な財産である今ある図書館を、改修は必要なものかもしれませんが、数を減らしたり質を下げることは市民として、決して見逃すことはできません。図書館の数を減らす今回のみらいプランを作りなおしていただきたいと思っています。図書館を減らさないでください。むしろ増やしてほしいです。今後も、ゆったり本が読める人と人が本を通して出会うことのできる場所づくりをしていただきたいと思っています。よろしく願います。	
43		P23	歩けるぐらいの周辺に公立の図書館があることはとても大切な市民の財産です。高齢者や乳幼児をかかえている方々が利用しやすい図書館を今後も存続してください。	
44		P23	「教育文化都市の発展に寄与」とありますが、地域から開架式の図書館施設が撤退することは、教育と文化の衰退になるとしか思えません。豊中市の方針である教育文化先進都市の名折れだと思います。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
45	シビックプライドの醸成	P23	p.18の図12について。徒歩圏内に多くの図書館があることで、市民の利用が促進され、またウォーカビリティのある都市づくりに貢献します。外出のきっかけとなることで市民の健康維持にも寄与することになっているのではないのでしょうか。図12のような形で、みらいプラン策定後の想定案を用いて徒歩圏の変更状況を比較すべきだと思います。中央館が大きくても、遠方にとっては高齢者や子ども連れなどは使用しにくく、歩行という緩やかな運動機会を失うことで市民の体力の低下にも繋がりがねません。公共交通機関で来館できたとしても、定期券等を所持していなければ交通費がかかってしまい、そのため使用に二の足を踏む人も多はずです。市民すべてに開かれた図書館とは言えません。そして、豊中市の魅力を低下させ、定住先に選ばれないことになれば、市民の減少につながります。将来予測での市民の減少を押しとどめ、むしろ新規移住者に選ばれ、子育て世帯の増加が望まれる状況を推進するためには、現状の図書館機能を保ったうえで、サービスポイントを公共交通機関の近くに置くくらいの積極的な施策を企画すべきだと思います。	(前項の市の考え方参照)
46		P23	もうすぐ小学生になる子どもと未就学児がいます。高齢者、親子など歩いて行ける所にあるから利用したいと思っているのに、遠くになると行けません。基本コンセプト「つながる。わたしの図書館で」とあるのに図書館を減らすのは納得がいきません。利用者が少ないと言うなら、子どもを増やす、また子育て世帯に魅力あるまちづくりをするべきではないですか。歩いて行ける図書館は、その魅力の1つだと思います。	
47		P23	図書館の充実、都市そのものの魅力や個別資源の価値を高めることにも繋がります。市民の学び、安らぎ、交流の場であり、子どもたちを育む場です。要は人であってデジタルだけではできないことです。すべての市民の身近にあって、市民に寄り添い、市民をつないで、みらいプランが掲げる「つながる。わたしの図書館で。」が生きる図書館ネットワークをめざしてください。「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることなく、また、貧困が世代を超えて連鎖することなく、積極的に自分の生き方を選択し自立できるように必要な環境整備や教育を受ける機会均等を図り、全ての子どもが夢と希望を持って成長していける地域社会の実現をめざす」と宣言する豊中市であり続けるために、すでに各地域にある将来を見据えた資源としての図書館を有効活用しないのは、すべての人の「わたしの図書館」には繋がりません。	
48		P34	野畑、東豊中図書館は分館として残すという案ですが、現在と規模や図書館のあり方が激変してしまいます。文教都市豊中に恥じない現在の豊中の図書館は日本に誇るものです。図書館は知の宝庫であり、新しい世界との出会いの場所で、毎日図書館には幅広い世代が訪れています。資料を保存し、未来へつなぐ役割をもった施設です。居場所がなかった子どもを救った図書館、未来へとつなぐ重要な場所、図書館です。こんなに面積を減らして今までのような活動ができるのか疑問です。	
49		P23	私が豊中市に住み始めた頃は豊中市は文教都市ですと胸を張って言われていました。それから子どもを産み育て今に至っています。豊中市もいろいろ変化してきましたが、図書館が市民の要望に応じてそれぞれ建設されてきたことは大きな誇りです。時代の流れとともに図書館の利用者数が減ってきているような数字が示されていますが、まだまだ必要としている人たちがたくさんいると分析してほしい。そして図書館がもっともっと利用されるように受け身でなく（いろいろ工夫されているのも知っていますが）改革して若い人もどんどん利用する楽しい図書館になってほしい。歩いて行ける所に図書館を！！	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
50		P23	「西の鎌倉」の誇りを投げ捨てないでください。我が国の中でこれだけの文教都市はそうないではありませんか。効率一辺倒の潮流に危うさを感じます。	
51		P23	文教都市と言われてきた豊中市。効率性だけを考えていては活字離れの現象から脱却できるとは思えません。本に親しむ、文字に親しむ、豊中の文化の灯を消さないでください。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
52	シビックプライドの醸成	P23	<p>まず施設の配置について、中央館（曾根駅・岡町駅周辺・・・豊中駅周辺は断念）庄内・千里の他に規模縮小で野畑、東豊中と構想されています。蛍池、服部、高川などは、サービスポイント化で図書館は廃止されます。文教都市として、4つの図書館を中心に分館分室、学校図書館・動く図書館と市内全域に目配りしてきめ細やかに図書館行政を市民に密着して配置されてきました。その基には、個人の居宅や地域の会館を借りて、子ども文庫活動が展開され、文庫運動とともに市に要望をあげながら市民と二人三脚で市内の図書館ネットワーク網がつくられ図書館行政は進んできました。今日まで市民の知的要求・くつろげる書齋として資料を提供し、書籍を紹介してきました。そもそも、この意思形成過程からの歴史的な市民財産をどのように評価してきたのでしょうか。疑問に思っています。この市民との協働・民主主義的展開の象徴と言うべきこれまでの豊中の図書館行政は、市民の誇りです。ところが、市は単に経済的な側面から見てのみで評価をする大変間違った展開をしてしまったと思います。しかも、図書館利用者及び市民にひろく広報をせず拙速に決めようとしていることは市の歴史に汚点を残すものとなります。図書館行政で最も尊重しなければならない歴史的経過も含めて今一度、市長以下担当職員の方が学びなおしていただきたいと意見を申し上げます。そして、拙速にすすめるのではなくじっくり時間をかけて市民が納得するように検討すべきです。</p> <p>また、利用者が少ないことも廃館の理由にあげておられます。インターネットが普及し、市民の生活状況は変化しています。しかし、図書館は時流に流され、それを容認する施策であってはいけないと考えます。人として文字に親しみ、本の背表紙の文化を享受し、情報を入力する。人間の本来の知的感性を醸成する施設として、市民に親しんでもらえるかこそ行政は知恵も工夫も手間暇かけて進めなければいけない部門だと考えます。文教都市豊中を真の意味で大切に展開していただきたい。</p> <p>経済効率優先で、蛍池周辺と服部地域から図書館をなくす、地域格差を新たに生み出すのは、成熟した都市として最も避けるべきことです。まず、この問題を通して本来の図書館行政はどうあるべきか庁内で再度検討すべきです。</p>	(前項の市の考え方参照)
53		P23	<p>図書館は、すべての人、すべての年代にとって宝であり、知の宝庫です。豊中の充実した図書館は非常に貴重な財産です。すべての人が知的欲求を抱いたとき、それに応えてくれる貴重な場です。正規の図書館司書や司書教諭が減らされ、市民や学校・園の要求にこたえられなくなってきた状況はとても残念ですが、それでもなお、住民が求めたときに歩いて通える図書館があることはとても大事です。</p>	
54		P23	<p>「知の拠点」は近くにあつてこそ。行ける時に行けないと意味がないです。動く図書館も、その時間帯に合わせて、所定の場所に行くことは大変です。ましてやバス・電車に乗ってまで行くことはさらに時間と手間を要します。図書館を減らして、豊中市は「文教都市」と何をもっていうのでしょうか。</p>	
55		P23	<p>せめて今くらいの図書館数がなければいけません。サービスポイントではこれまでの利用者ニーズを受け止められません。中央館の周りの人のみ恩恵を受けて、実質利用者は減るのでないでしょうか。文教都市豊中にはよろしくない。図書館を減らすのは、豊中市が学びや文化活動を軽視している自治体だと誤解されかねません。</p>	
56		P23	<p>4～5年後の豊中の図書館を現在と比較すると、現在の9館のネットワークから、現状以上1館、現状2館の合わせて3館のみが残り、他の図書館は消滅か、大幅縮小となります。言わば新中央館1館主義の街となるでしょう。当然学校との連携のベルトもやせ細り、次世代への文化の伝達もやせ細るでしょう。地域の文化、交流の場も激減します。それらのマイナスを新中央館が補えるとは思えません。新中央館のみ登えているけれど文化は減びやせ細る街になってほしくありません。これは人権の問題だと思えます。</p>	
57		P23	<p>(仮称)中央図書館基本構想として現状よりも図書館の数を減らすことに納得できません。地域の皆さんが運動して作られた図書館はこわさないでください。</p>	
58		P23	<p>豊中市に転居する前に、豊中は図書館が充実していると聞きました。豊中市としての誇りです。絶対に減らしたり、こわしたりしないでください。</p>	
59		P21	<p>交通便利性の高い場所への施設配置に努め、電子書籍やアウトリーチサービスなどによる貸出利用の促進とありますが、駅周辺に住んでいる人ばかりではありません。豊中駅で乗り降りする人がわざわざ途中下車してまで中央館を利用するのでしょうか。安直な考え方のように思えます。「文教都市」と呼ばれるブランド価値を損なわないかと心配します。</p>	<p>豊中駅には通勤や買い物途中にご利用いただけるよう、新たにサービスポイントを設置する予定です。また、今後の(仮称)中央図書館の選定にあたりましては、現在、みらいプランにおいて、公共交通等のアクセシビリティ、民間施設との近接等による利便性、公園等の周辺・立地環境などを評価条件として考えているところです。</p>
60		P23	<p>野畑、東豊中図書館は分館として残すという案ですが、現在と規模や図書館のあり方が激変しています。文教都市豊中において、豊中の図書館は日本に誇るものです。図書館は知の宝庫であり、新しい世界との出会いの場であり、毎日図書館には幅広い世代が訪れています。資料を収集保存し、未来へつなぐものです。居場所がなかった子どもを救った図書館、未来へとつなぐ重要な場所図書館です。こんな面積を減らして今までのような活動ができるのでしょうか。</p>	<p>新たな施設配置を進めることが必要です新たな施設配置における分館につきましては、地域の交流拠点、子育て支援、学びの支援などそれぞれの地域ニーズに合わせて、特色あるサービスを展開してまいります。</p>

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
61	シビックプライドの醸成	P23	私は友人から「豊中の図書館が危ないの」と聞き、びっくりした。私自身60才まで仕事をしていたので、それまで市の図書館を利用したことはほとんどありませんでした。（職場が小学校なので、読書環境に恵まれていたし、必要な本は購入することが多かった。）3年生の担任時、建って間もない野畑図書館まで社会見学に子どもを引率した時、初めて図書カードを作りました。多分50才に近かったと思います。しかしその時、子どもたちといっしょに見学した野畑図書館の美しい建物に心魅かれました。以来、何度か図書館を利用しましたが、本格的に利用するようになったのは、2010年の退職後です。居住地から東豊中図書館は徒歩圏内にありますが、千里も岡町も散歩がてら歩いて行けます。コロナ禍の中、散歩するようになり、豊中は散歩コース、公園などたくさんあっていい町だったのに、この年になるまで気づいてなかったと後悔しました。昨年乳がんで手術を受け、体力維持のため、二ノ切プールに通い始め、さらに豊中の良さを感じています。そんな豊中市が文化教養の宝庫とも言うべき図書館、何より歩いて行ける（それはつまり誰でもいつでも利用できるための最大の利点）図書館を減らすのだと知って、悲しさと怒りで一杯です。是非再考してください。 ※乳がん発症の時、長男の妻と岡町図書館に行き、関連書籍の多さに感動し、10冊借りて、病気への構えができました。ビバ！図書館です。	豊中市立図書館の基本目標として掲げた「市民がより豊かで潤いのある文化的な生活を営むために、必要な資料や場を提供し、市民の人間の・文化的教養の醸成を支援します」という理念のもと、今後も多様なニーズの把握に努めてまいります。
62		P23	営利企業でない地方自治体が「効率化」の名の下に図書館縮小、再編を進めるのは文化都市豊中に暮らす市民のためになるとは理解できません。	基本構想、みらいプランでお示ししているように、経済効率だけではなく、あわせて多様なニーズに対応するサービスの充実もすすめていきます。図書館施設の老朽化対策とともに、市有公共施設の持続可能なあり方、増大する社会保障関係経費を克服する課題と向き合いながら、基本構想とみらいプランのもと、多様なニーズにお応えし、行きたくなる（仮称）中央図書館を核とした新しい図書館サービス網の構築に取り組んでまいります。
63		P23	中央図書館に機能を集約するのではなく、地域の図書館を存続させてほしいです。中央図書館が滞りしやすくなり充実したとしても、公共交通機関を使ってもたは車で、日常的に足を運ぶのは難しく、訪れてこそ新しく知ることができる本も多いです。利用者が少なくなってきたことですが、地域の図書館がいくつか消えてしまうのであれば、さらに本離れが進んでしまいます。私がよく利用している野畑図書館は、幼児から大人までの憩いの場の一つになっています。本をたくさん自由に購入できない野畑図書館は廃止とはならず「分館」とのことですが、地域の場として機能を維持してほしいです。豊中市は図書館教育が充実しています。住まいに豊中市そしてこの地域を選んだのは、図書館関係の充実も魅力だったのです。予算が厳しいのかもしれませんが、さらに施設維持費・人件費がかかるのでしようが、なんとか予算を組んで、地域の交流の場、新しい本の出会いができる「地域にある図書館」を維持して欲しいです。	野畑図書館は昭和63年（1988年）の開館以来、地域の人々が気軽に集える場所としての機能も果たしてきました。近隣に公共施設がないため、地域の交流拠点としての機能は必要だと考えます。新たな施設配置における分館につきましては、それぞれの地域ニーズに合わせて、特色あるサービスを展開してまいります。
64		P23	今ある図書館の存続をお願いします。本来はもっと細かく（各小学校区に1つくらい）かつ大きなものがあっても良いと思いますが（拡充希望）。 コロナ禍も3年経ち、戦争も集結せず、物価高騰で市民の懐も寒くなっております。雑誌にしても書籍にしても、以前より簡単に買えなくなっています（書店も減っています）。そういった折り、過去の先人たちから脈々と受け継がれてきた知の遺産ともいえる書物（書籍、本）に誰でも、いつでも、どこでも簡単にアクセスできることが（つまり簡単に知識を入手できることが）住みやすい豊中につながると思います。 みらいプラン（素案）では、既存施設の規模縮小や廃止が計画され、市民にとっては、住みにくい豊中市に繋がる道だと思っております。より一層の充実の方向こそ望ましいと考えますが、本当に市民1人ひとりのことを教育委員会及び事務局の皆さまがお考えであるならば、この規模縮小計画はどうかなかったことにしていただけますよう、今一度よろしくご検討ください。	今後、新たな図書館サービスとして、電子書籍の拡充やオンラインでの新規登録などの非来館型サービスとともに利便性の高い交通結節点でのサービスポイントの設置などを予定しております。
65		P34	令和10年（2028年）に中央館が整備される前に、分館がいくつも閉館してサービスポイントになるというのは、あまりにも一方的で市民にとって不利益だと思います。そもそも豊中市の図書館の数の多さは他市に住む友人から羨ましがられ、さすが中核市と言われたものです。それが一気に図書館の数を減らして、市民の足が遠のくというのはいかがなものでしょうか。これまで中核市として、他市よりも優れていたポイントをむさむさ手放すのはどうかと思います。文化都市豊中に住むものとして、ご一考をお願いします。	基本構想の策定の背景で述べましたように、図書館施設の老朽化対策とともに、市有公共施設の持続可能なあり方、増大する社会保障関係経費を克服する課題と向き合いながら、基本構想とみらいプランのもと、新しい図書館サービス網の構築に取り組みます。
66		P23	「豊中市立図書館みらいプラン～すべての人の『私の図書館』をめざして～」言葉だけ美しく中身は私たち市民の願いとはかけ離れています。「すべての人の私の図書館」をめざすのなら、今ある図書館を3つも廃止してサービスポイントにするなどという案は撤回してください。 従来の9図書館2図書室は身近な図書館として市民から愛されているので絶対残してください。	
67		P23	現在ある図書館は市民の運動でつくられたものです。まさしく「わたしの図書館」新たにつくることに反対しませんが、減らすのは反対。現在の図書館は残して充実させて欲しいです。	
68		P23	教育文化都市と胸を張って言えないでしょう。地域の身近な図書館は存続するべきです。地域文化の中心である図書館を大切にしてください。	
69		P34	図書館は誰でもどこに住んでいても等しく使えて、過去、現在、未来すべてのものについて知る、学ぶだけでなく、生活の中で潤いも含めたあらゆる資料を提供する社会教育施設です。 町の文化としての豊中市内の図書館は質・量ともにすぐれ、全国に誇るべきものです。またすべての市立学校に学校司書が配置され、学校と図書館の連携により、図書館教育が行われてきました。 その図書館が閉館、縮小というプランに驚くとともに憤りを感じました。特に蛭池地域住民として、蛭池図書館が閉館しかも上半期閉館、下半期工事とはとんでもありません。 今ある図書館の閉館、縮小に反対、蛭池図書館の存続を願って意見を述べさせていただきます。	蛭池・高川につきましては、予約受付、新規登録などに対応できるよう、職員を配置したサービスを考えております。今後も資料、情報へのアクセスを保障し、学校図書館等への支援を通じて、子どもたちの学びや成長を支える役割を図書館は果たしてまいります。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
70	蔵書	P23	汎用性の高い蔵書と記されていますが、どういった基準で判断するのか疑問を持ちます。勝手に決めないでほしいです。いろいろな分野の本を手にとってみたい。蔵書の本数を減らさないよう要望します。地域で子どもを支える機能が低下することを心配します。	(仮称)中央図書館基本構想では、魅力ある棚づくりを行う観点から蔵書構築の方針を定め、中央館・地域館・分館・サービスポイントの豊中市立図書館全体で約100万冊の蔵書を保存することとしています。この蔵書数を確保するため(仮称)中央図書館では約55万冊(開架約30万冊、閉架約25万冊)の蔵書を予定しています。電子書籍貸出サービスや自治体間の相互貸借システムも活用し、貸出利用の促進に取り組んでまいります。
71		P38	「蔵書の充実を図り、貸出利用を促進する」とありますが、図書館にとって本は財産だと思います。これまでの蔵書もきっちり保持、保存したうえで充実を図ってほしい。中央館ができるまで一時的に使えなくなる形でも構わないので、保存しておいてほしいです。これまで出版された本と、これから出版される本は全く別物です。冊数を合わせても蔵書の厚みが全く違います。それに何より税金で買った市民の財産です。大切にしてください。	
72		P38	蔵書は冊数ではなく、多様なニーズに応えられる厚みの充実を願います。	
73		その他	「(仮称)中央図書館構想」では蔵書の点数をどこまで網羅できるか、この点を最優先課題として頂ければと希望します。老朽化した公共施設の再構築が、蔵書点数充実ではなく財政面からの優先順位づけであれば、「(仮称)中央図書館構想」は意味を成さないとと言えます。少なくとも、1000坪以上の建物に、100万冊以上の蔵書が最低必要です。	
74		P23	図書館の延床面積は現在の9図書館2図書室に比べ64%になります。本の冊数もそれに付随して大幅に減ることは目に見えて明らかで、図書館としての機能、市民の知る宝庫としての役割を果たすとは思えません。	
75		P38	新たなサービス展開として、蔵書を充実とありますが、激減した図書購入費を増やらず手立てがあるなら教えて欲しいです。	図書購入費は令和3年度(2021年度)から増額しており、令和4年度(2022年度)につきましては、その一部を電子書籍購入費用として活用したもので、総額は変わっていません。
76		P38	蔵書の充実による貸出利用の促進とありますが、蔵書を充実しただけでは利用されないでしょう。例えば、サラリーマンである私があまり借れない理由は文庫本が少ないからです。通勤の往復にあのデカイ本を持ち歩くのは負担です。	これまで図書館を利用しなかった人を含む市民の多様なニーズにお応えするため、新しいサービス展開に取り組むとともに、ニーズの把握について来館者だけでなく非来館者へのアプローチのあり方など研究します。
77		P38	今後の蔵書充実にあたっては新聞のタイトル数を増やして欲しいです。	新聞については、限られた予算と保存スペースのなかで購入しているところで、現状では、新たなタイトルの追加は困難と考えますが、中央図書館構想の実現に向けてご意見も参考にしながら、引き続き蔵書構築に取り組んでまいります。
78		その他	豊中市の現状に対する市民の要望は多種多様にあると思われませんが、個人的には蔵書点数の少なさに不便を感じています。現在出版流通市場における入手可能な点数は、約50万点です。加えて新刊の発行点数は年間7万点前後もあり(当然同規模の絶版があります)、これを網羅充足できる全国の市町村立公共図書館はほとんどありません。大阪に店舗を構える数軒の大型書店は、50万冊(点数ではなく)以上の在庫があります。何か調べる必要がある時は、公共図書館よりも梅田の大型書店に行くしかありません。	『出版指標年報2021』によりますと令和2年(2020年)の書籍新刊点数は68,608点。ご指摘の通り本市の図書館で網羅充足できる現状にありません。この新刊点数にはコミックや学習参考書なども含まれております。基本構想では、本市の収書方針に基づき、総出版数に対する図書館における購入タイトル数の比率を50%以上に設定し、市民の多様なニーズに応えられる蔵書構築に努めます。引き続き本市の蔵書と合わせて他市との資料貸借システムを活用し、情報アクセス環境を維持、発展させます。
79		その他	公共図書館に足が向かない一因として、NDC(日本十進分類法)だけに拠った配架基準の見にくさもあります。NDC9類を除くと専門書と入門書が混在しているため、ある程度の読書知識が無いと選書に苦労します。その点、大型書店の配架は専門書と一般書が区分されていて、利用者には分かりやすくなっています。全国の公共図書館であれば、滋賀県の配架基準が一般来館者には比較の見やすくなっているのではと思っています。	NDC(日本十進分類法)による本の排列により、どこの図書館でも目的のテーマにアクセスできるメリットがあります。標準化された排列方法を基礎に、ご指摘のような入門書から専門書まで混在化していることによる不便さなども解消されるよう、他事例も参考にしつつ、皆さまの利用しやすい資料の配架について工夫してまいります。
80		その他	最もニーズの高い「実用書」とは、書店で言うところの「婦人・実用書」を指し、専門書に対する入門・ノウハウ本では無いと思われず。図書館の配架はNDCに基づいているため、入門・専門書が混在して探し難いと言えます。書店の配架と同様に、「婦人書(NDCにこの分類は無い)」を独立して欲しい、と言うニーズと思われず。	
81		その他	資料費予算には限りがありますから、これをどう克服するかは豊中市だけでなく全国的な課題と言えます。新刊の平均定価は文庫等を除いて2000円前後ですから、年間必要と思われる5万点の新刊を購入するだけで、最低1億円の資料費予算を必要とします。9館もある豊中市図書館の予算は8000万円程度ですから、自ずと購入できる点数は限られ、貸出ニーズの高い「日本小説」ばかりが重複して蔵書される事となります。現行は1館あたりの資料購入費は全国的に見てもかなり貧弱で、現状はとも文化都市と呼べるレベルではありません。中央図書館構想にはいかに資料費予算を継続して維持できるかが、場所等よりも重点課題となります。	基本構想(P5)でも本市の財政上の課題について触れましたように、新刊図書をすべて購入するだけ図書館資料費を確保することは困難な状況にあります。みらいプランでは蔵書の充実を今後のサービス展開の柱の1つに掲げ、ご指摘のように教育文化都市として、市民の皆さまが生涯にわたり学び続けることのできる環境を作ってまいります。
82		その他	利用者からすれば蔵書希望はベストセラーでしょうが、図書の質を優先して資料を購入すべきです。また、著作権許諾によって点数が限られる「電子書籍」よりも、永く蔵書できる紙の本を優先すべきだと考えます。	話題の図書を楽しみにされている方や入門書から専門書まで幅広くお読みになる方、さまざまな市民の皆さまのニーズに応える蔵書構築に取り組んでまいります。電子書籍の利点については積極的に活用していく必要性を感じるとともに、ご指摘の側面についても業界動向を見極めながら持続可能なデジタル図書館の運営に努めてまいります。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
83	蔵書	その他	出版市場についても、市場規模が縮小し衰退しつつあります。全国に3300館在る公共図書館が新刊をすべて買い取ればよいのですが、貸出を優先する全国の公共図書館は、限られた図書に集中しています。読書離れが社会的現象ですが、これでは出版点数は先細りとなります。現在出版流通市場は約1兆円強と、最盛期の半以下となりました。減少の多くは雑誌の衰退（ここ数年返品率は膨大です）によるものですが、書籍も微減を続けています。これを下支えするだろうと希求されていたのは公共図書館ですが、これも資料費予算は最盛期400億円前後から半額近くまで落ち込み、学校図書館予算を加えても600億円程度しかありません。	蔵書構築は市民の図書館利用を支える根幹の業務の1つと位置付けています。蔵書図書の購入、蔵書構築にあたりましては、基本構想で示しました蔵書構築の方針（p50）をご参照ください。
84		その他	来館者が求める「市立図書館で充実するとよい資料」は「実用書・読み物・新しい本」であって、裏返せばこれは現行の蔵書構成への不満と今後の図書館再編への期待の表れです。公共図書館や学校図書館で最も充実している「児童書」のニーズがそれほど高くない事からも、蔵書数の現状は充足しているが故と思われます。ここで問題なのは、「実用書・読み物・新しい本」と具体的にどのような資料を指すのかです。	今後の蔵書構築にあたりましては、ご意見も参考にしながら、基本構想で示した方針（P50）に沿って、取り組んでまいります。
85		その他	「読み物」は、完全に図書館用語であって、書店では文芸書と呼ばれベストセラーの要素が高い分野です。公共図書館の「NDC913.6」コーナーはかなり充実していますが、ベストセラーに予約が殺到する傾向があり利用者の不満が高まります。複数冊を重複蔵書して対応しても、流行期をすぎるとやっかいなお荷物となります。また、複本問題は、書店・著者からも不評の声が多くあります。	ご意見も参考にしながら、蔵書構築に取り組んでまいります。関係する評価指標としては、総出版数に対する図書館における購入タイトル数の比率に注目し、基本構想の進捗管理を行うことしております。令和3年度（2021年度）は52.0%。
86		その他	公共図書館に「新しい本」が配架されるのは、図書装備やデータ作成などを要するため発売後1か月程度掛かります。また、公共図書館には余り蔵書されていない「文庫・新書・コミックス」は、新刊としての賞味期限が短い事もあって、どうしても読みたい利用者は書店で購入せざるを得ません。これらが利用者の不満に繋がっています。ただ「新刊の図書館配架は発売後一定期間を置く」などの法令が検討されているなど、図書館再編成を行っても不満が解消される見込みはありません。	発売後数週間で契約事業者から納本される場合もございますが、ご指摘のようにおしなべると1か月前後提供するまでにお時間をいただいています。出版や物流に関わる業界の課題とも関わることから、今後も、引き続き事業者とも連携し、多様な資料をすみやかに提供できるよう研究に取り組んでまいります。
87		その他	紙の本では利用者の不満解消は難しいものの、今後増加する電子図書館に至っては紙の本よりも更に規制が厳しくなります。著作権許諾によって購入費用は紙の本の3倍前後と高騰し、更に公共貸与権が付加されます。電子図書館は家庭でも利用できるため、図書館そのものが不要になりかねません。	市民ニーズを把握しながら、適切な蔵書構築に努めてまいります。
88		その他	蜜池図書館では読みたい本を豊中市以外の図書館から取り寄せてもらえて感謝しています。	引き続きサービスをご利用いただけるよう検討してまいります。
89		P24	・野畑図書館には30万冊を超える蔵書、書庫があります。それらの蔵書や、その他サービスポイント化することで無くなってしまう図書館の蔵書はどうなるのでしょうか。 ・野畑図書館の空いたスペースに書庫を残し、削ったエリアの蔵書、サービスポイント化することによって行き場を失う蔵書を選別して保管する場所として使用していただきたい。 （アマゾンでも買えない絶版本が図書館の蔵書にはあります。それらは手に取れる知的財産です。どうか地域住民の手に取れる場所に置いて欲しいものです。）	蔵書に関する考え方は基本構想の蔵書構築の方針にお示ししています。本市の保存資料として100万冊を想定しています。内容が利用に適さなくなった資料や、汚損により一般の利用に耐えなくなった資料は除籍、あるいは買い替えなどにより資料の新鮮度を維持します。蔵書としての使命を終えた資料の一部は、引き続き市民協働事業でリサイクル販売するなど有効に活用してまいります。
90	図書館費	P22	現状施設を維持するための更新改修費用として今後10年間で41億円かかるとの見込みのようですが、その費用を捻出すべきでないかと判断する考え方を教えてください。地域人材に運営を任せることで人件費を抑制できる可能性を検討してください。歩いて行ける距離に図書館がある状況を維持したいです。	基本構想の策定の背景で述べましたように、図書館施設の老朽化対策とともに、市有公共施設の持続可能なあり方、増大する社会保障関係経費を克服する課題と向き合いながら、基本構想とみらいプランのもと、新しい図書館サービス網の構築に取り組めます。
91		P22	財源不足を補うために、寄付を募るなどの手段も考えられます。募集のための手間もかかると思いますが。	将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置を進め、効率・効果的な運営に取り組むことが必要と考えております。なお本市では12項目の寄附活用メニューを設けており、教育振興基金において寄附を受け付けています。
92		P22	中央館を設置しても、歩いて行ける図書館でないと意味ありません。サービスポイントでは、子育て世代、高齢者にとって交流の場ではなくります。施設の老朽化というのであれば、こんな大きな計画よりも、今ある図書館を改修するほうが財政面でも現実的ではないですか。	基本構想（P5）で示しております試算では図書館を含む市有公共施設等を現状維持した場合、毎年38億円が不足するという結果が出ています。さらに社会保障関係費の増大などの諸課題と向き合い、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築に取り組んでまいります。
93		P22	子育てをする若い女性が住みたいと考える条件は、「身近に図書館があること」と山崎マリ・平田オリザの対談で話されました。若い世代の人口増のためにも、図書館への予算増を！	意見No.1に対する市の考え方でお示したとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要です。そのため、サービスポイントの設置とともに、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」を今後検討しサービスの充実に取り組んでまいります。
94		P22	教育文化都市を標榜している豊中市が、全国と同規模の都市の平均をとって、図書館を含めた公共施設等は80%にする、市民1人あたりの図書館費を2000円にする目標設定してから、図書館は行財政改革の主たるターゲットとなっています。正規職員の著しい減少はもちろんのこと、豊中市立図書館の特色である学校図書館との連携や地域に張り巡らされたネットワーク網、子ども読書活動推進事業、ブックスタート事業など数々の市民との協働事業などを考慮しない行政指標により、先進的と評価されてきた豊中市立図書館活動を、気がつけば府内上位10都市の平均より低い項目のほうが多いという残念な結果を招いています。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
95	図書館費	P19	市民によるタウンミーティング(1/28開催)に参加しました。行政から「みらいプラン(素案)」の説明があり、資料も配られました。それによると現状分析の部分で、平成27年(2015年)以降、貸出人数、利用者数ともコロナ禍までは増加傾向にありました。講演の中で紹介された元立命館大学常世田良教授の分析では、市民1人あたりの図書館予算が他市と比較して少ないにも関わらず、館数の多さがそれをカバーしてサービス水準を高めているとあります。そう考えれば館数を減らすことが図書館の機能・役割を高めるという理論は「豊中においては」成り立ちません。そもそも、図書館予算(図書館費?)が「高い」という根拠はどこにありますか。理屈が通らない図書館の再編・縮小は止めるべきだし、今の図書館をはじめ教育文化政策こそが豊中の人口増に大きく寄与し、豊中の魅力を高めていると思います。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年(2017年)3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度(2014年度)比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年(2021年)2月に(仮称)中央図書館基本構想を策定し、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
96		P22	市の公共施設が一斉に老朽化していく中で、同規模の建物を建て替えることが難しいことはわかります。その兼ね合いの中での計画であるという説明が必要だと思います。	
97		P22	図書館費については12月議会ではいろいろなりとりがありました。他市と比べても豊中は低い方でした。市長、教育長答弁でも「従来の考え方で限界を感じる」というような発言もありました。それなのにまだ2000円にこだわっているのはどうしてでしょうか。12月議会の前にすでにこのプランがあったとしか思えません。文化教育都市豊中、図書館行政では市民との協働で全国に誇れる実践をすすめてきた豊中です。その誇りにかけて、真につながるわたしの図書館をめざしてください。	市民一人あたりの図書館費については、目標を取組み始めた平成25年度(2013年度)当初の人員費をはじめ、最低賃金や消費税、光熱水費の社会経済要因などを加味して、令和3年度(2021年度)の図書館費を算出したところ、市民一人あたり2012円であったため、一定目標値を達成したものと考えています。このことから、課題整理の「効率的な図書館運営」に記載の「また、市民一人あたりの図書館費の抑制と図書館サービスの充実を考えた際、昨今の著しい社会変化や市の施策を考慮し、図書館事業のあり方を見直す必要があります」を削除します。引き続き、効率的で効果的な図書館運営に取組みながら、持続可能な図書館サービスの提供に努めてまいります。 (豊中市立図書館みらいプランP22)
98		P22	私は図書館の利用を日常生活で欠かせないものとして考える市民です。豊中市立図書館協議会の答申で「学びのまちづくり」を実現するとあり感動しました。公共図書館は社会教育の場であり、民主主義社会の土台と考えています。豊中市は、他市以上に市民が活発に図書館を利用していることを誇るべきだと思います。ところが資料購入費が北摂7市で最下位となっています。さらに市民1人あたりの図書館費を2000円に減らすとされています。民主主義のコストと考えられませんか。学びのまちに図書館経費は必須です。公共の力を強くしてください。	
99		P22	蛍池図書館は資料を払わなくてもよくなることで閉館する1つの理由にされています。資料によれば図書館費は年々減り続けています。令和3年度は市民1人当たり2501円です。近隣都市と比べて非常に低い。吹田市は3672円、高槻市は3224円、枚方市は2968円と聞いています。議会で教育長は「コスト面だけの考えでは将来に限界を感じる」と答弁されています。図書館を減らし司書を減らすならば、さらに図書館経費はさがっていくでしょう。こんなことで文教都市と言えますか。	
100		P22	図書館費の削減が進められ、図書館員・司書が減らされています。地域住民と図書館の関係が希薄になりつつあり、このプラン通りに進むと地域館・分館の人的配置がさらに減ることが予想されます。地域館・分館の機能を大事にしてほしい。市民が文化的な生活をおくるには、身近な図書館の存在が不可欠です。サービスの担い手である司書を減らさないでください。	
101		P22	「市民一人あたりの図書館費の抑制と図書館サービスの充実を…」と書かれていますが、豊中市の図書館費は近隣自治体と比較しても少ないのに、まだこれ以上減らすのですか。すでにこれまでコストカットのために職員が減り、サービスも後退しています。これ以上抑制してサービスが充実するとは思えません。図書館サービスの充実のためには抑制ではなく増額が必要です。	
102		P22	豊中市は文教都市と言われるますが、市民1人あたりの図書館費が2501円と知って、あまりの低さに驚いています。美術館や博物館等の文化施設がない中では、図書館の存続と充実こそ文教都市豊中として目指すべきことだと思います。(同様の意見4件)	ご意見も参考にしながら、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築に取り組んでまいります。
103		P22	市民1人あたりの図書館費は北摂7市の中でとても低く、文教都市豊中と言われて引越してきたのがっかりしています。これ以上図書館に使う費用を下げないで充実させて欲しいです。(同様の意見2件)	市民一人あたりの図書館費については、目標を取組み始めた平成25年度(2013年度)当初の人員費をはじめ、最低賃金や消費税、光熱水費の社会経済要因などを加味して、令和3年度(2021年度)の図書館費を算出したところ、市民一人あたり2012円であったため、一定目標値を達成したものと考えています。このことから、課題整理の「効率的な図書館運営」に記載の「また、市民一人あたりの図書館費の抑制と図書館サービスの充実を考えた際、昨今の著しい社会変化や市の施策を考慮し、図書館事業のあり方を見直す必要があります」を削除します。引き続き、効率的で効果的な図書館運営に取組みながら、持続可能な図書館サービスの提供に努めてまいります。 (豊中市立図書館みらいプランP22)
104		P22	財政上の課題も論じられると思いますが、文化都市を自認する豊中市として、税金を有効に使っていただきたいと思っています。	
105		P22	「語るに落ちる」とはこのことです。つまり経費削減が前提にあります。日本は今や経済、文化、民主主義のどれを取っても三流国化しています。国政に対して市民の声を国に届け、そのニーズに応えるよう働きかけるのが、地方自治体の本来の責務ではないですか。市に誇りを取り戻して欲しいです。	
106		P22	市民1人あたりの図書館購入費も決して多くありません。もっと図書館を充実させ、職員も増やしてください。	
107		P22	効率的な図書館運営として、市民1人あたりの図書館費抑制を掲げていますが、市民の文化的生活を豊かにするために、むしろ図書館費を増やすことが必要です。	
108		P23	市民にとって自治体にとって、図書館の持つ意義を教育委員会は議会、行政トップに対し説得したのでしょうか。すべて財政面での課題のみと読み取れます。文化施策はお金がかかるのが当たり前。今財政が黒字になった時になぜお金を出せないのですか。納税者はより良い使い方を望んでいます。	図書館は多くの市民の皆さまにとって身近で親しみやすい公共施設であると受け止められており、その特徴を活かし、魅力ある蔵書の構築や読書環境整備とともに人と人のつながりを生み出す場としての役割を担っていると考えます。一方で(仮称)中央図書館基本構想において、(仮称)中央図書館を中心とした持続可能なサービス提供をめざし、新たな図書館サービス網を構築するとしていることから、整備が必要だと考えています。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方	
109	中央図書館	P23	基本コンセプトの「つながる」はとっても良い印象であり、主な取り組みにある「デジタル社会に対応した多様な媒体による情報提供」が肝なのに、本計画で関連して検討されていないことから、本計画が従来型のハード主体の計画となってしまうと思います。中央図書館がデジタル化の機能を担う中心となるための議論ができていない印象を持ちます。	基本構想及びみらいプランにおいて、（仮称）中央図書館の機能イメージをお示してまいりました。ご意見も参考にしながら、より具体的な（仮称）中央図書館の機能やサービスなどについては、今後、整備計画を作成する予定です。	
110		P23	中央館の役割について、「市民交流や情報発信の中心」「多目的なオープンスペース」などとあるが、中央館を豊島公園に設置するとしたら、公園内にあるという立地条件を考慮し、豊中市内の自然がわかるような図書コーナーの設置や、展示・発信などをして欲しい。		
111		P23	P3で「本計画で関連ある主な取り組み」について、今回はデジタル化を対象としていないとはいえ、P23の中央館の役割では、デジタルやネットワーク機能についても入れておくべきではないでしょうか。仮に、ここでは本計画で対象としている範囲に限った役割を記載しているのであれば、その旨を記載しておくとともに、別の計画等で中央館のすべての機能・役割をまとめるべきだと考えます。		
112		P23	「中央館機能」として挙げられていることは、現在あるどの図書館でも機能しているのではないのでしょうか。これをもし「中央館」だけに限るとすれば、サービスの大きな後退になります。		
113		P24	中央館は面積を広くとり、近代的なしゃれた大階段のある図書館をイメージしますが、階段付本棚なら高齢者、肢体不自由の人、妊婦には負担で安心して本を探せないのではないかと心配します。		
114		P24	中央館は年中無休、24時間開館にしたらどうでしょうか。他自治体での実例があります。課題はあると思いますが、市民ニーズはあると思います（年末年始等の休館は否定しません）。		
115		P38	蔵書データベースにスマートフォンでアクセスできるようにして、ウーバーイーツならぬウーバーブックスなんてのはどうでしょうか。費用を払っても良い人は利用するのは、新しい仕事（雇用）が生まれるかも知れません。ウーバーイーツの人が兼ねることも考えられますね。本を借りるためだけにバスや電車を使うなら、宅配料金を支払うほうが良いです。		
116		P29	岡町図書館は豊中の代表的な文化拠点であったことに留意し、岡町駅周辺での存続を前提としてください。		基本構想及びみらいプランに基づき、評価基準をまとめ、（仮称）中央図書館の計画地を選定してまいります。
117		P29	中央図書館の位置は豊中駅・岡町駅・曽根駅周辺に位置付けられています。阪急宝塚線の最寄駅ならば、市の優れた交通網から推察すれば、いずれでも大差なく決して不便にあらざると判断します。しかし私は既成概念を捨て「豊中らしさ」の観点から計画地を選ぶべきではなかろうかと思っています。豊中と言えば大阪国際空港の街とセンチュリー交響楽団、大阪音楽大学を軸とした音楽が奏でる街です。そこで提案します。中央館はモノレール大阪空港駅の駅ビル化構想を考案し、その中にスペースを確保することで設置費用の軽減化を図ることのできる計画にはいかがでしょうか。図書館を軸に、空港ターミナルへの足を結び、館内でのストリートピアノ演奏、講演会、歴史講座、図書紹介講座、本に係わる講演会、大阪大学落語クラブの会、写真展の開催など連携によるさまざまな取り組みを発想できます。規模の問題は市の財政との兼ねあいもあり、行政判断で進めるべきでしょう。何よりも関西万博の開催に向けて、大阪空港には周辺諸国から多くの外国人の訪問も見込まれます。万博会場への路線が整備されれば、自ずから周辺地域も発展し、豊中市の発展に結びつきます。もちろん行政は英知を結集し、大鉦を振るうチャンスとなりましょう。力を発揮する時機は今です。空港に図書館を設置し、豊中のシンボル・観光資源と位置付け、地元小学校からの見学も多数受け入れ、コラボレーションの意味合いは一層増幅するでしょう。空港には家族が集います。飲食業が発展し、金融機関、大型スーパー、免税店、その他多様な関連施設も集まり、集客力が大幅に増大。豊中市の発展・人口増加・税収増加問題などの諸課題を複合的に、一気に解決するのではないのでしょうか。		
118		P23	素案p.24の「位置付け（施設階層）ごとの機能」は、各施設の位置づけを簡単にわかりやすく示した資料であり、具体的な計画は将来的検討になるものと推察しますが、以下の点についてお聞かせください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央館における蔵書保管機能として、自動書庫システムの導入は検討されますか。</li> <li>・中央館において自習室の設置とありますが、中央図書館内に設置するという理解でよいのでしょうか。</li> <li>・備考に記載された「周辺環境との連携」ですが、中央館においてはどのような事象を想定しているのでしょうか。</li> </ul>		基本構想及びみらいプランにおいて、（仮称）中央図書館の機能イメージをお示してまいりました。ご意見も参考にしながら、より具体的な（仮称）中央図書館の機能やサービスなどについては、今後、整備計画を作成する予定です。内装や備品などについては、今後、検討してまいります。
119	人員・人材育成	P23	あらゆることがデジタル化されます。図書館に行ってもスタッフに声をかけられる状況がありません。返却もセルフで無言でふりむきませず「しら～」と寒い空間……利用者は減りますよ。		デジタル化の推進とともに職員との接遇にも一層取り組んでまいります。
120		P23	千里図書館は開館時間が長く平日の休みもないので、市民の側からすると他の図書館でも同程度の開館ができないのかと思います。千里図書館の利用の増加を評価するのであれば、各館の職員の数を増やして対応するという考えはないのでしょうか。	今後、新たな図書館サービスとして、電子書籍の拡充やオンラインでの新規登録などの非来館型サービス、利便性の高い交通結節点でのサービスポイントの設置などを予定しております。この新たな取組みの利用状況を踏まえながら、（仮称）中央図書館の設置に向けて機能やサービスを検討する中で、効果的・効率的な運営体制も考慮し、ご意見にある開館時間および日数についても検討してまいります。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
121	人員・人材育成	P22	人材育成を謳いながら職員を減らさないとか書かないのはどういうことでしょうか。図書館を減らし、職員も一層減らすとしたら、そもそも人と情報をつなぐこと自体無理になります。 (同様の意見2件)	職員体制については、今後の図書館運営に必要な職員数や役割に応じた配置に努めてまいります。
122		P22	みらいプランのめざすところの実現にあたっては、それを担う職員の育成が伴っていると考えてよいか。 (同様の意見2件)	みらいプランの実現に向けて、必要な専門性向上、スキルの継承など、長期的な視点での人材育成に取り組んでまいります。
123		P23	高川・蛭池・服部図書館は地域の人々にとって、人がつながる大切な場所となっていました。利用が減ったとあるが、これまでに利用しやすい工夫や宣伝などに取り組んできたのか疑問です。図書館員が減らされ、館長不在でサービスの低下が起きていたのではないですか。全市的にも図書館の広報活動は低調だと思います。新刊の案内や行事の案内に工夫が見られません。職員が足りず、取り組めなくなっているのではないのでしょうか。建物が変わっても、職員・司書の方々の意識を変えないとサービスの向上は望めません。	
124		P23	「すべての人の『わたしの図書館』をめざして」とするならば、すべての人から図書館を奪うようなことをせずに、より利用しやすいように歩いて通える図書館を残し、職員を正規の人に、司書に戻していただきたいです。	将来にわたり持続可能な図書館サービスを提供するにあたり施設配置や効率的・効果的な人員配置の検討は必要ですが、これまで図書館を利用していない、利用できなかった方々に向け「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」の電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスの充実に取り組むなど、すべての人がそれぞれにあったサービスを受受できるよう、今後も図書館サービスの向上に取り組んでまいります。
125		P23	サービスポイントは予約資料の受取返却のみとのことですが、せめて新聞・雑誌・読書のスペースや図書室程度の機能は残してほしいです。 高齢者にとってパソコン画面で操作するのが難しい人もいます。対面で、レファレンスサービスがあってこそ、利用できる人もいます。誰もが利用できるように、最低人員の配置をしてください。図書の貸出受付返却業務は、必ず開館時は職員の配置をしてください。	
126		P23	学校司書の全校配置はすばらしい教育効果をあげています。図書館見学(3年生)は利用登録率にもその後の来訪者増にも大いに貢献しています。 地域の図書館の司書さんが大きな役割を担っています。そのために今ある図書館をなくさないで！幸いにも豊中市の財政は黒字だと載っていました。	子どもたちの学びの支援を進めるため、学校司書及び市立図書館司書が連携し、学校図書館教育の支援及び子ども読書活動を推進してまいります。
127		その他	図書館運営は専門の図書館司書が行うべきです。安易な外部委託、PFIの導入は行うべきではありません。外注化がコストアップだけを招いている事象や図書館の本来の姿を失わせている各地の事象も参考にしていただきたいと思えます。	引き続き、専門性の高いサービス提供に資する人材育成および持続可能な図書館サービスの提供に適した運営手法の研究に取り組んでまいります。
128		その他	文部科学省でも「これからの図書館の在り方検討協力者会議」で「利用者は、司書と相談することによって、問題解決の鍵を得るとともに、レファレンスデスクと担当職員の配置を進めるなど、レファレンスに力を入れている。」また、「レファレンスサービスが不十分な図書館では、貸出に多くの人手が必要になるため、レファレンスサービスに充てる人手がないという意見が多く、この点を解決する必要がある。」と議論されています。 会議が指摘するとおり、図書館における司書の役割は大きなものです。利用者が頼れる、身近に感じられる司書さんがいてくださったなら、きっと身近なものとなり利用者も増えるでしょう。 これは大切な問題です。現在、市全体で民営化が行われていますが、いろいろ課題も見聞きます。住民の立場で働く正規職員の配置こそ本当の市民サービスです。 各図書館の運営は市直営で、職員は正規職員の司書を配置してください。また、上記のように十分なサービスができる人員配置をお願いします。	
129		その他	本計画を進めるにしても、現在の市内にある公立図書館に勤務し、実質図書館業務を支えている多くの「非正規職員」の方々はどのようにお考えになっているのでしょうか。	基本構想やみらいプランについては、図書館職員で共有しながら進めてまいります。
130	中央館の候補地	P29	岡町駅周辺について、図書館があるまちとして、それを目的に地域を選んで住んでいる人がいます。今と同じ岡町駅周辺に中央館を建てられることを望んでいます。 (同様の意見2件)	基本構想及びみらいプランに基づき、評価基準をまとめ、(仮称)中央図書館の計画地を選定してまいります。
131		P29	各館の配置見直しについて。岡町図書館の利用者です。現図書館は克明小学校の隣りにありスクールゾーンに存在することで、通学する小学生はじめ、あらゆる子どもや交通弱者にとって安全で、利用しやすい環境が維持されていると思います。またこの場所からの移転が計画されていることを、克明小学校の児童及び保護者に充分周知されていないと思います。「子どもの利用…を推進する」には、現在の岡町図書館以上の立地はないと考えます。	
132		P29	岡町駅周辺は市役所もあり、岡町図書館は今まで市内の中心的な役割を果たしてきた図書館ということで多くの利用者がいます。仮に移転するにしても、規模が小さくても岡町駅周辺に図書館を絶対残してほしいと多くの利用者が思っています。 また利用している高齢者は、(豊島公園などの案を聞いて)遠くなれば今までのように利用できないと言っています。仮に中央図書館が岡町以外の場所に決定された場合は・・・多くの人が利用してきた岡町図書館は、読書室などのスペースも置き、規模を縮小しても残していただけるよう要望します。	
133		P29	中央図書館は岡町駅周辺に整備されることを望みます。図書館のあるまちとして岡町は市内で根付いています。日常的に利用している人がたくさんいます。 また岡町図書館の移転後の用地利用は決まっているのでしょうか。候補地になる土地と交換することも検討してはいかがでしょうか。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
134	中央館の候補地	P29	蛭池図書館を毎週利用しています。中央館は岡町駅周辺に整備されるよう希望します。素案によると、蛭池、豊中駅エリアは徒歩圏内の図書館がなくなってしまいます。私は幼い子どもと図書館で新たな本に出会うのが大好きです。曽根駅周辺ではあまりにも遠過ぎて、日常的に行くことができません。また移動図書館は巡回時間の制約が大きく利用することが困難です。地域によって図書館を利用しにくい不平等さが、今回のプランで広がるように思います。	(前項の市の考え方参照)
135		P29	学生時代から岡町図書館を利用してきました。本の貸出だけでなく、学習の利用もさせてもらいました。地元の人としては非常に寂しい、悲しいことです。私のまわりには同じように岡町図書館の利用者が多く、岡町駅周辺から図書館がなくなると嘆き悲しむ人が多数います。	
136		P29	候補地について、案1は多くの利用が見込まれる曽根駅の中心部から下り坂で、車いすや杖の使用者、子どもには厳しく、開かれた図書館として不適切になると思います。案2・3は私有地であるため、次の建て替えを考えたとき、図書館機能としては長い期間利用したいのに対し、商業施設としては新しくすることで顧客を呼び込みたい、といった権利者間で思惑のズレが生じるのではないのでしょうか。例えば岡町図書館は築53年ですが、私有地でそれほどの期間にわたって図書館施設を建て替えることなく継続できると思えません。果たして案2・3は50年後、100年後のことまで視野に収めたみらいプランとなっているのでしょうか。現在の市有地での図書館を廃止し、20年、30年で建て替えるとなれば、却って費用は嵩み、また地権者とのトラブルも生じかねません。現在の市有地での図書館が備えるメリットを考えるならば、たとえ必要面積より小さくても、岡町図書館を中央図書館として機能させる現地で建て替えの工夫を検討すべきだと思います。	
137		P29	野畑図書館の利用者です。中央館はいずれの場所になっても歩いて行くことができません。車か公共交通機関に頼ることになってしまいます。中央館の駐車場の台数や無料になるかどうか重要です。それでも交通費や駐車場代を支払ってまで、図書館に行こうと思うのかどうか気がなります。	
138		P29	豊島公園は私有地の候補と比較して土地取得費が計上されないだけ有利に見えます。豊中市主催のイベント会場として利用されていますが、それらの開催地の変更も念頭にあるのでしょうか。候補地は何を主眼に選ばれるのでしょうか。私有地と比較するにしても、豊島公園は具体的にどの場所を考えているのか不明です。中央図書館建設のために利用変更となる場所があるなら、明示しないと候補地比較しにくいと感じました。現在、ローズ球場で開催される高校野球大阪予選等開催時にサブトレーニング場がないので、公園内でウォームアップをする高校球児によって、市民の公園利用が圧迫される状況もあります。ローズ球場の貸出収入や、予選に利用されている市民の誇りが失われるなら、中央図書館建設候補地としていかがなものでしょうか。	
139		P29	中央館を豊島公園に整備するとしたら「新築」となります。そのために公園内の樹木を伐採することがないようにしてください。また、公園内ということで、エネルギー効率が良いといった環境配慮の建物になるよう工夫も必要です。	
140		P29	豊島公園について、曽根駅から豊島公園までの道のりは途中で急な坂があるため、車いすや身体の不自由な人、子どもや高齢者には不便です。	
141		P29	豊島公園が中央館を整備するのに適していると思います。	
142		P29	豊島公園は水害の恐れがあることも含めて検討する必要があります。資料や機材が水没しないよう工夫がいります。ハザードマップによるとリスクの少ない立地のように思っていますが、単体の水害を想定しての評価のようです。台風など猪名川と高川、天竺川の同時氾濫が発生した場合、豊島公園はぎりぎり水害に遭いそうな場所です。平成6年(1994年)9月の豪雨では、大阪大学豊中キャンパスの図書館の地下1階部分が被害を受けています。排水ポンプなどの設備は維持費が必要ですし、立地選びで被災リスクを低減させることも検討してください。	
143		P29	現在、曽根駅から豊島公園にかけて、豊島体育館、文化芸術センターがあります。中央図書館の整備となれば、その地域に大型公共施設が集中することになります。一方、公共交通機関は阪急電車のみで、モノレールや北大阪急行、バスなどのターミナル拠点ではありません。駅からの距離も若干あり、「岡町図書館」「千里図書館」などと比較して、幼い子どものいる家庭や高齢者にとってアクセスしやすい場所とは言い難いのではないのでしょうか。	
144		P38	曽根駅周辺に新設される場合には、現在の岡町、蛭池、服部図書館はなくなり、サービスポイントに変わるとされていますが、これにより地域の住民は図書館に通いにくくなります。大きな図書館を1つ作るよりも、通いやすく本を取りやすい環境を望んでいます。以上のことから、曽根駅周辺に新設されることは図書館を減らすことになり、市民が文化に触れる機会が奪われてしまうと考えます。子どもから高齢者、地域のすべての人が図書館を通して文化に触れられる豊中市を作っていくようよろしくお願いいたします。	
145		P29	SDGsが叫ばれる時代に新しい図書館を作るよりも、今の岡町図書館を修繕して継続利用できるよう工夫してください。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
146	中央館の候補地	P29	岡町図書館の移転に反対です。20数年前岡町図書館が近くにあるからということも引越先を決めた理由の1つです。読みたい本をすべて購入するというのは金銭面でもスペース面でも負担が大きいです。歩いて行ける図書館の存在はこれからますます高齢になっていく身としては大切です。	(前項の市の考え方参照)
147		P29	曽根駅周辺であれば、豊中市文化芸術センターやアクアホール、中央公民館もあり、文化・学術の中心地として施設を集積することで、地域的な活性化を図ることが出来ると思いますので、民有地Bが良いと考えます。	
148		P29	中央図書館候補地としては、曽根駅周辺が良いと思います。具体的な場所がわからないためはつきりはわかりませんが、岡町駅周辺だと電車以外での訪問は難しいですが、曽根駅周辺であれば、電車の他にバス、もし駐車場があるのであれば車で訪問も可能となると思われ、便利だと思います。	
149		P29	豊島公園の用途を「公園から変更する」とのことですが、環境基本計画等で緑地の大切さを謳っています。市民の憩いの場としての緑地と図書館の設置が両立できるか疑問です。	
150		P29	中央館の候補地について、東西と南北の公共交通の結節点である蛍池が最適です。	
151		P29	岡町図書館の老朽化については理解できます。移転するとしても、現在の場所に身近に行ける図書館が欲しいです。岡町図書館跡地にも図書館が欲しいです。	
152		P29	中央館の市有地の候補として、「豊島公園」を抽出しましたとありますが、服部/庄内地域に中央と地域館の2つが集中することになり、明らかに地域的バランスを欠くと考えます。また、公共交通機関による便が良くないため、ある程度の規模の駐車場確保やバス便の誘致などが、必要になりそうな気がします。そこまでするなら、地域的バランスの取れた、今候補に挙がっていない別の場所を探す方が、得策になってくるのではないのでしょうか。	
153		P29	中央図書館に機能集約してサービスを向上させるということですが、私の住んでいる地域からは電車とバスを使っても1時間近くかかります。車で走っても30分はかかります。おまけに曽根の駅前は渋滞も起こりやすくさらに時間を要すると思います。中央図書館は滞在しやすい空間になるのでしょうか、駐車場が満車になって混雑することも心配になります。	
154		P29	新しい中央館が具体的にどのような図書館になるのでしょうか。今後は市民の声に耳を傾け、ともに作っていくよう努力して欲しいものです。	基本構想及びみらいプランにおいて、(仮称)中央図書館の機能イメージをお示してまいりました。ご意見も参考にしながら、(仮称)中央図書館の機能やサービスなどについては、今後、整備計画を作成する予定です。
155		P29	中央館は滞在型として整備するのであれば、100台ぐらいの無料駐車場を備える必要を感じます。京都亀岡の道に駅にあるガレリア亀岡の図書館はその点で参考になると思います。開館時間も19時ごろまでだったと思います。参考にするのに良い図書館です。吹田市立中央図書館も良い図書館で子どもを連れて行くのに良かったです。	
156		P29	中央館を阪急沿線に新設しても、遠くに住む子どもや交通機関を利用しづらい老人は利用しにくいことを思うと、弱者切り捨てになっているように感じます。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年(2017年)3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度(2014年度)比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年(2021年)2月に(仮称)中央図書館基本構想を策定し、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
157		P26	「候補地の選定評価条件(令和5年度/2023年度)」において、記載の内容は定量的な評価内容となっていますが、定性的な評価も検討されますか。	みらいプランの選定評価条件を含め、今後、項目について検討してまいります。
158	地域館(庄内コラボ)	その他	庄内コラボセンターに移転する前の庄内図書館は、近年は空調が効かないため利用者が少なく、耐震性にも問題がありました。高齢者にとってはいい場所だったと思います。	庄内コラボセンターの庄内図書館では、資料や閲覧場所を充実させています。引き続き、市民の皆さまに喜んでいただける図書館づくりを進めてまいります。
159		P23	庄内図書館も分館も小さすぎ！並んでいる本が少ないということは、いろいろ選べないということです。新しい本への出会いはなくなります。中央館だけどんなに立派に大きくしても、イベントがいっぱいあっても、私は車いすの息子を連れては絶対に行きません！(バスは大変だから行けない)	(仮称)中央図書館を核とした新たな施設配置と「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」によって、貸出利用の促進と行きたくなくなる図書館づくりに取り組み、利用者数の向上に取り組んでまいります。
160	地域館(千里)	P4	庄内と千里の両地域館2館のみが地域館との前提になっているのは何故でしょうか。特に千里は箕面市の立派な船場図書館が近接していて、併設の阪大付属図書館も魅力的で、船場阪大前駅ができればこちらに流れる利用者が増えると考えます。少路近辺に移設の方がバランスが良いと思われます。近隣自治体との連携も考えて計画を立てるべきだと思います。	基本構想において、市の中心部から比較的距離のある南部・千里エリアについて、(仮称)中央図書館を補完する役割を担う地域館として庄内・千里図書館を位置付けています。
161	分館	P24	分館も情報発信や自習室機能を持たせませんか。児童館がない本市は地域の図書館がその役割も果たしています。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、野畑図書館は集会室や自学自習スペースの利用が多い点、東豊図書館は子どもの利用が多い点を考慮し検討してまいります。
162		P34	4図書館サービス網の構築(4)施設配置の項で、野畑、東豊中について「分館」にするとの構想のようですが、公共図書館は全ての市民に対して公平に開かれたものであるべきとの観点から反対です。集会室の活用も含めて、現行の規模と機能を維持するよう求めます。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
163	分館	P34	野畑図書館の施設の老朽化が進行しているとのことですが、築35年としては老朽化の進行が速すぎだと思います。施工不良ではありませんか。築30年の東豊中も近いうちに対策が必要なら同時に検討してはどうかと思います。	施設の老朽化に伴い、空調機器の更新など施設の長寿命化に伴う費用負担など財政的な課題については、基本構想で言及したように、毎年38億円の不足が生じる試算が出ております。図書館施設もそうした対象の1つに含まれ、市有公共施設全体の中で検討を進めているところです。
164	分館（野畑）	P24	野畑図書館の駐車場がとても不便です。改善できるのかわかりませんが、もし建物を改築されるのであれば、改善されると嬉しいです。	野畑図書館においては、当面、現施設が継続される予定です。
165		P42	野畑図書館の今後のスケジュールに自学自習室の拡充と書いてあります。分館になっても拡充のままにしておいてください。大勢の学生さんたちが静かな図書館で自習できるようよろしくをお願いします。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、野畑図書館は集会室や自学自習スペースの利用が多い点、東豊中図書館は子どもの利用が多い点を考慮し検討してまいります。
166		P24	素案では野畑図書館を分館とするとなっておりますが、引き続き地域館として活用することを要望します。理由：素案の基本コンセプトは『つなげる。わたしの図書館』とありますが、分館では地域住民が交流し、地域課題を共有する「場」が失われます。市の公共施設の中期・長期の展開が分からないので野畑を分館とする理由が希薄だと考えます。既にある蔵書機能や市民が交流する場が利用でき、財政的負担が軽減されます。老朽化には補修という手立ても視野に入れられないでしょうか。住民の高齢化はこの地域だけの問題でなく、豊中市では南部地域のほうがもっと深刻です。図書館利用が日常的になっている住民にとって分館となることは「知る」権利、楽しむ権利を奪うことになりかねません。	
167		P24	野畑図書館は市有施設のため今後もそのままの施設を使っていたらいいと思います。判定結果にもあるように駅から遠く、徒歩での利用者が多い図書館です。小さくても徒歩圏内に歩いて行ける図書館があれば、小さな子を連れて頻繁に通うことができます。小さな子どもがいると乗り物に乗るだけでもハードルが高くなるものです。図書館で過ごした子どもたちは図書館を利用する親になる可能性があります。域内の中学校のレベルが大府全体から見ても上位にあるのは、幼少期からのこうした書物との関わりと関連がないとは思えません。身近な図書館は教育レベルの向上につながります。教育の効果に即効性はありませんが、行政だからこそ長期目線で考えていただきたいです。	
168		その他	子どもたちが野畑図書館にお世話になっています。毎回10冊借りるだけでなく、図書館でも読み始めるとなかなか帰れなくなるくらい、いろんな本を読んでいます。図書館は子どもたちが本当に大好きな場所です。野畑図書館は、広くて蔵書量の多い図書館のままであってほしいです。今後改善できるとしたら、借りた本を小学校に返却できるとか、小学校で予約本を受け取れるとか、小学校で借りられる本の冊数を増やすなどをしていただけると、もっと子どもたちは頻繁に本を読めるのと思います。	
169		P34	野畑図書館は地域住民の交流の場であり、文化的な生活をおくるための重要な場所。ぜひ地域館としての存続を希望します。子どもたちの利用を減らさないためにも、現在の開架書架の蔵書数と面積を維持してください。館長の存在も重要です。安心で安全な空間である図書館は、子どもたちにとって成長を見守り応援してくれる大切な場所なんです。どうか減らさないようお願いします。	
170		P24	野畑図書館については、集会室機能などは配慮するとなっておりますが、そもそも分館の面積は500㎡とされており、これで図書館の機能としての集会室や自習室が確保されるか心配があります。また基本構想では老朽化とされておりましたが、今回のプランには建て替えなのか、補修をして継続して使用するのかも書かれていません。今までと同様の図書館としての機能が維持されるのかわかりません。ぜひレファレンス機能、集会室や自習室の機能も含めた図書館機能の維持を希望します。	
171		P34	野畑図書館の利用状況を鑑みると、分館レベルに延床面積を縮小する意図が理解できません。野畑図書館の個性を損なうことになります。	
172		P23	豊中市が文化教育関係の後退につながる施策をするのではなくもっと拡充する方向で知恵を出していただきたい。私の周りの方の希望は上野にも図書館が欲しいくらいですとの声もあります。なくす図書館もあり野畑でも大幅な縮小になり、利用する方がより減少するのではと危惧します。つながるをめざす計画と反するのではないのでしょうか。地域密着、活字離れ、いろいろ時代の変化はありますが、独習と交流、討論や共同、地域の図書館が大きな役割を担ってください。よろしくをお願いします。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっております。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80％とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組みしてまいります。
173		P38	超高齢化が進む現在、昼間、地域にいる高齢者にとって図書館は貴重な居場所となっております。野畑図書館においてもゆっくり時間を過ごすお年寄りの姿が見られます。行くところがなくなった高齢者はずいぶん困ることでしょう。介護予防の観点からもどうか今のまま残していただきたい。その点でいうと車も乗れなくなった高齢者の立場では1か所に大きな施設があるより、歩いて行ける範囲に集まれる場、居場所があちこちにあるのが望ましいように思います。弱い立場の声をあげられない人たちに寄り添う行政運営をお願いしたいと思います。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
174	分館（野畑）	P24	3846㎡の野畑図書館を約1/8に縮減するということですが、現状分析では貸出数・利用者数ともに9館中3番目、集会室の利用は一番多く、子どもの利用が多い図書館となっています。徒歩エリア内の桜井谷東小は<全国1位のクラス数>で、野畑小・少路小も大規模校です。若い世代が多く、これらの小学生たちが公共図書館を利用する経験を積むことによって、今後の利用がもっともっと増える可能性があります。昨今の人口減の時代に、この宝の山のようなエリアの利用者を切り捨てるなんて、理解に苦しみます。このエリアは中央図書館が想定されている阪急岡町・曽根駅までのアクセスが悪く、バス1本では行けません。豊中までバスそれから電車に乗り換えます。千里中央や豊中へは道が混雑している時間帯では40～50分かかることもあります。このエリアでの野畑図書館の役割は重要です。書庫機能を失くすことで縮減されるのは仕方ありませんが、3846㎡の図書館を1/8にするという方針には賛同できません。	(前項の市の考え方参照)
175		P24	普段、野畑図書館の徒歩エリアに居住し、利用しています。このみらいプランのことは知人から聞いて驚いています。微力ながら意見を書かせていただきます。基本的に図書館を大きな建物に集約し、小規模のものはなくするという考え方にわたしは反対です。正直、曽根駅前に立派な図書館ができて、わたしは多分行くことはないでしょう。わざわざ普段乗る機会のないバスや電車に乗ってまで図書館に行かないからです。今のままの規模で野畑図書館を残してください。	
176		P24	20年前、家を買う時に野畑図書館を見て、「こんな近くにこんなに立派な図書館がある！なんて素敵な地域なんだ！」と思って、今の家を買いました。豊中に住んでいることは自慢でしたし、他人からも良いところに住んでるねと言われました。それはもう変わってしまうということなんですね。とても残念です。	
177		P4	どの図やグラフを見ても野畑図書館の果たしている役割の大きさが見て取れるのに、縮小化するのはおかしいです。今の市のやり方を見ていると縮小から廃止へと、そう遠くない未来図が見えるようでおそろしいです。500㎡（＝25mプール一単位）の中で閲覧コーナーは半分も取れないのではないのでしょうか。その規模では「館」と呼べません。「吹田市立平和祈念資料館」では、戦争関連図書の貸し出しもして、展示内容はすばらしく、その時の来館者は私だけでしたが、職員が一人で電話対応などをしておられました。図書館であれ、文化施設は効率で判断してはならないことを豊中市は肝に命じてほしいです。	
178		P24	田舎の高校を卒業して東京の会社に就職。独身寮には国公立大学を卒業した新入社員も居て、彼等の知識の豊富さと自分の乏しさを思い知りました。図書館もなく、乏しい給料で書物を買って読みました。思春期の青少年にとって書物は大切です。身近に気軽に利用できる野畑図書館はぜひ現在のまま残してください。老いた今、私にとって気軽に利用できる図書館は認知症にならないためにも必要です。	
179		P24	野畑分館想定規模500㎡はあまりにもせますぎます。現在土日は朝から親子連れが多く、子どもたちに幅広く絵本を選ばせ、親が読み聞かせをしていて、座る場所がないくらい混雑しています。平日も午後3時頃から混んできます。こんな機会を奪わないでほしいです。 (同様の意見11件)	
180		P34	私の住むマンションは築50年になりますが、改修を重ねて住み続けています。老朽化というには早いのではないのでしょうか。野畑図書館ができた時、「なんておしゃやかな図書館だろう！」と感激したことを覚えています。一度失ったものは取り戻せません。野畑図書館の存続、維持の努力こそ行政に期待します。	
181		P34	野畑図書館は自転車で5分で行けます。司書の皆さんもとても親切で大変お世話になっております。野畑図書館を縮小させないでください。千里図書館に行くのも時間とお金がかかります。忙しい主婦に時間はとても貴重です。また身近な本と親しめる空間を縮小するのは子ども達のためになりません。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、野畑図書館は集会室や自学自習スペースの利用が多い点、東豊中図書館は子どもの利用が多い点を考慮し検討してまいります。
182		P24	分館には自習室機能がないことになっています。新しい分館としての野畑図書館には自習室はありますか。ちなみに、インターネットで有料無料の自習室を探すサイトがあり、自習室のニーズはかなり高いと思われます。令和5年度(2023年度)中拡充した自習室をニーズに合わせて残し、より良い自習環境を整えてください。	
183		P34	平素は徒歩圏内の野畑図書館を頻繁に利用させていただき感謝しております。野畑図書館は、現在の地域館から分館に変更されるとのことですが、現在の延床面積3846㎡から約500㎡に縮小されるのでしょうか。その場合に現在30万冊の蔵書数が減少すると利用者は困りますので、蔵書数を維持していただけるようお願いいたします。	
184		P24	野畑図書館は本を借りるだけでなく、さまざまに利用されています。分館化により大きく縮小されます。既存の建物がそのまま使われると考えた場合、2階部分や子どもの絵本エリアはほぼなくなるのかなと想像しています。その跡スペースの活用方法を示してください。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、野畑図書館は集会室や自学自習スペースの利用が多い点、東豊中図書館は子どもの利用が多い点を考慮し検討してまいります。
185		P34	野畑図書館の書庫機能は中央図書館に移転する予定です。移転後の書庫スペースを活用する場合は市民の意見を聞きながら検討するよう希望します。自学自習室の拡充だけでなく、ダンススタジオや音楽スタジオ、談話室などこれまでにない発想で活用方法を考えてはいかがでしょうか。	書庫移転後のスペース活用については、ご提案内容なども参考に、今後検討してまいります。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
186	分館（野畑）	P23	地域館をなすことに反対です。プランの見直しを求めます。 (同様の意見2件)	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
187	分館（東豊中）	P23	折り紙に挑戦しようと本を借りるため東豊中図書館に行きました。何冊か書架から取り出し、座って選ぼうと思ったら、座席はすでにいっぱいでした。みんな男性で、退職された方々だろうと思われました。本を静かに読んでる姿を見て、こんなコーナーがあって良いなあと思いました。退職後、家でじっと籠っているより、今まで忙しくて読めなかった本を読めるって素晴らしいことだと思いました。本屋さんではこんなことはできません。私は他の場所にイスをみつけ、数冊の中から選びました。ついでに趣味の園芸の本、好きな作家の本も借りました。書架を見て、あれこれ選べるのはうれしいです。そして図書館が近くにあって幸せだなと思います。また、児童用の本も大好きなので、孫にどうかなと見てまわりました。児童用の本は絵もとってもステキです。電子本は携帯で読んだくらいではよく分かりませんが、紙のページをめくる楽しみがありません。最近子どもの活字離れが多いと聞きます。学校でもタブレットを利用するようになり、ますます文字離れが進みそうです。読解力が弱いという新聞記事も読みました。子どもたちが子どもだけで行けるように近くに図書館を残しておいてほしいです。私の周りの人は高齢者が増えました。新しい案によると図書館は阪急沿線が多いです。遠くまでバスに乗っていくのは大変です。また、返却ができるといっても慣れないことはむしろかしいし司書さんに相談もできません。いつもは東豊中図書館を利用していますが、先日岡町図書館にも行ってみました。児童用のコーナーを見ましたが、とってもいい雰囲気の本が大好きになります。大きくて立派な図書館も必要かもしれませんが、バスに乗らなくても気軽に行ける身近な図書館を残しておいて欲しいです。東豊中図書館の児童コーナーは書架が低く、子どもが自分の目で探すことができます。しかも低い分館内が広々と開放的で明るいです。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、野畑図書館は集会室や自学自習スペースの利用が多い点、東豊中図書館は子どもの利用が多い点を考慮し検討してまいります。
188		P23	東豊中図書館では、1歳にもならないような赤ちゃんを抱っこし、3歳ぐらいのお子さんと手を繋いだお母さんを何組も見かけます。一方、定年退職をした男性たちがゆったりと本や新聞を読んでいて、赤ちゃんに優しい目を向けたり、幼児に話しかけたりする姿も見かけます。図書館は地域の人々にとってかけがえのない繋がり場ののだと思います。幸い、東豊中図書館は今回の再編でもなくなるようですが、たとえば、なくなってしまう蛍池図書館に通っていた親子連れはこれからどうするのでしょうか。赤ちゃんを抱っこし幼児の手を引いてバスに乗って行かねばならない図書館は子育ての支えにはなりません。子育て支援と言うなら、歩いていける地域の図書館こそ大切にしなければいけないと思います。どうか、図書館の統廃合計画を白紙に戻してください。	
189		P23	難しい事はよくわかりませんが…私が休職中の時よく東豊中図書館を利用していました。午前中に新聞を読もうとソファの席までいつも急いで行くのですが、高齢者の方でもう席は空いていないことが常でした。そこでテーブル席で重い昔の豊中市の写真集を観たり、私にとって図書館は憩いの場所です。しかし今その憩いの場所が縮小されたりなくなってしまうかもと知って悲しい思いでいます。私ももうすぐ高齢者の仲間入りですが、高齢者の通う場所がまたなくなってしまうのでしょうか。どうか憩いの場所を、ゆっくり本や新聞が読めるソファや椅子を、なくさないでください！子どもたちが自由に本や紙芝居を手に行ける場所を大人の手で奪わないでください。みんな子どもの頃にはお世話になった場所ですよ。その頃を思い出せば、なくすことなどできないはずですよ。よろしくお祈りします。	
190		P24	私は、絵本の読み聞かせボランティアを東豊中図書館でさせていただいております。行事を行うと、多くの参加者がありました。ところが、空調機の不調により縮小せざるを得ず、その後新型コロナウイルス蔓延で行事がなくなりました。そのため利用者の在館時間は減り、集会室の利用も困難となりました。そのことも考慮に入れ、再考をお願いします。コロナ禍で多くの図書館が行事を取りやめたり、縮小したことは同じですが、空調機の故障に伴う集会室の利用停止は考慮していただきたいと思っています。そのほか個々の図書館の事情はわかりませんが、学校図書館と公共図書館では役割が違います。学区ごとに子どもの行動制限がされている以上、学区ごとに公共図書館があっても良いくらいです。既存の図書館の縮小には賛成しかねます。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
191	分館（東豊中）	P24	今住んでいる集合住宅は高齢化により、家族の元やホームなどに転居する人など過疎化が進んでいます。私が10数年前に転居して来た時には、まだ子どもの姿がありました。その時でさえ南丘小学校は、豊中市で最も広い校庭と、最も少ない児童数の小学校と言われていたそうです。今では団地内に子どもの姿をみることはありません。ほとんどが高齢者というのが実情です。しかし、マンションなどの建設などの影響か、小学校の児童数が最も少ないと言われていた時期より児童数が増えているとも聞いています。 東豊中図書館は、子どもだけで出かけるには少し遠く、高齢者にはとても無理な場所にあるので利用者が減るのは仕方ないかもしれませんが、その周辺では自転車でも子どもを送り迎える「子育て世代」の方々をよく見ます。分館とするには、小さかった子どもを連れて出かけたこともあり思い入れの多い場所でもありますので、東豊中図書館を分館とすることや素案にあるように他に縮小される図書館があることに、今は反対する考えにあります。全体の地図を見て図書館の配置に「東部、北東部」に比べ、「西部、南部」への偏りが多くあるような気がします。また、素案の段階だとは思いますが、できれば駅などの交通機関だけでなく、図書館周辺の環境なども含めた配慮をお願いしたいと思います。 結論は「素案に対しては反対」です。すみません。	(前項の市の考え方参照)
192		P34	分館は想定規模が500㎡程度と今の約半分の面積になっています。東豊中図書館は大人の本の閲覧も（読みたい本がない場合のとりよせ等も）親子で閲覧できる絵本コーナーもとてもいい感じで運営されているので、面積を半分にするなんて、とてももったいないと思います。ぜひこのままで残すようお願いします。どうしても削る場合は市民にわかりやすく提示して、今以上に使いやすい図書館とともに作る姿勢をお願いします。	
193		P24	野畑図書館と東豊中図書館を分館とする。高川図書館と池田図書館をサービスポイントとする。服部図書館は廃止またはサービスポイントとします。既存の図書館はすべて縮小せずに残してください！近所の東豊中図書館は縮小したら困ります。同様に他の図書館についても、子ども連れの人や高齢者も歩いて行ける身近な図書館として必要です。残してください！	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
194	岡町	P23	私は阪急岡町駅近くに住んでいます。歩いていける、岡町図書館には、子供達が小さい頃から、そして今現在は、私本人が良く利用しています。歩いて行ける地域の図書館は豊中市内に多く点在して立地されています。それぞれの地区で利用され、人々が集う場でもあります。歩いて行ける地域の図書館を、存続させていただきたく思います。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
195		P23	プランについて話題になるのは、「岡町図書館を今以上に耐震工事をし、リフォームして残してほしい」「大階段があるような立派な図書館は要らない。子どもと一緒に行ける図書館がたくさんほしい」と話される方が多数です。	
196	デジタル化	P38	デジタル情報や機器を活用するうえで、すべての人の図書館をめざすなら、幼い子どもたち、デジタルを活用できない人々、経済的な問題に直面する人たちに配慮し、活用するためのサポートの役割も重要になってきます。学校だけではなく公共図書館がこの大切な役割を地域で果たすための人材確保、設備、職員研修など、より専門性が要求される大きな変化の時代であることを反映させる方針が必要です。 (同様の意見2件)	電子書籍の利点については積極的に活用していく必要性を感じるとともに、ご指摘の側面についても配慮しながら、業界動向を見極めつつ持続可能なデジタル図書館の運営に努めてまいります。
197		その他	時代の流れとはいえ、紙の本をくり返し読み考えて行動する人間の営みは必要です。	
198		P21	電子書籍で新しい利用者層が広がるのでしょうか。その弊害も多々指摘されていますし、利用者が増えればそれで良いのでしょうか。文化教育施設として質を維持する役割を大切にすべきです。	
199		その他	読みたいものしか読まない、見たいものしか見ない、冒頭で面白くなかったらワンクリックもしくはワンスワイプで消される変えられる時代に、辛抱強く一見興味が無いと思われる本をじっくり読むことが出来る、場合によっては義務教育等の段階で授業の一環等で半強制的に読まれる環境が身近にあるという事がより大事になってきているのではないのでしょうか。	本市では学校教育で学校図書館を活用した情報リテラシー教育に取り組み、また生涯学習を支える公共図書館としてデジタル化社会に必要なリテラシー向上に取り組んでまいりますことを、基本構想の重点的な取組み方針（4）（6）に示しています。
200		その他	図書デジタル化は必要ですが、そこをクローズアップすることにより図書館が文化交流拠点であることを希薄にしてはならないと思います。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」を取り組むことで、「人と情報」、「人と人」のつながりを進めてまいりたいと考えています。
201		P23	表16について。実際に手に取って本や資料の内容を見たいと思います。予約した本を受け取るサービスポイントを作るだけでは充実したサービスとは言えません。特に子どもや高齢者は、パソコンやスマートフォンからの予約システムだけで本や資料を手にとることができず、より不便ではないかとないかと考えます。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」を取り組むことで、「人と情報」、「人と人」のつながりを進めてまいりたいと考えています。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
202	デジタル化	P23	利用者にとって「わたしの図書館」になりうる要素は人それぞれです。新型コロナの流行で、非対面、非接触のデジタル化は大事ではあると思います。でもデジタル機器にアクセスできるのは自身のニーズや課題を明確に把握している場合であり、機器は迅速に情報につなげてくれるでしょう。でも、自身のニーズや課題が何なのか、もやもやして具体的に伝えられない人もいます。（老人となった私もそうですが、長年子どもたちや子育て中の親子に本を届ける活動をして来りながら、そういう人たちに出会ったことがあります。） 「もやもや」が何なのか。図書館に向向しているような本を手取ることで気付くこともあるでしょう。また図書館スタッフと話すことで必要な情報に繋いでもらえたりもするでしょう。 「市民のニーズや抱える課題が多様化・複雑化している今」、「すべての人の『わたしの図書館』であることをめざします」のであれば、中央館がまだ機能していないのに、費用対効果、可動状況だけを考慮して、すでにある図書館を閉じるのは反対です。 図書館は人々の居場所でもあると思います。「図書館は『つなげる』という機能を大切にしたい」とおっしゃいますが、『つなげる』という機能が大事ではないでしょうか。「子ども読書活動推進計画」の理念ではなかったでしょうか。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
203		その他	電子書籍にははじめません。書物を手にとりページをめくりながら読みたい！そんな世代を切りすてないでください！	豊中デジタル図書館に親しむ機会を設けるなど、新しい図書館利用のあり方について理解を深めていただくよう今後も努めてまいります。
204		P21	コロナ禍で非接触・非来館型サービスの充実に取り組んでいるとのことですが、図書館は本を探して出会う場所としての意義が大きいと考えます。 非接触、非来館型では図書館が必要なくなります。そのようなシステムに予算を使う必要を感じません。本の情報が必要であればインターネットで調べて電子書籍で読むことができます。	コロナ禍やデジタル化の進展に伴い、これまでの図書館サービスとともに、非接触・非来館型サービスも必要となると考えています。また、図書館利用が困難な人にも、電子書籍やアウトリーチサービスなどの非来館型サービスが必要であると見ています。
205		その他	予約受付件数の推移について、スマートフォンやタブレットでも利用できるのでしょうか。	図書館webサイトにアクセスいただける方法でのご利用が可能になっています。
206		その他	上手に検索条件を入力できる人しかネット予約はできません。予約はハッキリと作者名や、作品名がわかってないとできません。窓口なら相談できるし、似たようなのを紹介してもらえます。	予約やデジタル図書館の貸出方法について、周知してまいります。
207		その他	Web予約をもっと利用してもらおう状況を作らないと、いくつかの図書館のサービスポイント化はサービス低下になってしまう。施策があれば教えて欲しいです。	
208	配置バランス・空白地	P23	居住地から身近に行けるものです。子どもたちや、小さなお子さんを連れ親が行きやすい所にあるべきです。日常の利用です。何か調べ物をしたい時にも利用するでしょうが、そんな人は電車に乗ってでも行きます。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
209		P23	利用者が減少しているから図書館を減らせれば利用が拡大するのでしょうか。地域で子どもたちを育て行くという理念はどこへ行ってしまったのでしょうか。誰もが気軽に立ち寄れる図書館、歩いて行ける図書館、そして地域ごとに図書館のあるまち豊中。図書館のあるべき姿をもっともっと市民目線で考えて欲しいと願います。（同様の意見2件）	
210		P24	施設配置の提案にあたり、子どもなどの交通弱者に対する視点が感じられません。	
211		P38	高齢化が進んでいるので歩いて行ける距離に、例えば小学校区に1つの図書館があるくらいにしたいです。	
212		P23	古代ギリシャの頃から人類の歴史の中で図書館のはたしてきた役割を踏まえて、今後の図書館のあり方を考えるよう要望します。	
213		P23	SDGsの17の目標「4. 質の高い教育をみんなに」「10. 世界中から不平等をなくそう」10-2すべての人が、能力を高め、社会的、経済的、政治的に取り残されないようにすすめる」の視点から、すべての地域に住む市民が日常的に同じ水準の公共サービスを受けられるようにすべきではないでしょうか。そのためには、中央館構想ではなく、どの地域の市民も等しく一定のサービスを受けることのできる図書館があることを望みます。	
214		P23	図書館が閉鎖され、新設されるのは岡町か、曽根あたり。南部や千里は利用しやすい環境が整っていくのでしょうかが北西部は図書館がなく、空白の地域となります。同じ市の中で、子どもたちの教育環境に不平等が生まれると思うのですが、その辺はどのように補償していくお考えでしょうか。図書館を閉鎖するのなら、同じような利便性で代替可能な環境づくりが必要だと思います。	
215		P4	図書館へ行くのに電車に乗ってまでというのは余程その資料が必要だからであって、散歩の途中、休憩をかねて立ち寄り、開架式の本棚から興味のある本に出会えて、読書の力が広がるというのが「わたしの図書館」のあるべき姿だと思います。だからこそ現在の図書館の充実こそが大切であって、廃止、縮小などはあってはならないです。	
216		P4	「すべての人の『わたしの図書館』であることをめざします」とありますが、空白地帯をつくることはひとりひとりの図書館ではありません。金銭を使用して電車に乗って図書館に行く、これは矛盾しています。やさしい図書館であるためには、歩いて行ける場所にあることが大切です。	
217		P17	図書館への公共交通機関を利用したアクセスしか書かれていませんが、市民は自宅から公共交通機関の最寄り駅までも歩けます。幼い子どもを連れていく場合や、高齢者がいつでも気楽に行けるものではありません。市民から文化的権利を奪う悪政です。行政担当者は良心にかけてこの計画を撤回し、市民が歩いて行ける場所に図書館がある豊中にしてください。	
218		P21	図書館利用のきっかけづくりは地域の徒歩圏内に図書館があるという現状を守ってこそ、実を結ぶのではないかと思います。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
219	配置バランス・空白地	P23	すべての人の「私の図書館」となるためには、徒歩圏内に図書館がなければなりません。子どもと一緒に、散歩しながら行けるのが理想です。現状でも足りないのに、さらに減らすのはもってのほか。少子化対策にも逆行しています。小規模な図書館を減らすのではなく増やしてください。老朽化にとまなう建て替えの必要性は理解していますが、小規模な地域図書館を減らすことには反対です。	(前項の市の考え方参照)
220		P23	公共図書館は地域にある事が大切。大きくて立派な図書館が1館あっても身近でない限り意味ありません。	
221		P23	「新たな図書館サービス網」とあります、身近で歩いて行ける今の図書館を縮小することは、一向に新たなものではありません。遠くなり不便になる図書館になってしまいます。よってこのプランは見直してください。	
222		P23	住民にとって必要な情報を図書館に求めている人もあると思います。大切な豊中の図書館を減らさないでください。	
223		P23	市内全域に（庄内除く）配置され、非常に良い環境です。図書館空白地を市内に作らない。この考えでプランを位置付けてください。	
224		P23	現在の図書館を市民の税金を使って工事し、小さくする。そのことに大反対です。	
225		P23	今までより広くなる図書館空白地帯をどうするのが見えません。 (同様の意見5件)	
226		P23	図書館空白地をつくらないこと（帝塚山大学の中川幾郎先生の資料より）からすると豊中市の素案は空白が多くあります。北部の豊中、蛍池地域や中東部の服部、高川、豊南であり学校図書館との連携機能も低下することになります。	
227		P23	中央図書館だけが特記しているようにしか思われません！市民に身近でいつでも気軽に歩いて行ける図書館であって欲しいです！	
228		P23	歩いて行ける図書館の目標を守ってほしいです！利用者減少をカバーする取り組みを工夫するのが図書館の役目だと思います！	
229		P23	ぜひ今のまま近くの図書館を残して欲しいです。豊中のこの地への引越しの決め手は、図書館の近くということでした。図書館が大好きで家族で通い、司書さんにも顔を覚えてもらっていました。本は並んでいるのを見て選びたいです。 (同様の意見4件)	
230		P23	蛍池・高川・服部図書館はサービスポイントでなく今まで通りの形を望みます。駅から遠いので、地域住民に利用しやすい図書館です。	
231		P23	P21の課題整理には「子どもの利用を推進する配置が必要」「市民のニーズに合わせた配置や運用の転換が必要」「地域館・分館も滞在しやすい環境をつくるなど、行きたくなる図書館づくりを進めることが必要」などと書かれています。そしてP23に「市全体の図書館サービスの向上を図ります」P38には「知の拠点」として人と情報、人と人をつなげることを基本に、貸出利用の促進や行きたくなる図書館づくりに取り組み、…」とあります。館が減れば、利用しにくくなる子どもが増えます。空白地帯も大きくなります。分館の規模が縮小されれば、滞在しやすい環境づくりも難しいのではないですか。ワークショップでも身近なところに図書館があってほしいという意見がたくさん出ていました。どんな「市民のニーズ」にあわせてこの計画を立てたのでしょうか。書いてることが矛盾しています。とても市全体の図書館サービスが向上するとは思えません。計画を見直してください。	
232		P23	立派な中央図書館ができるのは良いです。今住んでいるところは、バス停、モノレールの駅、電車の駅からも遠く、もっと高齢になれば、図書館はおろか、買い物難民になりかねません。本来ならば小規模な図書館をもっと建てて本の貸出だけでなく憩える場所にしてほしいです。図書館は全世代が利用し集える場所です。増やしてもいいですが減らしてほしくはありません。	
233		P23	中央図書館ができれば、家から近い人はとても便利だと思いますが、遠くなる人はとても不便だと思います。利用者が少ないからと言って、図書館をなくしてしまうのはやめてほしい。また、資料を見ていて思ったのは、図書館を縮小して、サービスポイントを設けるとありますが、予約本の貸出と返却のみなのか、普通に予約なしで本が借りられるのか、曖昧でよくわかりません。	
234		P38	「新たな施設配置」では、図書館が現状の10施設から5施設と半分になっています。利用者数が減っていると言っていますが、老人はバス代を払ってまではいけませんので、歩いていかなければならず、遠ければ行きにくいけれども、近くにあれば行けます。悪循環になっています。	
235		P39	地図に鉄道駅やバス停を起点とした同心円を重ねているが、図書館圏域とは言えない。空白地帯がないように見せかけている。こういう詐術はやめるべきです。	
236		P38	P42の表26 施設配置スケジュール（予定）のうち「令和10～11年度（2028～2029年度）」の列に関して、中央図書館の設置と同時に、岡町図書館の廃止ならびに服部図書館のサービスポイント化 または 廃止というスケジュールでは、結果的に図書館の分布としてはスリムになったけれど、図書館としての厚みは変わらないもしくは薄くなるのではないかと危惧しています。それについてどのように考えているか知りたいです。中央図書館の設置+岡町・服部の廃止ではなく、既存の体制にプラスして中央図書館を設置することは厳しいのか知りたいです。	
237		P3	「すべての人の『わたしの図書館』であることをめざします」とありますが、そのためには誰もが歩いていけるところに図書館があること、即ち空白地帯をつくらないことです。矛盾しています。	
238		P4	P3には、「誰もが自分なりに使い、楽しみ、つながる図書館へ」を実現するのに、図書館の空白地域が広がるのはおかしいのではないのでしょうか。全く逆です。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
239	配置バランス・空白地	P23	中央館を設置することを除き反対します。豊中市立図書館の使命や理念に反します。	(前項の市の考え方参照)
240		P23	最寄りの東豊中図書館で先日偶然、廣瀬陽一「中野重治と朝鮮問題」を見つけ、一読しました。その後「梨の花」「歌のわかれ」と中野作品を読み進めています。図書館で本棚をめぐり、思いがけない本に出会うことは宝さがしにも似た喜びがあります。無上の喜びを奪うような「みらいプラン」に反対し、その撤回を求めます。文化都市豊中を標榜するのであれば、今ある図書館施設の拡充、蔵書や利用者に対するサービスの充実こそ図るべきです。市内のどこに住んでいても、歩いて気軽に行ける所にあつてこそ、「わたしの図書館」は機能します。市民のためにお金を使いましょう。	
241		P23	どこでも一定のサービスが受けられるのが豊中の図書館の強味であったはず。それがずれるのは困ります。(同様の意見2件)	
242		P23	図書館を減らして利用が拡大するとは思えません。	
243		P23	私にとってはなくてはならない図書館です。気軽に利用できる交流の場でもあります。近くで絶対になくさないでください。図書館を一時的にとりあげるのは横暴の極みです。	
244		P23	分館が2館のみになり、さらに面積も縮小されるとなっています。今までの機能の維持が困難で、非常に後ろ向きだと思います。	
245		P23	病気で家族の理解も得られず、どこにも居場所がなかった時代、図書館の存在に救われました。子どものころから通っていた図書館がいつも門戸を開けて迎えてくれたおかげで、当時薬の効きにくい精神の病気を患っていましたが、図書館で過ごしている時間は体の中から絶えず湧き出て襲い掛かってくるような絶え間ない不安・恐怖がやわらぎ、一時のあいだ解放されました。図書館・本棚・本という空間・構造・物質そのものが、無限の知、苦しみの解決に至るかもしれない、まだ見ぬ可能性の存在を信じさせてくれ、気休めや抽象的な概念ではない、手に触って確かめられるほどの確かな希望を与えてくれたに他なりません。事実、病気の原因となった人間関係の確執の解決、病気そのものを回復させる手段の情報へは、図書館で得た知識なしにたどり着けませんでした。この体験は、商業的な本屋では起こり得ないことです。本屋は経済的・社会的貧困に対応しておらず、安全基盤を意図した空間設計ではないためです。図書館を必要としている人々がいます。図書館をなくさないでください。	
246		P23	表14は図書館の位置付けというより、これは格付けではないですか。中央に来ない輩には適当に・・・という不遜な考えがすぐて見えます。これで本当に市民の読書離れ(とは言い切れないのだが)を防げるのか疑問です。	
247		P23	「図書館は民主主義の砦です」と読んだことがあります。住民はいつでも誰でも無料で情報にアクセスすることができる図書館をなくさないでください。	
248		P4	基本コンセプトは立派であり、中央図書館設置の根拠として納得できますが、すべての人の「わたしの図書館」を本当に実現するなら地域図書館(分館も含む)の縮小や廃止が上がるのはおかしいし、反対です。	
249		P23	豊中市図書館の再編は、建物の老朽化やランニング費用の点においても必須事項ですが、利用者のニーズを吸収して増加を目指すには多くの困難が待ち受けています。単純に市民のニーズを集約すれば、貸出・返却に便利な小規模図書館を多く設置する事で対応でき、大規模な中央図書館は不要であると言えます。これで果たして良いのでしょうか。	
250		P23	中央館、地域館、分館と施設階層を分けるより、現在のようにどの図書館でも同様のサービスが受けられる方が良いです。中央館周辺の市民だけが質の高いサービスを受けられるのはおかしい。どの図書館も地域に根ざして主体的に運営するほうが、地域住民にとっても図書館にとってもムダがなくストレスも少ないです。	
251		P23	中央館を作る意義そのものに賛同できません。現行の図書館を充実させていくことで可能なことばかり。中央図書館の役割(7項目)の各項目はいずれも現行の図書館を充実させていく事で達成できます。	
252		P5	人生70~80年の中で図書館を利用する時期があると思っています。私も子どもが小さい時、週1回行きました。今75才。もう少ししたら図書館に通いたいと思っています。今まだ仕事しているので無職になり、時間ができたら。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」を取り組むことで、「人と情報」、「人と人」のつながりを進めてまいりたいと考えています。
253		P23	図書館の役割とは何でしょう。市民のコミュニティの場でもあるのではないのでしょうか。子どもの図書のコナーで知り合う親子さんもいるでしょう。高齢の方々が新聞を読みにくる場であっても良いと思います。子どもや高齢者に優しい豊中市であって欲しいです。	
254		P23	機能面、運営面を述べると、「愛され、親しまれ、信頼される」ことを理念とし、これからの図書館は小学生以下のクラスに特化し、ターゲットを絞って行くべきではなかるうか。真(マサ)に、「みらい(未来)」だ、日本のみらいを背負う人間を育てるのだ。子供の時から多くの本・絵本・図鑑・国内外の名作などの児童書に接して、心豊かに成長して欲しいとの願いを込めて。勿論、私を含めた今の利用者を無視した理論にあらず、未来が近づき、新たな構想が浮かべば、実行実践改善すれば良い、新陳代謝の一環として、理解して頂きたいです。司書の方には、①幼児、小学生には目線を低くし、良き相談相手になる②優しく良く合った本を与えて本を好きになってもらう③書棚は目線の位置とする④考える司書、活動する司書を目指す⑤幼児には、読み聞かせから始める。親子で楽しむ図書館を言葉とする、ちょっと図書館へ行こう!⑥地域コーナー、豊中市の歴史・地理を設ける⑦更に、読書感想文への積極的参加を求めると共に、半年に一度の割で優秀な感想文には表彰する、教育委員会、小学校も参加すべき。⑧社会科の授業には、図書館での調査・研究が付きものです。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
255	配置バランス・空白地	P23	地方自治体の役割は住民の福祉の充実を図ることと考えます。豊中の図書館は、役所のもでも教育委員会のもでもなく、豊中市民のためにあるものです。「みらいプラン」というなら子どもたちのためにも文化都市であって欲しい。	(前項の市の考え方参照)
256		P23	多くの本に直接接し実際に手に取りながら本を選びます。たくさん本に囲まれることのワクワク感が子どもの豊かな感性や好奇心を育むことに繋がると考えています。	
257		その他	若年層の図書離れ対策を検討すべきです。本件は教育委員会も含めた対応が必要です。幼児、児童、生徒が図書に触れる喜びを与えましょう。これは図書のデジタル化で対応できません。	
258		P23	市民（個人）の文化・教養の場として図書館はあります。歩いて行ける身近な所、学習の場。受渡し、窓口での事務のみでは困ります。知識、情報の基盤として活用し、利用できる場が必要。司書の必要性も同じです。	
259		P4	P3には、「すべての人の『わたしの図書館』であることをめざします」とありますが、歩いて行ける所に図書館が必要です。「人と人の情報をつなぐ担い手の育成」とあるが、館が減ったら情報をつなぐことは難しくなります。	
260		P23	つながる、わたしの図書館とあります。現在まで庄内幸町も入れて9図書館だったのを、現状規模で存続するのは3図書館（建て替えを含め）、縮小か廃止となるのが5図書館というプランです。明らかに「わたしの図書館」はなくなるのです。今図書館に繋がっている利用者の過半数は、今後も図書館と繋がるためには今以上の苦勞を強いられることとなります。	
261		P23	基本コンセプト「つながる、わたしの図書館で」に書かれた「わたしの図書館」とは、何を意味しているのでしょうか。縮小・廃止を止めていただいて、私が慣れ親しんできた”わたしの図書館”で地域の皆さんと繋がっていきたいです。大きくなる中央図書館で「つながる、わたしの図書館」が実現するとは思えません。もっと市民の声を聞くべきです。（同様の意見3件）	
262		P38	新たなサービス展開の一環で、図書館でさまざまな体験や課題解決が可能となる取り組みを進めるとありますが、図書館機能に必要な取り組み以外は不要です。	
263		P24	P24～27位置付け（施設階層）ごとの機能について、中央館には必要以上の機能は不要です。大阪府には中央図書館があるので、豊中市の図書館は広く市民が利用しやすいほうが良いです。分館を廃止してサービスポイントに特化するのには反対です。むしろ中央館をなくして、分館を充実させてほしいです。絵本の読み聞かせや、児童の読書会など、図書館の利用を通しての市民サービスの充実を図っていただきたいです。	
264		P23	不要なのは新聞コーナーです。縮刷版があれば事足ります。市民が入館し、書物に親しむことが一番。中でも小学生以下に特化した運営に軸足を置いてはいかがですか。	
265	P23	公共図書館の果たすべき役割について、住民の知る権利、希望する情報にアクセスすることのできる権利を保障するために、すべての市民に対して公平に開かれたものであることが必要と考えます。身近で歩いて行ける距離に公共図書館があることは、上記の住民の基本的権利を保障するにとどまらず、子どもたちの情操教育や発達保障、親子のふれあいといった観点からもきわめて重要な役割を担っているのではないのでしょうか。	今後、新たな図書館サービスとして、電子書籍の拡充やオンラインでの新規登録などの非来館型サービスとともに利便性の高い交通結節点でのサービスポイントの設置などを予定しております。	
266	その他	2現状分析で、いずれも高齢者の登録数が多く、現在図書館へ行く事が難しい方もおられるとは思いますが、市民の高い読書への関心がかんじられます。学校図書館との連携を強め、ゲームで離れがちな子ども達と読書体験をつないでほしいです。	市立図書館と学校図書館につきましては、物流便を通して市立図書館にある資料を取り寄せ借ることが出来ます。また、ブックプラネット推進事業で、市立図書館を利用し、子どもたちが図書館や資料を活用して問題解決する楽しさを実感するとともに、調べ学習のスキルを身につける等、自ら学ぶ力の育成につなげる、知的探究合戦「めざせ！図書館の達人」のほか、中学生によるおすすめの本を紹介しあう知的書評合戦「ビブリアバトル」などを開催し、読書意欲の向上とより豊かで多様な読書活動の推進をめざしています。今後も、市立図書館と学校図書館の連携強化に努めます。	
267	災害対策	その他	居場所づくりをしてほしいです。家に居づらい高齢者や、出かけたたくても出られない高齢者がいます。家族に気兼ねなく出かけやすい場所を作って欲しいです。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、「Ⅲ-4(7)新たなサービス展開」を取り組み、滞在しやすい環境を整えてまいりたいと考えています。
268		その他	災害が起きたとき、近くに図書館があると、被害が落ち着いてきた時に本が読めていいと思います。図書館でランチを食べたり本を読んだり勉強したりできる空間を作って欲しいです。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
269	子ども・子育て、高齢者等支援	P23	野畑・東豊中図書館は「交通結節点から離れた立地であり、サービスポイント化による効果も見込めない」ため分館にとあります。電車やバスなどの移動手段をとることが難しい子どもたちにとっては、歩いて行ける範囲に図書館があることが重要です。中央館の機能を充実させる一方で、従来地域の市民のために機能してきた地域館を「分館」「サービスポイント」へ変更することは、居住地域によって図書館サービスの不公平を生むこととなります。とくに野畑地域は周囲に他の大型公共施設がない地域です。子どもの利用も多いにも関わらず、機能を縮小するのは矛盾ではないでしょうか。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、野畑図書館は集会室や自学自習スペースの利用が多い点、東豊中図書館は子どもの利用が多い点を考慮し検討してまいります。
270		P23	高齢化も進む中、健康面の心配も増え、遠出することも少なくなります。足腰も弱くなっています。身近に無料で好きな趣味の本、手芸の本や今までに読めなかった本などを読む機会が失われるのはとても残念です。年金生活でも本代の節約ができなくなり、楽しみがなくなります。	
271		P23	毎週図書館を利用しています。毎週20冊程度絵本を借りて、子どもと楽しんで読む習慣がついているため、廃止されるととても悲しいし困ります。書籍も何もかもデジタル化されるこの時代ですが、活字に触れる大切さを子どもにこれからも教えていきたいです。ですが購入となると、複数読むとなれば金銭面でも苦しかったり、置き場所にも困ってしまうので、図書館はともありがたいのです。私も小説や料理本や趣味の本をよく借りて、子どもも絵本の読み聞かせを聞くことを親子で楽しんでいます。このまま廃止せず、親子の楽しみの時間を削らないで欲しいです。	
272		P21	「本市は公共交通網が充実しており、現在図書館には徒歩や公共交通を利用し行くことができます」と書かれていますが、図書館に交通費をかけてまで行くのは、経済的にも時間的にもゆとりのある人に限られると思います。高齢者の利用が多いのは、本を買う経済的ゆとりがないという要因もあり、歩いて行ける所に図書館があるからこそだと思います。歩いて行ける場所に図書館をという市民の強い願いが、今の図書館整備につながっています。市民ニーズというより、まず縮小ありきで費用負担軽減に重きを置いているように感じます。	
273		P23	交通便利性の高い場所(駅の近く)に図書館を作ることに反対ではありません。同じ程度に、子ども、高齢者、例えばベビーカーを押した人、車イスの人が電車に乗らなくても行ける今ある図書館の存続も強く希望します。(同様の意見2件)	
274		P23	コンセプト実現のための案として示されているみらいプランが、図書館に行きにくくし、利用しにくくするものでしかないため、不信感が残ります。小さな子どもとお母さんが歩いて行ける図書館。住まいの近所に図書館があることはとても大切だと思います。	
275		P23	市のあちこちに図書館が建てられたのも、市民活動がさかんに行われてようやく建てられたものだと聞きました。歩いて行ける身近に図書館を作るという目的で建てられた経緯があります。それなのに今企画されている案は素晴らしい施設のようなのですが、かなり数が減ってしまうと聞きました。それでは小さな子供の人や年配の方は足が遠のいてしまうのではないのでしょうか。せっかく良いものを作ろうとしているのに残念です。	
276		P23	高齢者、幼い子ども連れの親子は自宅から公共交通機関を利用するため最寄り駅まで歩き、運賃を支払わなければなりません。生活費が重なり苦しい家庭も多いです。図書館へ行く交通費を支払うことは困難。歩いて行けないところにしか図書館がない。これは市民から文化的権利を奪うとしか考えられない施策です。文教都市豊中市とは絶対言えません。この計画は撤回すべきです。図書館費をさらに削減するとますます利用者は少なくなり、すべての人の「わたしの図書館」にはなりません。未来ある子どもたちのため削減は考え直してください。	
277		P23	すべての人の「わたしの図書館」をめざしてとありますが、多くの人にとって現在利用している図書館が「わたしの図書館」です。特に高齢者や小さい子どもたちにとって、歩いて行ける図書館が何より利用しやすく楽しく豊かな時間を過ごせる場所なのです。みらいプランはそういう人たちの「わたしの図書館」を逆に奪うことになるのではないのでしょうか。	
278		P23	ベビーカーを押して行ける図書館が大切です。お年寄りもわざわざバスや電車で出かけるよりも歩いて行ける図書館が一番です。子どものことを考えても、お年寄りのことを考えても、中央館構想は的外れです。	
279		P23	来館者が少ないのを縮小の理由にはいけません。来館者は本を借りに来ているだけです。それは本好きだけができることです。本を読まない人いかにアピールするかを忘れていませんか。しかもそばに図書館があれば余計に読みません。我が家にも子どもがいますが、私が本に虫であったこともあって、そばにゴロゴロ転がっている本を、知らぬ間に開いていました。好奇心の塊である子どもは、そばにあれば興味から手に取ります。それがきっかけです。もし中央館にまとめてしまえば、そのきっかけすら失わせます。子どもや子連れの行動範囲は狭い。妙な子ども用のスペースは要りません。	
280		P23	お年寄りや子どもが自分の足で行ける図書館が減ることに反対です。車がない、電車・バス運賃が払いきれない方には利用できないこととなります。社会の弱者に優しくない案だと思います。数年前まで「読書活動日本一」という目標をかかげていたのに、非常に残念です。どうしてこんなに予算や面積、人員を減らす方向になってしまったのでしょうか。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
281	子ども・子育て、高齢者等支援	P24	近くにある図書館があるからいろんな本に出会っているのにも興味を持ち始めるのに、「配置バランスを考慮」すると書かれているがどこがバランス取れているのかわからない。街中にあるから寄りやすくなっていると思う。P38の施設配置にもあるように「分館」にされてしまっただけでは子どもが本に触れる機会は減るし、大学生になった私でも資料を借りたり、歴史の物語とかは読みやすい子ども用の本のコーナーを見ます。なのにそこもなくなってしまふとなると今までよりもっと図書館に行きづらくなります。わざわざ遠くの大きい図書館まで行って借りようという気にはなりません。「おはなし会」には何度も参加して楽しかった思い出がたくさんあります。図書館を減らす理由がわかりません。	(前項の市の考え方参照)
282		P38	岡町図書館を利用しています。買い物のついでに、何かのついでに良く立ち寄ります。地域の図書館とは気軽に立ち寄れることが一番。年をとっても散歩がてら、子どもが小さくてもベビーカーを押して、気楽に行ける。そんな地域の図書館をなくさないでください。	
283		P23	「市民ニーズに合わせた」とあるが、市民のニーズは地元の図書館を閉館することではありません。利用者が減少しているから閉館するのではなく、市は歩いていける身近な図書館を存続させ、行きたくなる魅力的な図書館になるよう努力すべきです。	
284		P22	図書館費をさらに削減するとますます利用者は少なくなり、すべての人の「わたしの図書館」にはなりません。子どもたちの未来に関わる問題、誰が責任を取りますか。無責任政策は止めてください。(同様の意見2件)	
285		P23	国の少子化対策に逆行しています。子育て応援と子どもたちの未来を考えると身近に図書館は必要です。予約、返却機能だけではなく、興味のない本にも触れることによって子どもたちの可能性を広げることになるからです。	
286		P23	豊中市立図書館の統廃合には反対です。児童の学力低下の要因となります。また高齢者には近所の図書館で読書する人が多いです。統廃合されればその方々の健康にも悪影響を及ぼします。	
287		P23	図書館の数を減らすのは反対です。大人はネットで予約して受け取るだけでも大丈夫だと思いますが、子どもたちから実際に手に取って選んで借りるという場所を奪わないでほしいと思います。豊中には図書館が9館もあるんだよって、こんな素晴らしいことはないと思います。	
288		P23	「すべての人の『わたしの図書館』をめざして」と言うからには、それにふさわしい内容になって欲しいです。中央図書館がいかに立派になると、利用する市民にとって身近にあり、また利用しやすい図書館でなければ「わたしの図書館」といえないと思います。当然ながら今まであった図書館が無くなるのは、これまで利用してきた近隣の方には辛いことです。豊中市は市民の大きな力で全国にも図書館活動や文庫活動が知られ、文教都市として市民も誇りに思うところで。特にこれからの時代を担う子どもたちにはオンラインでの読書だけでなく、最初は紙媒体の本に出会い、人生の友、また苦難に出会った時、悩む時、いろんな場面で本が助けてくれる存在になってほしいと思っています。家庭の事情やさまざまな事情で、本と出会う機会が失われている人にとって身近な図書館はなくしてはならないものだと考えます。保育所の子どもたちが先生に連れられ図書館に来て、好きな本を選んで見ると、つくづく近くに図書館のある幸せを感じます。中央図書館を作ることに反対はしないが、他の図書館を無くすことは反対です。規模は小さくても歩いていける身近な図書館は必要だと思います。	
289		P23	小学生の子どもたちにも、1人で歩いて行ける場所に図書館があるという環境は必要です。小さいうちから本に親しむということは、子どもが育つうえで、とても重要です。貧しい家の子どもでも、他の子と同じようにたくさんの本を読めるというのを実現するためにも、身近な場所に図書館があることが必要です。豊中市を子育てしやすい街にするのであれば、今ある図書館を1つでも減らしてはいけません。	
290		P23	「豊中市立図書館みらいプラン～すべての人の「わたしの図書館」をめざして～」という、この「みらいプラン」というネーミングはやめてもらえませんか。これは施設再編のための説明資料(しかも行政からの押し付け)であって、すべての人の「わたしの図書館」を具現化するものには程遠い内容です。「みらいプラン」から連想されるような、希望の持てる内容ではありません。子どものことを一番考えていないのに「みらい」と言わないで欲しいです。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
291	子ども・子育て、高齢者等支援	P23	市立図書館は無料で本や新聞等読める大切な市民サービス、なくてはならない人も多くいることを重視して、誰もが利用しやすいプランにしたいです。 利用状況では貸出数が全体として60歳以上の割合が3割、70～79歳が15.2%とありますが、これからの図書館のあり方として、高齢者や障害者の利用にも配慮していただきたいです。 また家に落ち着けるスペースがなく、静かに本や新聞・雑誌などを読める場所として、癒しの場となっている人もいます。本来子供もたちも、学習できるスペースがあって、図書に親しめる、自分で考え切り開いていける子育ての場にもなってほしいと思います。 今の図書館が、歩いて行ける身近な距離だからこそ利用できている人たちが多くいます。市民が利用しやすいのは、市内に「小さくて歩いて行ける身近な図書館」を拡大していくことこそ必要と考えます。 今回のプランは逆に、今ある図書館も縮小し、サービスポイントとするとなっています。 施設の総面積を減らすのを前提とせず地域の利用者の意見もよく聞いて再考していただきたいです。	(前項の市の考え方参照)
292		P23	身近な図書館がなくなる事を知らない人も多いのに急に大切な図書館をなくさないでください。子育て中の若いママたちも自転車で図書館に通っています。大切な居場所です。	
293		P23	豊中市立図書館みらいプラン～すべての人の「わたしの図書館」をめざして～と書かれていますが、何度読み返しても「弱者切り捨て」としか思われてなりません。そして“みらい”と云いながら全くこれから生きて行く子どもたちへの思いが一切感じられません。行政としての施策にかける思いが伝わってこないのです。	
294		その他	子どもの手の届く所に多くの書物があると学力が向上するそうです。本を子どもから遠ざけるのは子どもの学力を下げ、思考能力のない市民を育てたいのですか。	学校図書館の内容を「新たなサービス展開」に追記します。また、図書館では、4か月児健診時に絵本を提供するブックスタート事業や、市民主体のサークル等への出前絵本講座や出張お話し会の実施など、アウトリーチによる子育てサービスも実施しています。引き続き、子どもたちが図書館資料に触れあえる機会を進めてまいります。(豊中市立図書館みらいプランP44)
295		その他	ネットが普及し、なんでも簡単に調べられるようになったとはいえ、じっくりと深く物事を考え、理解するには本は欠かせません。上滑りの情報に流されやすい現代において、このことはとても大事ではないでしょうか。若い世代や子どもたちがネット情報やゲームにはまり、人と人との関係が希薄になりがち。本の中には他人の心を理解するためのヒントが山のようにあり、必ずやその人の感性・知性を深めるものがあります。人間の成長にとって読書は不可欠です。	4か月児健診時に絵本をプレゼントするブックスタートや、絵本の読み聞かせ、全小中学校に配置している学校司書のもと学校図書館や市立図書館との連携を通し、自ら学ぶ力の育成や読書意欲の向上とより豊かで多様な読書活動などの面で支援しております。今後も、子どもの読書環境整備を進めてまいります。
296		P23	どの図書館も高齢者が利用している割合は高く、近所にあるから歩いて1人で行ける方が多い現状です。コロナ禍の3年で地域との関わりが少なくなり引きこもり傾向が増大する中、図書館で本を借り、自宅で読書できることで認知症予防や気力低下、老人性うつ症状防止に繋がっている人もいます。そして未就学児の子育て層も近所なら行けませんが、遠くなれば行きにくくなります。同様にこども園からも散歩がてら図書館に行き、紙芝居や絵本を借りに行くことがありましたが、遠くなればそれもできなくなります。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年(2017年)3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度(2014年度)比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年(2021年)3月に(仮称)中央図書館基本構想を策定し、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館を利用しにくかった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組みでまいります。
297		P23	子どもの利用を推進する配置が必要なのに、歩いて行ける地域の図書館をなくすのはおかしい。	引き続き学校教育関係部局とも連携し学校図書館などの支援に取り組みとともに、関係部局や機関と連携して取り組んでまいります。
298		P23	高齢者や子ども、親子など歩いて行ける場所にあるから利用できます。生きがい、居場所になっている図書館をなくさないでほしい。児童館もあまりなく、地域で子どもの居場所が少ない中で、図書館は子どもたちの居場所になっているので、減らさないでください。(同様の意見3件)	
299		P23	現存の図書館をサービスポイントにしたり、閉館させるのではなく、地域館や分館として残すことを求めます。子どもたちが徒歩や自転車で安全に行ける距離でなければ意味がないです。	
300		P23	子育てや子どもの学力、街の治安を考えて、図書館に歩いて行ける場所に住まいを決めました。今回のプランにある不平等な扱いに納得ができません。平等に、知識やサービスを受けられる豊中市にしたいです。	
301		P21	コロナ禍で非接触、非来館型サービスを充実させたとありますが、すべての人がデジタルサービスを利用できているとは思えません。逆にデジタル化で困っている人もいます。若者の利用の減少は図書館に限ったことではありません。高齢者や子どもの利用割合が多い少ないは、場所を変えても、施設規模を大きくしても解決しないのではないのでしょうか。	デジタル化の利点については積極的な活用が必要と考えております。ご指摘の側面についても配慮しながら、今後の図書館が多くの人の行きたくなる図書館に変わるよう努めてまいります。
302		P23	公共図書館は乳幼児を連れて行っても嫌な顔をされない数少ない場所。乳幼児を連れて、バス、電車などの公共交通機関を利用する大変さを想像してください。身近な地域の図書館がなくなれば、確実に利用者は減少すると思います。また分館の規模が500㎡と縮小され、成人室と子ども室が近接すると子どもの声や泣き声など、親が気を使って足が遠のきます。書店が減っている中、さまざまな本に出会う場所として公共図書館の役割はとても大きい。これは子どもだけでなくすべての市民がいろいろな本に出会える場です。地域の図書館を市民のために残すよう要望します。	これまで図書館を利用していない層に対して、多様な利用形態に対応した閲覧環境の提案が必要と考えております。例えば賑わいと、静寂を必要とする空間を明確に分けるなど(音のゾーニング)、利用形態を検討してまいります。
303		P23	図書館サービス網の構築について、「サービスポイント」が「サービス網の構築」などと言えるのでしょうか。これから未来に向かって成長していこうという子どもたちの、あふれるような好奇心を満たす資料や図書を用意するのが図書館の役割だと思います。サービスポイントなど、ATMと同じです。	学校図書館の内容を「新たなサービス展開」に追記します。また、図書館では、4か月児健診時に絵本を提供するブックスタート事業や、市民主体のサークル等への出前絵本講座や出張お話し会の実施など、アウトリーチによる子育てサービスも実施しています。引き続き、子どもたちが図書館資料に触れあえる機会を進めてまいります。(豊中市立図書館みらいプランP44)

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
304	子ども・子育て、高齢者等支援	P21	小学生や子どもはひとりで歩いて行ける図書館がなくなる影響が大きいです。とくにお勤めなどで両親が不在がちの家のお子さんはどうなるのか心配します。	蛭池・高川図書館につきましては、図書機能を含めた子どもや子育て世帯などを対象とする住みよいまちづくりに資する施設の在り方を検討しています。その内容を踏まえ、取組みを進めてまいります。
305		P34	年金者や収入の少ない人が交通費を使ってまで図書館には行けません。みんなに住み良く、やさしい町にはなるようお願いしています。杖や車イスで電車に乗って行かなければならない設置状況には疑問を抱きます。ぜひ蛭池をそのままにしておいてください。	図書館利用が困難な人へのアウトリーチサービスの充実や、行きとなる図書館づくりを検討し、誰もが利用しやすい図書館づくりに取り組んでまいります。
306		P38	中央館・地域館・分館において、それぞれの役割に応じた滞在しやすい環境を整えますと書かれています。「それぞれの役割に応じた滞在しやすい環境」とは、どのようなイメージをしているのだろうか。民間の書店が実践している「書店×カフェ」のようなサービスによって、滞在しやすい環境を整備するなど、具体的なビジョンがあれば知りたい。 子どもにとっての、“滞在しやすい環境”と、若年層にとっての滞在しやすい環境”と、高齢者層にとっての滞在しやすい環境”が、必ずしも合致しない場合などは、どのように折り合いをつけていくのか。対応策などを考えているのであれば知りたい。	令和3年度（2021年度）に実施したサウンディング型市場調査では民間事業者との意見交換の中で、複合機能としてご指摘のカフェや書店のほか、子ども達が集まることのできる機能や公民館、スタジオ、テレワークブース、クリニックなど具体例が示されました。また多様なニーズに応える方法として、基本構想では、にぎわいのエリアや静寂のエリアといった区域分け（ゾーニング）について触れています。
307		P29	地域の図書館は学校への支援拠点となっています。これまで小学3年生で地域学習の一環として図書館へ出かけ、カードも作ってもらい学習してきました。図書館利用者を増やすためにも、図書館見学は本当に大事な学習の機会です。地域の図書館がなくなればできなくなります。中央図書館で受け入れるとしていますが、どうやって中央図書館まで行くのですか。借り上げバスが利用できるようにしてください。	中央館から離れた地域の学校からのアクセスにつきましては、学校と調整してまいります。
308	学校連携	P23	豊中の学校図書館は、本当によく発展してきて、教員や児童が当たり前、リクエストやレファレンスサービスを使っています。教員の教材研究、児童の多岐にわたる興味関心にこたえるリクエスト、さまざまな教科と連動している「図書の時間」の読み聞かせや本の紹介など、多岐に深くなっていきます。1人で働いている学校司書、また経験の浅い学校司書たちが、これまで、専門性の高い公共図書館の司書にたびたび支えられたおかげで、また学校の図書費では賅えない多くの資料を提供していただき、ここまで学校図書館と学校司書が信頼され、よく利用されるようになり、現在の評価に繋がったと思います。難しいレファレンスに応えられない時、何度となく公共図書館の方に助けていただきました。教員から「図書館ってさすがだね！」「（レファレンス回答が）わかってありがたかったー！」とほめていただいたら「豊中の公共図書館は専門性が高いですから」と自慢したことが何回もあります。今、公共図書館の職員の数が減らされ、その支えが弱まっていくような不安を感じます。豊中の公共図書館ってすごいんだよ！とよく他市の方に自慢してまいりましたが、今後近隣の図書館のように、専門性がない、期待されない図書館にならないよう、正規の司書（その専門性）の数も減らさないで、市民また学校図書館に十分なサービスを継続してください！ 今までの成果を損なうような流れが本当に残念です。もう決まってしまうようではあるので、この中で最大限の努力で、不十分になってしまったものを補えるようお願いいたします。 図書館は無料で、どんな家庭の人もどんな年齢の方も学習ができる、なくてはならない公共施設です。パブリックコメントをしっかりと受け止めて、今からでも少しでも、意見に耳を傾けていただけたらと願います。（同様の意見10件）	（仮称）中央図書館を核とした新たな図書館サービス網を構築するにあたり、学校図書館や子どもに関わる関連部署・機関、団体等との連携は重要であると考えています。（仮称）中央図書館開館後も市立図書館と学校図書館、子どもに関わる団体等との連携を維持し、子どもの読書環境整備に資する取り組みを進めてまいります。
309		その他	司書は人と資料を結ぶ大事な役割を担っています。私が昔、現職の時、図書館教育で司書の仕事の大事な専門性がよくわかりましたので、書いてみようと思います。豊中市に初めて司書がついた小学校は島田小（平成5年/1993年）ともう1校・2校です。私は司書が初めてついた島田小に転勤しました。司書が配置された島田小はそれは開かれた図書館になりました。いつも子どもがいる場所、貸出も予約制度や貸出方法を工夫していました。そして子どものくつろげる場所になりました。不登校の子も図書館には通うようになりました。司書は読み聞かせの他にパネルシアターや楽しいことを次々としてくれました。5年生の調べ学習では、司書が児童の相談のつてくれ、何を調べたいか、どんな本があるかを考え、1人2冊最低、本を用意してくれました。司書は、豊中市の11の図書館、図書室から本を借りてくれました。2022年は学校図書館との連携は4地域館のみとなりました。学校図書館の現場から、さまざまな声が寄せられています。物流便、資料提供については「担当館が遠くなり急ぎの資料を受け取りに行きにくい」「1校1回1箱の物流便に乗りきれない場合、担当館が遠くなり、自力で受け取りに行けない」等、たくさんの声が上がっています。豊中の教育まで後退させて良いのでしょうか。	学校図書館との連携については大規模校や新規採用の学校司書が配置された学校への支援の在り方について検討し、改善に取り組んでまいりました。引き続き、学校教育関係部局とも連携し学校図書館などとの連携・支援に一層取り組むとともに、市立図書館においても子どもたちが利用しやすい環境づくりに取り組んでまいります。
310		その他	学校図書館は小さい頃から図書に親しみ、いろんなことへの興味・世界が広がり、将来、自分の頭で考えられる大人になってくれる後押しとなるでしょう。そのきっかけを作るのは学校図書館の役割ですが、中央図書館・地域館・分館とも連携して、子どもたちが読書を好きになって、図書館も利用してくれるよう工夫・後押ししていただけたらと思います。 当該図書館の運営だけでなく市内小中学校の学校図書館と連携・交流し、子どもたちが読書に興味を持ち、子どもたちの育ちに貢献できるような取り組みをしてください。	
311		P23	市内には今のままでも図書館が少ないと思っています。小学校で図書館を活用することを学び、近くの図書館でイベントなどを体験し、本に興味を持ち学習の仕方も学んでいくのができにくいのでは。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
312	学校連携	その他	サービスポイントに変更されてしまう地域館や、案2以外に決定した場合に廃止されてしまう服部図書館が担当する校区の学校図書館の予算配分を増やしてはどうですか。児童が本に十分親しめるような代替措置をとっていただけたらと願います。せめて学校図書館の本を少しでも増やし、公共図書館が利用できなくなることの悪影響を減らせないでしょうか。	(前項の市の考え方参照)
313		その他	図書館の多様な利用の提案として、学校連携等特徴的な取組みの維持とあるので、これまでのように小学校の近くの図書館への見学・学習を維持して欲しいです。	小学生の図書館見学については、現在、全市立図書館の館内写真やサービスに関わる説明をまとめたDVD視聴で対応していますが、今後は地域館4館での見学を検討しています。(仮称)中央図書館開館後は、市内全小学校の見学を受け入れる取組みを検討してまいります。
314		その他	図書館が住んでいる地域からなくなるとのことです。代わりに小中学校の図書室を地域住民に開放してください。公共財産なのだから、市民が利用できる方向で考えてみませんか。	学校図書館においては、現在、児童生徒への読書活動・学習活動支援を主たる取り組みとして進めていること、またセキュリティの点からも現状での一般の開放は難しいと考えています。電子書籍の拡充やサービスポイントの新設を予定していますので、ご利用いただければと考えています。
315	連携	P3	豊中市内のサービス網については、本計画内で複数の図にて示されていますが、近隣自治体との連携による効果等については特に記載されていません。「公民連携や自治体間連携の強化による効率的な管理運営」も「本計画に関連がある主な取組み」となっていますが、どういったことなのでしょう	自治体間連携につきましては、基本構想(P46)「IV豊中市立図書館の基本方針-(5)広域連携の推進」内で北摂地区7市3町による広域利用サービスなどについてお示ししています。公民連携につきましては基本構想(P61)「V(仮称)中央図書館の構想-3「(仮称)中央図書館の整備手法」で①定期借地権方式②リース方式③PFI方式など様々な手法をご紹介します。
316		P3	<豊中市立図書館の3つの基本方針と主な取組み>のうち(3)未来へつなぐ～持続可能な組織の構築～に示されている『公民連携や自治体間連携の強化による効率的な管理運営』に関して、どのような連携を想定していますか。並びに、公民連携・自治体間連携を行うことで、どのようなメリットがあるのか知りたいです。	自治体間連携につきましては、基本構想(P46)「IV豊中市立図書館の基本方針-(5)広域連携の推進」内でお示ししています。公民連携につきましては基本構想(P61)「V(仮称)中央図書館の構想-3「(仮称)中央図書館の整備手法」でお示ししています。自治体間連携は、北摂地区7市3町による広域利用サービスや、北摂アーカイブス事業などの実例があります。公民学連携につきましては令和3年度(2021年度)の勉強会「これからの公民学連携と図書館について」で、桜井谷東小学校の学校図書館の床改修工事の事例紹介を行い、参加者からは材料や施工工事など無償で実施できた点について声をいただきました。
317		P38	教育文化都市豊中として図書館を市民相互の文化交流拠点として再定義しませんか。蛸池図書館のような「公民館との同居」スタイルも選択肢として考えていただけないでしょうか。分館は総合的な公共施設として行政の縦割りを排除した運営に取り組んでください。	図書館が(仮称)中央図書館を核にまちづくりの一翼を担う拠点となって取組みを進めるために、公民館との連携は重要であります。この点の考え方を「新たなサービス展開」に追記します。(豊中市立図書館みらいプランP44、P45)
318		P23	中央館の役割をあらゆる図書館サービスの中心に据え、市内の図書館以外の施設が所有している図書や資料の共同利用、蔵書検索可能とする構想を持つべきです。例えばすてっ情報ライブラリーとの連携が考えられます。	ご提案のような専門図書館との連携など、市民にとってより魅力向上につながる取り組みについては、今後も研究してまいります。
319		P38	大阪大学、大阪音学大学など大学図書館との連携策を調整してください。	大学との連携については、市民サービスの向上に必要な取組みのため、考え方を「新たなサービス展開」に追記します。(豊中市立図書館みらいプランP45)
320		P23	利用する時間がない人へのアプローチの1つを提案します。例えばコンビニに図書館端末を置いて、そこで申込受取もできるよう考えてはどうでしょうか。	図書館サービスの利便性向上につきましては、ご提案も参考にしながら、引き続き研究に取り組んでまいります。
321	障害者サービス	その他	この素案などの資料を点字化して、広くすべての市民に公開してください。すべての人の「わたしの図書館」をめざすのですから、「すべて」の中に障害をお持ちの方も含まれます。	周知方法につきましては、市民の皆さまにお伝えできるよう努めてまいります。
322		P24	障害者サービス(視覚障害者用の対面朗読室の設置と継続)について 現在野畑図書館にて、週1回のペースで対面朗読サービスを受けている全盲の視覚障害者です。その立場で、以下に意見を述べます。 (1)視覚障害者の読書権保障、「地域に開かれた図書館作り」という観点で、中央図書館はもちろん、各地域館・分館に対面朗読室が設置されることを要望します。 (2)現在利用している野畑図書館の対面朗読室は、防音設備が整っており安心して読書に集中できます。野畑図書館が分館となっても、この対面朗読室でのサービスが継続されることを切望します。	対面朗読は視覚障害者等にとって、重要な読書手段と認識しております。対面朗読については、野畑図書館の機能を考える際に検討してまいります。
323		P24	私は野畑図書館で対面朗読ボランティアをしています。野畑図書館が1/8に縮減されることで、野畑図書館の対面朗読室及び活動自体が危くなるのではと心配しています。担当している方は徒歩で通えること、野畑の対面朗読室の音響が素晴らしいことから、25年にわたり野畑図書館を利用されてきました。朗読している私も響きがよく、声を張らずに済むので2時間読んでもあまり疲れません。まして視覚障害者をお持ちの方の聴力はとても鋭敏です。野畑図書館の対面朗読室を残してください。そして野畑の対面朗読活動が継続できますよう、視覚障害者をお持ちの方がこれからも徒歩で利用できますよう、切にお願いいたします。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
324	障害者サービス	その他	弱者に冷たい計画だなあという印象がぬぐえません。	図書館利用が困難な人へのアウトリーチサービスの充実や、行きたくなくなる図書館づくりを検討し、誰もが利用しやすい図書館づくりに取り組んでまいります。
325		P38 「図書館みらいプラン」の大きい図書館を作るのは良いですが、その代わりに地域の図書館を縮小したり、サービスポイントにしたりするということには反対します。我が子は障害があり、自力で作業所に通っています。そして本が大好きなので、作業所の帰りに、岡町図書館や服部図書館に寄ってから帰ります。また休日にはいつも1人でお散歩に出て、服部図書館に寄って、本を読んで帰るというコースを歩いています。ですので服部も岡町も今のままの図書館が我が家には必要です。		
326		P38 私は仕事でガイドヘルパーをしています。その利用者さんの中で、毎週お散歩をされる方がいます。豊中にグループホームがあって、そこから岡町方面へ行かれる日と石橋方面へ行かれる日と2パターンあります。岡町方面へ行かれる日は必ず帰りに1時間弱岡町図書館で本を読まれます。また石橋方面に行く日は、帰りに蛭池図書館に寄って、本を読まれます。コロナ禍になってからは、すべて歩いている移動です。雨の日や真冬、真夏日にはさすがにずっと外歩きはできないので、図書館で過ごす時間がとても大事です。このように障害のある人たちにとって安心して居られて、好きな本が読めるという図書館は絶対必要なのです。減らすなんて、とんでもないことです。		
327	サービスポイント	P34	サービスポイントに選ばれた図書館は、なるほど貸出数は少ないかもしれませんが。でも図書館を居場所として利用している人が現にいます。少数者を切り捨てて、すべての人の「わたしの図書館」をめざすとは言えません。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」を取り組むことで、「人と情報」、「人と人」のつながりを進めてまいりたいと考えています。
328		P34 サービスポイントについて、高川・蛭池・服部図書館を予約資料の受取・返却に特化したサービスポイントにするという案ですが、重度の知的障害を持つ息子（成人）は、ネットで本を検索したり予約をしたりすることはできません。交通機関を使って移動することもできません。家族であっても彼がどの本を読みたいのかわかりません。ですが図書館へ行けば自分で本を見て選ぶことができます。本とカードをカウンターに持っていけば借りることもできます。通っていた小学校の近くにある図書館であれば一人で行くこともできます。もしその図書館がサービスポイントになってしまったら、息子は豊中市の図書館を利用することができなくなります。基本方針には図書館が、市民のつながる場としての役割を担うことをめざすとありますが、このプランが実現されたら、息子は逆にこれまでのつながりを絶たれてしまいます。高川、蛭池、服部図書館がサービスポイントになってしまったら、息子と同じようにつながりを絶たれてしまう人がいるのではないのでしょうか。サービスポイントを新たに設置することには賛成ですが、分館をサービスポイントにすることには反対です。		
329		P34 駅近にサービスポイントがあるのは便利ですが、施設再編による図書館費削減と見合いません。		
330		P23 サービス網の構築の中にサービスポイントがあるのはおかしい。サービスポイントには本も司書も不在。即ち図書館ではないので、すべての市民の「わたしの図書館」にはなりません。「受取り」「返却」場所に過ぎない。図書館網の中に入れるならば、司書・蔵書を配置すべきです。（同様の意見7件）		
331		P23 高川、服部、蛭池の図書館は地域の大切な宝です。だれでも気軽にすぐ行けるのが大切です。大きい図書館が2か所あっても利用できません！		
332		P23 私たち高齢者にとって図書館は情報を取り入れ、読書をする貴重な場所です。サービスポイントでなく読書可能な施設として残すよう要望します。		
333		P23 P12の(6)およびP20のレファレンスサービスについて、レファレンスサービスの必要性が減少しておらず、むしろ「大きく増加」も見られる中で、図書館の減数や司書のいないサービスポイントへの切り替えは、身近な相談先を失う市民を増やすことになり、利用者ニーズを考えていない、予算ありきの方針ではないでしょうか。現在の図書館を廃止・縮小することが得策とは思えません。		
334		P23 サービスポイントは広さが50㎡であること以外具体的なことが分からないので、図書館を廃止してサービスポイントの設置をするのが、つながる図書館とどう繋がるのか不明です。（同様の意見7件）		
335		P23 いこいの場としても利用されている図書館を閉館して、人も本もない受取、返却だけのサービスポイント開業は止めてください。職員が直接利用者と接する機会（貸出返却等）を失い、書棚の本の動きや利用者の要望を職員が肌で知る機会もなくなってしまいます。ますます利用者は少なくなることでしよう。		
336		P23 サービスポイントは資料の返却や予約図書を受け取りに特化するようですが、本来図書館とは豊富な蔵書を手に取ることで見識を広めたり新たな学びを得ることができる機関です。また、より良い情報を求めてプロの司書のサポートを得ることができることが重要です。蔵書と相談できる司書の限られた「分館」やその場で資料を選べない「サービスポイント」を活用できるのは、あらかじめ目的を持って特定の資料を検索・予約することのできる情報活用能力を持った一部の利用者だけです。一方、情報をどのように得れば良いかわからない、だからこそ図書館サービスを利用したいと考える市民が司書のサポートを受けるには、遠方の中央館まで出向かなくってはなりません。「中央館」と「分館」に機能を分けることで、日常的な利用者はさらに減少するのではないのでしょうか。		

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
337	サービスポイント	P34	何を基準に「多い」「少ない」を判断しているのでしょうか。5館の平均との比較ですか。規模の大きさ、徒歩圏人口の多寡など差がある施設を一律に平均と比較するのはおかしいと思います。規模も小さく、徒歩圏人口も少ない蛸池が少ないのはある意味必然とも言えるのではないのでしょうか。蛸池は貸出人数は平成30年度は東豊中と大差はないし、年間利用者数は東豊中より多いです。また、蛸池がなくなれば、膨大な図書館空白地帯ができる（サービスポイントは図書館ではない）のに、なぜなくすのか納得できません。高川もなくなれば、跡に大きな空白地帯ができます。利用が少ないからなくすというのは、公共サービスのあり方として間違っています。服部も中央館と重なるエリアもあるけれど、館の東側の地域は取り残されてしまうことになります。今ある分館は小さくても図書館として残してください。	(前項の市の考え方参照)
338		P34	判定結果によれば、利用者が少ないところは廃館にしてサービスポイントにする提案です。サービスポイントは図書館ではありません。廃館された地域は、ますます読書に親しむ人が減少するでしょう。利用者が少ないのであれば、増やすにはどうすればよいかの提案がほしいです。若干縮小したとしても、服部・高川・蛸池の存続を求めます。なお、サービスポイントは図書館廃止の代替措置ではなく、仕事などで忙しくて図書館に行けない人に対して、最寄りの駅などに設置して欲しいです。	
339		P34	蛸池と高川はサービスポイントになるとされていますが、今あるすべての図書館が必要です。残してください。サービスポイントでは機能が全然保てません。(同様の意見5件)	
340		P34	中央図書館はいりません。古い建物をメンテナンスしながら使い続ける方向に変えて欲しいです。服部、高川、蛸池図書館は残しませんか。地域の人たちに説明したのでしょうか。基本コンセプト「つながる。わたしの図書館で」とあるのに図書館を減らすのは納得がいきません。	
341		P34	位置付けが決まっていない5館と記載されていますが、現に利用している市民がいるのに（R3で合計約57万人）今更位置付けを低くして、まして図書館とは言えないサービスポイントにしてしまうというのは市民無視、市民切り捨てではないかと思えます。存続すべきです。	
342		P23	蛸池、服部、高川の図書館廃止にびっくりしています。この地域の人たちは図書館に行くのに電車、バスなどで行かないといけません。同じ市民なのにサービスを受けられないのは納得できません。本当になくするのであればデマンドバスなど対策を取ってほしいです。	
343		P23	サービスポイントにも本を置いてください。折角ポイントまで行くのだから、予約本だけでなく、他の本も目にすることで、興味が広がりますし、継続利用していくことになると思います。サービスポイントの無人化とありますが、人が居てこそその図書館としてのサービスになるので、何とか人が居るようにしてください。機械が置いてあるだけで困ります。(同様の意見2件)	基本構想において、サービスポイントは予約資料の受取や貸出資料の返却に特化した施設イメージをお示しています。令和元年度（2019年度）に実施したアンケート調査においても、駅前等利便性の高い場所への資料の返却・貸出が可能なポイントの設置を期待する意見が多く寄せられました。実施方法としては、有人のサービスとともに、経費をかけない無人化も今後検討してまいります。
344		P23	P28 表15によると、サービスポイントは「予約資料の受取・返却に特化」とあります。そこでは、インターネットを使えない方への配慮が必要だと考えます。例えば、職員がおられて、借りたい資料についての要望を聞き取り、その場で端末を使って検索しながら、いっしょになって予約をしてあげるなどです。ぜひ、ご検討ください。	予約やデジタル図書館の貸出方法について、周知してまいります。
345		P34	蛸池、高川の閉館で大きな図書館空白地帯ができます。現在小学生も多く利用していますが、小学生は校区外に子どもだけで出ることを戒められています。近くの図書館がなくなることは子どもたちにとっても、地域にとっても痛手です。本を読む子どももほど学力が伸びると言われています。子どもが気安く行ける図書館をなくさないでください。	引き続き、学校教育関係部局とも連携し学校図書館などの支援に一層取り組むとともに、市立図書館においても子ども達が利用しやすい環境づくりに取り組んでまいります。
346		P4	基本コンセプトのメインスローガン「つながる。わたしの図書館で。」には賛成です。しかし、既存の図書館を廃館にして、サービスポイントにすることに反対です。基本コンセプトからしてもおかしい提案です。「市民のニーズを抱える課題が多様化・複雑化している今」の記載についても抽象的で市として何をしようとしているのかよくわかりません。私が考える課題は、子どもと老人の読書量を増やすこと。子どもの人格形成と学力向上（文章読解力）を図る上で読書は欠かすことができません。老人にとって健康寿命を延ばすために適度な運動が推奨されており、読書は頭の運動のように思われます。読書によって健康寿命が延びれば、市負担の健康・介護保険費用が軽減されるかもしれません。子どもと老人にとっては、サービスポイントでの「予約資料の受取・返却」は難しいです。以前勤務していた尼崎の学校では、各教室に図書館で廃棄された本や寄贈された本が学級文庫として再利用されていました。豊中市にも学級文庫の整備を望みます。子どもは、本が身近にあってこそ本に親しむことができるのです。	
347		P34	「市の大半が鉄道又はバス停の圏域内にある」とありますが、公共交通の圏域内から外れ、図書館への徒歩圏内からも外れる地区については改善が検討されていません。少なくともサービスポイントを新設する必要があり、5カ所以上新設が必要です。改善の検討をお願いします。	これまで動く図書館の巡回ステーションを設置し利便性の向上に努めています。今後、新たな図書館サービスとして、電子書籍の拡充やオンラインでの新規登録などの非来館型サービスとともに利便性の高い交通結節点でのサービスポイントの設置などを予定しております。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
348	サービスポイント	P34	蛭池図書館は6.5万冊、高川図書館は8万冊の蔵書を所有しています。令和5年度（2023年度）の閉館以降は図書の閲覧ができないとなれば、これらの蔵書はどのように取り扱われますか。図書は貸し出さないが同じ施設内に設置するだけであればスペースの無駄であり、また、多数の処分等をすれば資源等の無駄になりますが、どのようにお考えですか。他館での活用などについて、時間をかけて対処していくべき事項です。	蔵書に関する考え方は基本構想の蔵書構築の方針にお示ししています。100万冊を本市の保存すべき資料数と想定しています。豊中市の図書館資料につきましては各図書館固定の資料としておらず、2分館の蔵書は他館での活用のほか、内容が利用に適さなくなった資料や、汚破損により一般の利用に耐えなくなった資料は、これまでどおり適宜廃棄処分します。蔵書としての使命を終えた資料の一部は、引き続き市民協働事業でリサイクル販売するなど有効に活用してまいります。
349		P42	蛭池と高川図書館は令和5年度（2023年度）上半期閉館、下半期工事となっていますが、地元住民、利用者には突然の決定が強制されるという事になります。人権無視も甚だしいと思います。岡町と服部は当然の間、黙っているのですか。知らせないならこれもひどい人権無視です。	蛭池・高川図書館につきましては、図書サービスポイント等の機能を含めた子どもや子育て世帯などを対象とする住みよいまちづくりに資する施設のあり方を検討しています。その内容を踏まえ、取り組みを進めてまいります。（仮称）中央図書館設置後に岡町図書館は廃止、服部図書館は（仮称）中央図書館の位置によってサービスポイント及び廃止となります。
350		P42	蛭池、高川図書館は令和5年度（2023年度）上半期に閉館するのですか。（同様の意見3件）	蛭池・高川図書館につきましては、図書サービスポイント等の機能を含めた子どもや子育て世帯などを対象とする住みよいまちづくりに資する施設のあり方を検討しています。その内容を踏まえ、取組みを進めてまいります。
351		P34	分館候補を選出し、それぞれ判定結果が示されています。同じ条件で分館とサービスポイントを選出しておきながら、スケジュールではサービスポイントだけ相当先行して開設することとなっています。判定結果とスケジュールに整合性が取れていません。蛭池・高川をサービスポイントにすること前提で本プランが書かれているようにしか見えません。	
352		P34	蛭池と高川のサービスポイントは、令和5年度（2023年度）に閉館と模様替え工事をし、令和6年度（2024年度）からサービスポイントとして開設することになっていますが、両図書館については本プランが正式決定した直後から図書の閲覧やレファレンス、おはなし会などのイベントが受けられなくなるのはあまりにも性急ではないですか。本来であれば、中央館の開設と合わせてサービスポイントをスタートすべきであり、仮にそこまでは難しかったとしても、十分な猶予期間を持ってから開始すべきではないでしょうか。	
353		P23	サービスポイントの役割として「多機能連携によるサービス提供」というのがイメージできません。仮に、サービスポイントを新設する際は他の機能との連携になるかもしれないが、既存活用型のサービスポイントについては、複合施設が多いとはいえ、現在よりも提供する内容が減る中で、「多機能連携」とは何を意味しているか理解できません。	
354		P4	豊中市の公共施設総面積2割削減のために高川・蛭池・服部図書館の廃止が計画されているように思います。このままの計画では「場としての図書館」の市民の利用が増えるとは考えられません。身近な図書館が突然なくなると知らされ、その代わりにサービスポイントを設置すると言われても納得できません。サービスポイントは図書館ではありません。子どもたちの読書環境が悪くなってしまいます。	
355		P34	蛭池と高川図書館はサービスポイントにする案ですが、想定面積50㎡であり、貸出返却機能はあっても図書館ではなくります。司書がいて、人を知り、資料を結び付けてくれます。そして司書がカウンターで利用者とのやり取りができるのは図書館だけの魅力です。立派な図書館ができて「歩いていける身近な図書館」が何より大事だと思います、図書館は知の宝庫であり、地域の憩いの場です。地域の図書館の役割は大きいです。（同様の意見8件）	
356		P23	サービスポイントの多機能連携によるサービス展開を具体的に示してください。予約資料の受取以外にどのようなサービスを利用できるのでしょうか。	蛭池・高川図書館につきましては、図書機能を含めた子どもや子育て世帯などを対象とする住みよいまちづくりに資する施設の在り方を検討しています。その方向性を「新たなサービス展開」等に追記します。（豊中市立図書館みらいプランP37、P39、P43、P44）
357		P38	既存施設を利用したサービスポイントは貸出返却機能だけでなく、児童館や親子プレイルームなど、地域の方が利用できる場所として活用できないでしょうか。	
358		P38	無人のサービスポイントを運用するにあたって保安面での課題はないのでしょうか。出入口で利用者カードをかざすと解錠されるような仕組みを導入するのでしょうか。	無人化のサービスポイントについては、警備員を配置し予約資料や返却資料の整理、緊急時対応を想定しています。貸出・返却については、セルフ貸出機・返却機による実施していただくことを考えています。
359		P34	野畑・東豊中図書館は他図書館から離れているので、高川図書館と同様にサービスポイント化の対象と考えます。	みらいプラン策定にあたり、岡町・庄内・千里図書館以外の図書館の位置付けについては、P36に示したように評価、判定を行いました。
360		P34	いぶきにおけるサービスは、曾根駅周辺、豊島公園に中央館ができた場合は他とのバランスを考えるなら、廃止しかないと思います。いぶきを継続して服部を廃止にするのはおかしいです。希望としては、いぶきを残してこれくらいの近接度でサービスポイントを増設して欲しいです。	いぶきでは週2回、貸出・返却・予約の受付などの限定的なサービスを提供しています。青少年が集う施設内にあり、周辺に高等学校もあることから、利用が減少傾向にある若者利用の促進にもつなげる必要性から、サービスポイントとして継続します。
361		P34	利倉西センター図書室は、地域バランスを考慮するなら、曾根駅周辺、豊島公園に中央館ができた場合は近接しているのでサービスポイント化するべきです。数値の比較も出されていないので、評価のしようがありません。近くには尼崎市の図書室もあるので、計画にあたっては周辺自治体との調整も重要だと思います。	市の中心から離れた地域の、市民の情報アクセス拠点として、利倉西センター図書室は今後もサービスを継続します。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
362	サービスポイント (高川)	P34	高川図書館では長年にわたり東西の名画の上映会が週に4度(土日月火)が実施されており、何度も足を運びました。コロナ禍で中断されいつ再開されるのか心待ちにしていたところが、いきなり事実上の廃館との決定です。利用者に対する背信行為ではないですか。	蜷池・高川図書館につきましては、図書サービスポイント等の機能を含めた子どもや子育て世帯などを対象とする住みよいまちづくりに資する施設の在り方を検討しています。その内容を踏まえ、取組みを進めてまいります。
363		P34	高川図書館の存続をお願いします。豊中に越してきて40年以上経ちました。この間に、子どもを育てて思ったことは、図書館が身近にあればということです。 私は岡町の図書館に子どもを連れていきましたが、当時、庄内の三和町にあった図書館には、自宅からバスを乗り継いで行かねばならず、それよりは阪急岡町駅に出かけるほうが、まだ時間が短縮できたからです。 ですから高川図書館ができた時は、もっと早くできたら良かったのと思いましたが、子育てされる方には本当に良かったと嬉しく思ったものでした。それが、廃止されると聞き、驚きました。 子育てに余裕を持たせて、知識を育むコミュニティーとして、子育て支援には欠かせない存在である図書館を廃止するのは、間違っていると思います。 少子化の問題や子育てについて、真剣に取り組む時代ではありませんか！地域から、高川図書館をなくさないでください。老後の市民にとっても大切な場所です。	
364	サービスポイント (蜷池)	P34	1月21日のシンポジウムで意見を言えなかったので、この紙面に書いて提出します。 私は刀根山に住んでいて、蜷池駅が移動の起点になります。大阪や池田への行き帰りに立ち寄ることができて、こんなに利用しやすい蜷池図書館をどうかなくさないでください。ここの図書館で感じた良い所を2つ挙げます。 ①開架式であること。自由に本棚の前で読みたい本を探せることです。読みたい本でなくても似かよった中味、著者と同方向をめざす作者、または著作物、まるで正反対の思考を展開する作者や著作物等々に出くわすことも本を探る楽しみでもあります。 ②開架式であること。幼児が絵本などを親といっしょに探すことは子どもと親のコミュニケーションがすすむたいせつな時間です。目的の本を手に入れることも親子のコミュニケーションも、どちらも大切だと考えます。本が目の前になければ、幼児には本の良さがわからないと思います。サービスポイント…になれば子どもが本に直接触れられず、どんな楽しい中味か、表紙を見て想像することができず、本離れを加速させることになると思います。(同様の意見3件)	
365		P23	未来を語る前に、なぜ今図書館の統廃合が行われなければならないのでしょうか。その根拠が分かりません。地域の人たちの意見を聞いたのですか。国からの指示なのですか。 図書館とは子どもから高齢者、心身に障害を持つ人たちも利用するところ、近くになれば利用できないことは当然です。素晴らしい図書館ができるのはいいですが、小さくてもいいから近くに図書館が必要です。 私は蜷池図書館を利用していますが、駅の建物内にあり、公共施設やクリニックとも併設されていてとても便利です。ここでくつろいでいる子どもや高齢者はたくさんいます。建物は老朽化もしていません。	
366		P34	私たち蜷池住民にとって図書館がいかに大切かわかりでしょうか。なぜ今の所ではなくてはならないのかを説明します。 私も良く蜷池図書館を利用して感じているのは、誰もが歩いて、または自転車等で利用できること、また図書館の中に入った時知識および文化を直接取り入れることができる点、それは人間生きて行くための要素を与えてくれる場所だからです。加えて老人等は新聞や本を掛けてゆったりとした時間を楽しんでいる様子を窺え、とても素晴らしい場所であると感じていました。 さらに私は他の市に住んでいましたが、そこで図書館教育が子供の成長にとっていかに大切なものであるかということを知りました。今もそれはひしひしと感じています。 それなのに地元の図書館がなくなると聞いてあまりにも豊中市の無謀さと無知さに憤りを感じています。 将来の市のことまで考え、知的文化を絶やさないよう、切にお願いいたします。	
367		P34	蜷池図書館がなくなると聞いて驚いています。公民館の部屋にあった頃からずっとお世話になり、新しくルシオーレにできた時は本当に嬉しくて、休みの日にはいつも利用していました。子どもたちも随分お世話になりました。それが電車に乗って行かないといけなのでは困ります。確かにこの3年はコロナ禍のせいで利用していませんが…予約を受け取りに行くだけの空間では困ります。	
368		P34	市のプラン通りになればゆっくり過ごせる空間もなくなるのでしょうか。図書館利用者のかなりの部分を占める高齢者がここから締め出されることとなりますね。そうならないように蜷池図書館をこの場所にこの広さのまま残してください。	
369		P34	蜷池図書館の地下には駐車場があり、阪急電車モノレールなどの結節点の位置にあり、利便性が高く幅広い利用者に使われています。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
370	サービスポイント (蛭池)	P24	蛭池はサービスポイントに変わる計画ですが、これは分館に近い機能のものにはならないということで決定でしょうか。縮小された蔵書の少ない形でも、閲覧などできるスペースを残すなどは可能性はないでしょうか。無人化になるなどすれば、現在と変化しすぎることは蛭池を利用していただ方には変化が大きすぎるようにも感じます。(同様の意見10件)	蛭池・高川図書館につきましては、図書サービスポイント等の機能を含めた子どもや子育て世帯などを対象とする住みよいまちづくりに資する施設の在り方を検討しています。その内容を踏まえ、取り組みを進めてまいります。
371		P42	4スケジュールについて、蛭池をよく利用します。今年度中に閉鎖されサービスポイントに移行するのでしょうか。何の説明もなしでいきなり狭い無人の部屋で予約本を受け取るだけになるのかと思うと驚くと同時に悲しくなります。	
372		P42	図書館の規模を変更するスケジュールですが、中央図書館は早くても令和10年度に設置することとなっていますが、蛭池サービスポイントの開設が令和6年度となっており、しかもその準備が令和5年度で、短くても令和5～9年の5年間、図書館に関する恩恵をほぼ受けられないスケジュールです。どうしてこのようなスケジュールになるのか理解に苦みます。せめて中央図書館が開設するまでは、現在の蛭池図書館を存続させるべきだと思います。子どもにとってはとても貴重な時間です。豊中市として子育て支援に力を入れるなら、どうか存続させてほしいです。(せめて、スケジュールを見直せませんか。)	
373		P34	2週間毎に子どもと蛭池図書館を利用し、毎回30冊借りています。「貸出人数や貸出冊数の利用が少なく、子どもの利用も少ない図書館です。」とありますが、人口減少に伴い貸出人数や貸出冊数が減少しているだけかと思いませんし、他の図書館と比べれば子どもの利用も少ないのかもしれないかもしれません。しかし、やはり子どもにとっては、徒歩や自転車を通える範囲に図書館があり、実際に書かれた絵や文字を確認して本を選ぶということがとても貴重な経験であり、サービスポイントではできないことであるので蛭池図書館を存続させてほしいです。今の規模での図書館存続が困難であるなら、せめて絵本や児童書コーナーだけでも存続することを強く強く希望します。大人は読みたい本や興味のありあそうな本をインターネット等で調べて予約することができますが、子どもはできません。サービスポイントに行く意味がほとんどなくなってしまいます。	蛭池・高川図書館につきましては、図書機能を含めた子どもや子育て世帯などを対象とする住みよいまちづくりに資する施設の在り方を検討しています。その方向性を「新たなサービス展開」等に追記します。(豊中市立図書館みらいプランP37、P39、P43、P44)
374		その他	蛭池図書館で手に入らなければ、中之島図書館へ行かなくてはならないと覚悟していました。しかしここで頼んで、ダメならと思えダメもとで蛭池へ行きました。無理なお願いを聞いていただいて本当に感謝しています。本を受け取りに行った時、幼児と母親や本を探す人、新聞を読む人など静かな中にも活気があったように思います。エアコンも効いていて快適な空間でした。	
375		P34	蛭池図書館は利用者が少ない、資料がかかるということでサービスポイントにするということですが、今の図書館の形を維持してほしいです。私は週2回ほど図書館に行きますが、ガラガラということはありません。むしろ私はゆっくり選びたいので人の少ないお昼をめざして行っています。土日は親子連れもよく来ています。利用者が少ないとは言え、あの広さと冊数があります。またコロナ禍の影響もあるかと思えます。以前、近くの幼稚園の子どもたちが先生に引率されてきていました。そんなこともできなくなります。蛭池の近くには小学校中学校、こども園も数園あります。歩いて行ける環境をぜひ残して欲しいです。大きな立派な図書館も良いですが、本に囲まれて、本の背表紙を見ながら選び、手に取りページをめくる、それが図書館に行く楽しさです。身近にその楽しみを持てる場所をぜひ残してください。図書館みらいプランに「つながる 私の図書館」とありました。地域とつながることをぜひ考えてください。	
376		P21	P21について黒丸4番目に、千里図書館では交通の利便性が高く開館時間が長いので、利用が伸びていると書いてあります。この考察からすると、蛭池図書館も同じように交通の利便性が高い図書館です。開館時間を延ばせば利用も伸びるのではないですか。せっかく利用しやすいところにあるのに、利用を促進する方向に考えず、閉館させるのは本当の市民ニーズを考えているとは思えません。※サービスポイントは図書館ではありません。	千里図書館につきましては開館時間に加え、鉄道やモノレールの乗降客数(令和元年/2019年)が蛭池駅より大幅に多く、蛭池図書館の開館時間拡大により千里図書館と同等の効果を見込むのは困難と考えております。蛭池は何よりも交通結節点という立地上の利点を活かし、新しい図書館サービス網の窓口として今後も活用していくことが適当と認識しています。
377		P34	蛭池図書館がサービスポイントとなると近接に図書館がなくなるので、交通の結節点を生かすなら中央図書館が来るべきです。どうしてもサービスポイントとするなら、箕面市のように近くの阪大と協定を結び利用しやすくする努力をして欲しいです。	基本構想において(仮称)中央図書館の想定エリアを豊中駅、岡町駅、曾根駅の周辺と定めています。みらいプランでは、基本構想に基づき3か所の候補地を選定し、今後、計画地を選定する予定です。大学との連携については、市民サービスの向上に必要な取組のため、考え方を「新たなサービス展開」に追記します。(豊中市立図書館みらいプランP45)
378	サービスポイント (服部)	P24	私は服部図書館の近くに住んでいます。服部図書館は中豊島地域包括支援センターが出来る時、市の方から地域で何か要望があればということで、移動図書館を利用していた方々の要望もあって、できた図書館です。確かに借地で毎年の費用はかかっても文化の都市をめざすのならば利用率も多い歩いて行ける図書館のまま残してください。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年(2017年)3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度(2014年度)比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年(2021年)2月に(仮称)中央図書館基本構想を策定し、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
379		P24	服部図書館を廃止又はサービスポイントにすることには反対です。子どもから高齢者までに親しまれ、愛用されています。近くの図書館をそのまま残してください。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
380	サービスポイント(服部)	P24	地域の子育て支援で近くの図書館から絵本、紙芝居もよく借りていますが、服部図書館がなくなるのは困ります。服部は中央館が曽根駅周辺だからいらぬというは、切り捨てだと思います。	(前項の市の考え方参照)
381		P24	服部図書館がなくなるかも知れないと先日聞き、とてもびっくりしました。ここ服部本町に越して来て約20年。生活には便利とは言えない地域。でもこの図書館が徒歩圏内でよくお世話になっています。ここがあって本当に良かった〜と家族で話してました。ここは小さなお子様もたくさん利用されている様子。私も近々孫ができますので、連れて来ることを楽しみにしております。奥にある部屋等を少々縮小してでも、予約本の取りつき等でどうか存続願います。曽根まではどうてい歩いて行けません！	
382		P24	服部図書館をよく利用しています。近くで歩いて行けるのが良いです。高齢になり自転車に乗らなくなりました。ますます図書館が遠い存在にならないか心配です。 (同様の意見2件)	
383		P24	服部図書館は、中央館が曽根に決まれば廃止、岡町に決まればサービスポイントという案が示されました。どちらにしても図書館としての機能はなくなってしまいます。服部図書館は近所なので、私がよく利用しています。老いの身(81歳)にやっとやっと通える距離です。図書館の楽しみは自分だけの時間を自由に使って好きな本を読めることです。司書さんは、市の図書館から本を取り寄せてくれたり親身な対応が忘れられません。歩いていける身近な図書館は高齢者にとってとても大事です。	
384		P24	服部図書館の今後のあり方に反対します。 豊中市立図書館みらいプラン概要版(5 スケジュール(予定))にあるように服部図書館は今後”サービスポイント又は廃止”とあります。 私が住む若竹町を含む16中学校校区には分館、図書室さえありません。子どもからお年寄りまで服部図書館を利用しています。 未就学から高齢まで図書館ほど学びにあふれた施設はありません。 岡町図書館の老朽化に伴う中央図書館への移行には大賛成ですが、なぜ身近の図書館が閉鎖されなければいけないのでしょうか。私には分かりません。 サービスポイントとはただ図書のATMが置かれる場所で、学びの場とは程遠いように思います。 サービスポイントとはただ図書のATMが置かれる場所で、学びの場とは程遠いように思います。 今日もたくさん利用されています。ぜひ分館として残していただきたい。よろしく願いいたします。	
385		P24	服部図書館は小規模ながら利用者数が多く、また幅広い世代に利用されています。またコロナ禍による利用減少からの回復も早く、このことはオンライン・リモートの時代にあっても、実際の本を見て、触れて、選び、読みたいという要望が強いことを示していると思います。さらに成長期の子供にとっては、「こんな本を読みたい」と思って探しに来ることもあるでしょうが、「なんか面白い本あるかな」と思って図書館に足を運び、書棚から面白いような本を選ぶことで生涯役立つ読書習慣をはぐくむ契機になることもあります。 また、緑地公園駅に近い方面にお住まいの方にとって、現在の場所にある図書館は比較的アクセスの良い、気軽に利用できる図書館として重宝されていると思います。こちらについては、サービスポイントの設置等を検討されるそうですが、上にも述べた通り、現物の書物に触れたい、という欲求に応えられる「図書館」の存在は大きな意義を持っていると考えます。 そういう意味で、できるだけ身近に、現物の本のある図書館を備えることは地域にとって非常に有益なことと考えますし、服部図書館はその役割を十分果たし、また今後も機能し続けると考えます。今回の構想では曽根あるいは岡町周辺に中央館ができれば服部図書館は廃止またはサービスポイントに変わるようになっていますが、地域の利便性はたとえわずかでも距離的に近いことが重要であり、数100メートルでも遠くなることで大きく効用を損ねることがあり得ると思います。今後高齢化がさらに進むことを考えても、できるだけ移動距離の短い地点に、現物の本と触れ合えるポイントを確保しておくことは大事なことでと考えます。 以上のことから、服部図書館は内容の充実こそ求められても、廃止、あるいはサービスポイントへの転換をすべきものではないと考えます。 (同様の意見2件)	
386		P24	服部図書館廃止の理由は納得できません。中央館が曽根付近にできたとしても、服部と曽根は生活圏としては別地域の感覚を持っています。直線距離だけで利用しやすさを測ることはできません。曽根と服部の高低差は地域を別々の生活圏にしています。みんなの図書館というなら、立派なものより身近な物を作って欲しいと思います。	
387		P34	服部図書館の場合、子どもの利用が増えているのなら、なおさら歩いて行ける身近な図書館として残すべきです。	
388		P34	子どもが小さい頃、北条町に住んでおり、服部図書館ができた時は嬉しく感じました。それまで歩いて行ける図書館がなかったからです。今、貸出人数も貸出冊数も圏域人口も多いのに、中央館エリアと重複または近接するからと廃止される可能性が高くなっています。北条町から岡町までは約2.7kmで高齢者や子どもが歩くのには遠すぎます。そのうえバスの本数も少なく不便なところです。減らす必要があるとは思えません。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
389	サービスポイント(服部)	P23	自由な時間を有意義に使いたい。図書館もくつろげる空間であって欲しいです。	基本構想及びみらいプランにおいて、(仮称)中央図書館の機能イメージについてはお示してきたところです。ご意見も参考にしながら、今後も市民の皆様と対話しつつ、多様な市民ニーズに対応できる中央館の設置に向けて検討を進めます。
390		P24	案2以外に決まった場合、服部図書館は廃止で、サービスポイントにさえならないのは大変な問題です。国の政策でも子育てに手厚くということと言われています。子ども図書館にするなど、子どもと本が出会える場所に特化した図書館などに変更するなど考えていただけたらと思います。	服部図書館は、中央館の計画地によってサービスポイントか廃止となりますが、施設のあり方は今後の検討課題であると考えています。
391	分析(サービスポイント)	P23	表14 位置付けごとの役割において、サービスポイントの役割を「予約資料の受取・返却に特化」としています。そうなった場合、傾向として、資料を多めに借りる人が増えると推測します。実際に資料を手にとって選ぶのとは違って、最適なものに絞れないからです。これは一例ですが、「みらいプラン」のもとでの利用方法の変化を、十分考えておいていただきたいと思います。上記例で言いますと、利用者の利便性を確保するために、これまでより蔵書を増やす必要が無いか、予約・返却に伴う作業工数が過大にならないか、などです。	みらいプランの推進に伴い利便性の向上も検討してまいります。また、蔵書については、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」のとおり、電子書籍を含む蔵書の充実に取り組んでまいります。
392	分析(利用状況)	P20	現況整理から課題整理の仕方が間違っています。地域館、分館を整理縮小する理由付けにしかありません。まず、利用が減っているから役割や機能を見直すとしながら、利用の少ない館を閉鎖するというのは、あまりにも短絡的でその結果、利用が増加するとは到底思えません。課題整理①の黒丸3番目の市民アンケートで「市立図書館の重要な役割」が「子ども読書の推進」、子どもの利用を推進する配置が必要。とあるのに、子どもが自分の足で行ける地域の図書館を廃止するというのは矛盾しています。さらに黒丸4番目で野畑・東豊中図書館では子どもの貸出が増加しているが分館では減少している一だから配置の転換が必要(分館をなくす)と読み取れますが、「子ども読書推進」の1番のポイントは、子どもたちが本に触れる環境です。2005年から2期10年に渡り市民協働で取り組んだ「豊中市子ども読書活動推進計画」でも、そこに焦点を当てて大きな成果を残しました。これまで豊中が大切にしてきた子ども読書の理念に反する短絡的な考察は納得できません。子どもの利用が少ない地域こそ、力を入れたいといけないところです。本に触れることの少ない子どもたちを切り捨てるのが市民ニーズだとお考えですか。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年(2017年)3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度(2014年度)比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年(2021年)2月に(仮称)中央図書館基本構想を策定し、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービス、子どもたちの読書環境整備も含め、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
393		P5	貸出人数や利用者数(来館者数)の推移のグラフを見るかぎり、コロナ以前は貸出人数も利用者数も減少しているとは言えません。図書館の縮小・廃止する根拠にはなりません。	
394		P17	現在の図書館配置で利用が不便な地域はないのか。その視点から図書館の将来構想を議論すべきです。	
395		P5	現状把握を受けて行われた現状分析の結果を知りたいです。図書館を廃止するための理由付けのように思えます。納得できません。	
396		P5	貸出人数は図書館利用の重要な指標です。館によって増減はあるものの、全館では以前と比べ1.01と微増です。貸出冊数・来館者数は全館で0.91と0.09ポイント減ですが、これは大きな減少ではなく、みらいプラン(素案)に示されるような多くの図書館を縮小・廃止する理由にはならないと考えます。また市全体の貸出者の年齢別割合を見ると60歳以上が33.5%、11歳以下が13.9%と全体の半数近くを占めています。この年代の方々にとっては気軽に歩いて行ける図書館だから利用できているという面が強いと思います。また高齢者や若い子どもにとってインターネットで検索し、予約するという作業はハードルが高いです。みらいプラン(素案)によって身近にあった図書館が遠のき、図書館とつながることが難しくなる方々が出てきます。図書館の掲げるコンセプトと真逆のプランであると考えます。若者の利用が少ないので利用を促進するための施策をと考えているのでしょうか、現在利用している市民の利便性を確保したうえで、検討することだと思います。	
397		その他	「豊中市図書館の現状分析」に「利用の低下傾向」が挙がっていますが、これは豊中市に限らず全国的な問題です。私個人が考える利用低下要因は、利用者年代の推移と考えています。過去から利用が多かったのは、団塊の世代と呼ばれる人たちです。公共図書館ブームが起きた70年代は、団塊の世代が20歳代でこの層は高度成長を支えていました。この世代はすでに70歳代に突入り、読書は視覚面など身体的に苦痛になりつつあります。私の廻りでも、読書を諦めている人がかなり見受けられ、今後の貸出数は緩やかに減少すると推測されます。よって「利用の拡大」は立派なお題目ですが期待薄であり、今後は読書の質を課題にすべきです。	(仮称)中央図書館を核とした新たな図書館サービス網を構築し、これまで図書館を利用しにくい人や利用できなかった人へのサービスも充実し貸出利用の促進を図り、新たな利用者を増やしてまいりたいと考えています。
398		P5	「豊中市立図書館に関するアンケート調査報告」のアンケート結果によると、公共図書館への来館目的は「資料を借りる」ためで、来館者の大半が「家事専従者・無職(しかも高齢)」となっていて通勤・通学者の利用率は低い傾向にあります。見方を変えると、公共図書館は無料貸本屋であって資料を探す所ではないとも言えます。通勤・通学者の比率が低いのは読書熱が弱いのではなく、「本・情報の入手方法」にある通り書店での購入(48%)が多いと推測されます。書店の購入が公共図書館の貸出(33%)より多くなっていますが、公共図書館の貸出は一人当たりの冊数が多いため、現状の全国統計での貸出数は書籍の販売数を凌駕しています。	これまでの豊中市立図書館はご指摘のような利用傾向があることを調査により確認しております。そうしたご利用形態に合わせてお応えることはサービスの基本と位置付けています。みらいプランでは今後、より多様な市民ニーズに応じたサービスを提供する考えをお示しし、例えば(仮称)中央図書館では規模の大きさを活かし、静寂スペースとにぎわいのスペースのエリアを分けるなど、仕事帰りに利用していただけるよう、目的に応じた環境整備を検討しています。
399		P5	ここで示されているのは現状分析ではありません。単なる情報収集に過ぎず、このデータも本当に活用しているのかどうか疑問に感じています。	毎年度の実績を報告する「豊中市の図書館活動」を作成し、現状分析や評価に活用しています。今後もデータや市民のご意見を踏まえ、取組みを進めてまいります。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
400	分析（利用状況）	P5	「コロナ禍の影響が少ない令和元年度と平成23年度を比較」となっていますが、令和元年度はコロナ禍の影響が少なくありません。2月20日以降、開催予定行事を中止し、3月2日からは予約資料の貸出と資料の返却のみとなったうえ、8日から24日は全サービス休止になりました。3月25日から予約資料の貸出と資料の返却のみ再開。こうした状況の中、1か月ほぼ休館では利用が減少しているのは当然のことです。令和元年度（2019年度）のデータを比較に使うのはおかしいです。コロナ禍の影響のない平成30年度（2018年度）と比較し直すべきです。（同様の意見7件）	（仮称）中央図書館を核とした新たな施設配置を検討するための各館の現況を把握するものであり、コロナの影響が少ない直近の年度を対象としています。
401		P11	年間利用者数の推移について、全館で令和元年度（2019年度）は平成26年度（2014年度）比で0.91で0.09ポイント減少しています。データの取り方を東豊中図書館に揃えると、それぞれ庄内幸町0.46、蛍池0.92、服部0.93、岡町0.96、高川0.96、庄内1.05、野畑1.01、千里1.03、合計0.98となり、いつといつを比べるかで評価が変わります。素案中の他の統計全般でも根拠なく令和元年度（2019年度）と平成23年度（2011年度）を比較しているだけで、同じことがいえます。全体的により精度を上げた評価をしないとミスリードの原因となります。右肩下がり・右肩上がりのグラフではない場合、まずは、変動の原因が何かを考察する必要がありますが、それを行っていますか。	
402		P11	図書館を減らす根拠として利用者数が減っているということですが、かつて充実していた司書を非正規に置き換え、休み時間にはいつも開いていた学校図書館を閉じさせてしまった結果によるものではないでしょうか。それらを戻すことによって、利用率はもっと高まるはずですが。市は利用者数を増やすための方法を考え、取り組んでもらいたいです。	（仮称）中央図書館を核とした新たな施設配置と「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」によって、貸出利用の促進と行きなくなる図書館づくりに取り組み、利用者数の向上に取り組んでまいります。
403		P18	淀川区の阪急三国駅が、図書館利用圏域として記載されていますが、阪急三国駅自体は新設される庄内コラボセンターと既存の高川図書館から離れており、徒歩800m圏外になります。豊南町南4丁目エリアは、庄内図書館が庄内コラボセンター移転する為、また既存の高川図書館双方から直線距離で1km以上離れています。従って、市外であるためにサービスポイントも設置できない阪急三国駅から徒歩半径800m区域をサービス網として記載するのは疑問に思います。庄内図書館の利用者は、子供の利用者が少なく高齢者の利用が多いのが現状ですが、豊南町南4丁目付近には、ほうなんこども園、豊南西こども園（令和7年/2025年3月末築園）があり、相対的な人数にすると高齢者の人数には劣りますが、一定層子どもを育てる世帯が居住していることは事実です。しかしながら、庄内コラボセンターへ現・庄内図書館が移転するにあたり徒歩圏外となるのが、ますます図書館への足が遠のく要因になり得ると思います。	ご指摘の地図（P47他）は、公共交通1路線と徒歩とを組み合わせてアクセスできる範囲を示したものです。このケースでは、最寄り駅が阪急宝塚本線庄内駅よりも三国駅という市民の皆さんが、三国駅から鉄道を利用し、庄内下車後、徒歩で庄内図書館を訪れるということを想定しています。そのうえで庄内図書館の移転によりご不便になることに対しては、徒歩圏外に居住される市民の皆さんと同様、非来館型サービスやアウトリーチサービスの充実を検討してまいります。
404		P5	個人登録者数の推移を見ますとコロナ禍でもあまり減少せず、令和3年度（2021年度）には全館で増加しています。貸出人数の推移からは平成25年度（2013年度）が最低で多くの図書館で平成27年度（2015年度）から微増し、以後横ばい傾向になっていることが見てとれます。ただし千里図書館は大きく上昇しています。令和元年度（2019年度）には減少しますが、これは令和2年（2020年）2月の休校指示と3月の閉館によるもので、平成30年度（2018年度）と単純比較はできません。利用者数は横ばいで令和元年度（2019年度）は休館の影響で激減しています。レファレンスサービスは増減がありますが平成29年度（2017年度）から大きく上昇している図書館も数館あります。子どもの貸出人数も図書館により増加、減少があります。多くの館で令和3年度（2021年度）には急増しています。コロナ禍で大きく減少せざるを得なかった利用者数のグラフを示してあたかも大幅に減ったかのような印象を持たせるのは一種の情報操作ではないでしょうか。	現状分析にあたっては、貸出人数、貸出冊数、年間利用者数、集会室等の利用など、他の複数の指標と併せて傾向を把握し、現状をお示ししています。
405		P16	千里図書館の利用者が市で一番多いですが、ゲートを何度も行き来するなど過大にカウントされていませんか。	入館者管理システムでは利用目的を測定できません。貸出人数や貸出冊数など他の指標と併せて考察しています。
406		P5	利用者数（来館者数）や集会室等の利用に係る項目は、実際の図書館ごとの数値で正しいと思いますが、貸出人数や貸出冊数、年齢などは利用登録の情報に基づいた統計だと思えます。我が家の場合、利用登録したのはたまたま車で来館した野畑図書館でしたが、普段は岡町・蛍池図書館を利用しています。この場合、貸出人数や貸出冊数などの統計も全て野畑図書館にカウントされていませんか。我が家の事例が一般的な利用形態とは言えないでしょうし、統計数値は大まかには正しいと思いますが、必ずしも統計数値が現実の利用を反映していないケースもあるのではないかと気になりました。統計情報を手掛かりにするしかないと思いますが、できるだけ多くの1人1人の現状や意見などの声を正しく取り入れて、今後も計画を進めていただけたらと思います。	貸出人数や貸出冊数は登録時の窓口ではなく、その後利用される窓口ごとにその都度カウントする仕組みになっています。ご指摘のように統計が必ずしも現実をそのまま反映していないことに留意し、現状分析にあたっては、貸出人数、貸出冊数、年間利用者数、集会室等の利用など、他の複数の指標と併せて傾向を把握し、現状をお示ししています。
407		P5	個人登録者数について、どこか特定の図書館に登録した認識はなく、豊中市立図書館に登録したという認識です。登録手続きを庄内か岡町で行い、受取りは主に岡町、閲覧は服部を利用しているという場合、どこが登録図書館になるのでしょうか。こういう利用者の現状なら、個人登録者数を比較する意味はありません。	利用登録の実際につきましてはご指摘のようにいろいろな場合が想定されますが、個人登録者数についても現状を把握するための1つの指標として取り扱っています。図書館ごとの貸出人数や貸出冊数など他の指標と併せて分析することとしています。
408		P8	連れてきた子ども（14歳以下）のために親が借りた場合、子どもにカウントされているのでしょうか。	図書館利用者カードの名義人の属性で数えています。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
409	分析（利用状況）	P11	利用者数（来館者数）について、ゲートの機能を利用して数える場合、複合施設では他の施設の時待ちなどで何度も行き来することがあり、過剰にカウントされる可能性があります。それは考慮されていますか。	図書館出入口に設置した器具により数えた数値（入館者数）を公表しています。利用目的は、測定していません。
410		P23	各館の個人登録者数、貸出冊数、貸出人数、レファレンス数の推移の原因分析がないように思います。個人登録者数は、減少もありますが増加している館や年度もあります。廃止またはサービスポイント化するという案になっている館の10代の傾向、服部図書館、蛭池図書館は40歳から49歳の増加が見られ、サービスポイント化や廃止によって、その人たちに利用されなくなる可能性はないのでしょうか。貸出人数も、一般、子ども、どちらも微増となっていて、コロナ禍の影響もありながら減っていないということは大きいのではないのでしょうか。理由は分析されていますか。全体の貸出冊数が減少しているのはコロナ禍での来館を控える風潮のあったことや、臨時閉館の影響も考慮されているのでしょうか。よく利用する子どもたちからも来館を控えているという声もききます。私もよく利用しますが、千里図書館は立地や開館時間の長さで増加傾向にあると思います。また地域的にも経済的にも安定している地域で読書に親しむ環境もあるのではないのでしょうか。仕事で時間のない世代にも利用されやすく、コラボの中にあり、エレベーターの場所もよく高齢の方も行きやすいと思います。ただ、各館のある地域の状況はさまざまで、利用者の傾向は違うと思います。千里図書館は千里のエリアに合った図書館になっているので利用が伸びているのではないかと思います。単純に貸出数などを数字だけで比較してしまっているのか疑問でした。豊中市全体の図書館サービスとして、各地域にある図書館の役割はどうあれば良いかと考えられて現在の図書館があるのではないかと思います。	利用状況や圏域人口、他図書館との距離、縮減効果などを参考に新たな施設配置を決定しています。今後は、基本構想やみらいプランに基づき、（仮称）中央図書館を核とした新たな施設配置と「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」によって、図書館サービス網を構築してまいります。
411		P12	レファレンスサービスの推移について、全館で令和元年度（2019年度）は平成23年度（2011年度）比で1.17で0.17ポイント増加していますが、年度ごとの変動が大きく、その要因を考慮しないと簡単には評価できません。変動の要因を考察しているのでしょうか。	現状として各館の利用状況を記載しており、貸出人数、貸出冊数、年間利用者数、集会室等の利用など、他の複数の指標と併せて傾向を把握し分析しています。
412		P5	市民団体主催のタウンミーティングの講演で、データから見る豊中市図書館の現状分析がありましたが、もっと他市町村との比較を詳細に分析し、市民に説明すべきではと思います。海外の図書館との比較は出版事情が違いすぎる事や、公共貸与権料を図書館が著者に支払っている国が多くあるなどから、あまり参考にはなりません。	他市町村との比較は豊中市の状況を知る機会となります。今後引き続き研究してまいります。
413		P20	以下のような疑問を持ちました。この分析は何の役に立てているのでしょうか。千里図書館の利用者が増えた理由は何か知りたいです？このデータの「若者」ってどの年代を指していますか。学校に行っている子どもは学校でも本は借りられます。小さな子どもを連れてくる保護者は若者ではないのでしょうか。子育てが一段落して「本を読む」余裕ができた時には若者じゃないなんて、若者にこだわる必要はありますか。子どもと中高年層をサービス対象に据えて取り組めますか。	利用状況や圏域人口、他図書館との距離、縮減効果などを参考に新たな施設配置を決定しています。今後は、基本構想やみらいプランに基づき、（仮称）中央図書館を核とした新たな施設配置と「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」によって、図書館サービス網を構築してまいります。
414		P22	少くとも過去5年ぐらいの数字を出すべきです。1年あたりの費用も同様です。	図書館運営経費の推移については、みらいプラン（P19）で平成24年度（2012年度）から令和3年度（2021年度）に図を掲載し、平成30年度（2018年度）をピークに増加から減少に転じていることと、市民1人あたりの年間の図書館費（決算）は微減していることと併せて記載しております。
415		P5	現状分析は現状把握に止まっています。各状況にどのように対応してきたのか。それでも改善されなかったのはなぜか。その分析がないのであれば、今後の対策も立てようがありません。	現状分析では、現況整理と課題整理を行い、今後の対応を示しています。
416	分析（集会室）	P20	利用が減ってきている原因は何か分析していますか。図書館を閉館するほどの減少とは感じられません。図書館を減らして利用が増えるとも思いません。また集会室の利用ですが、東豊中図書館は10人以上でないといえないと聞いています。その人数以下でも利用できるようにすればもっと利用されるはずですよ。	野畑、東豊中図書館はじめ図書館の集会室機能につきましては、ご意見も参考にしながら、多様なニーズに対応したあり方を今後検討してまいります。
417		P13	集会室等の利用を評価するためには、図書館や公的機関の催しでの利用と一般市民の利用を分けた（できれば利用態様ごとの）データが必要です。	図書館単独の事業だけではなく、市民協働での取り組みも多いことから利用態様ごとの比較は困難と考えます。
418		P13	集会室の利用が市全体で減少していると書かれていますが、利用しやすくする工夫が何もされていないと感じています。サービスを提供しようとする意識を高めていただきたいです。	集会室利用も含めて図書館サービスの利便性向上につきましては、引き続き検討してまいります。
419		P13	集会室の利用が市全体で減少していると書かれていますが、この間はコロナ禍にあったことや、（コロナ禍以前になりますが）エアコンが故障して使用できない時もあり、利用しようにも利用できなかったこともありました。また利用人数が規定数以下では利用できないと断られたこともあり。市民の利用希望はあるのに利用できないケースも含めて、この数字に表われていない需要も想定する必要性を感じます。	図書館の集会室機能につきましては、多様なニーズに見合ったあり方を今後の検討してまいります。
420	レファレンス	P23	レファレンスサービスは中央館に集中し、参考図書も中央館に集中して欲しいです。地域課題や地域特性に沿った資料も同様です。	基本構想（P48）では中央館に資源を集約し、多くの資料にワンストップでアクセスできる環境を整えることとしました。地域課題や地域特性に沿った資料については、その地域で必要とされる資料はその地域館で充実させることを考えています。
421		P23	どのような方法でレファレンスサービスを実施するのか示して欲しいです。	これまで岡町、千里、野畑図書館の参考室が市内各図書館のレファレンス機能を補完してきました。資源を集約した中央館が各図書館のレファレンスサービスを支援するとともに、地域特性を踏まえた庄内、千里の2地域館も必要に応じ課題解決を支援するためのレファレンスサービスを提供する体制を検討しています。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
422	レファレンス	P23	レファレンスサービスが全体で増加していることは、利用者が気軽に相談することができ、効果的に活用されているのだと感じました。サービスポイントは無人で、レファレンスサービスを受けられません。司書の配置人数を抑えることにも繋がり、相談する気軽さはなくなるのではないのでしょうか。図書館側も市民の困りごとや調べ物を支援することは、福祉的な意味の支援でもあると思います。施設の再編によって、その機会が減るのではないのでしょうか。豊中市立図書館はレファレンス協同データベースにも参加して、多くのレファレンスに込んでいる実績もあります。市民が気軽に相談できる図書館が身近にあるからではないのでしょうか。	これまで岡町、千里、野畑図書館の参考室が各図書館のレファレンス機能を補完してきました。資源を集約した中央館が各図書館のレファレンス機能を強力に発揮し、地域特性を踏まえた庄内、千里の2地域館も必要に応じ課題解決を支援するするとともに、他館でも相談支援ができる方法を研究してまいります。
423	P23	中央館と地域館と分館で、受け付けたレファレンス依頼を中央館で一元化して処理する構図では、中央館のレファレンス機能がパンクするのではないのでしょうか。回答遅滞や有料化という事態になり得るなら、せめて地域館にもレファレンス機能を付与してもよいのではないのでしょうか。(同様の意見2件)		
424	その他	各館にあるレファレンスのコーナーはネットで集約しても良いと思います。そもそもレファレンスを利用している人が少ないと思います。		
425	動く図書館	P38	動く図書館のステーションについて具体的な方策が全くありません。ネットワーク案を提示するのであれば併せて動く図書館についてもどのように関連付けるのか(あるいは廃止するのか)も示してこそ図書館サービス網の提示になるものではありませんか。	動く図書館のステーション配置については、「新たなサービス展開」に定めており、新たな施設配置による利用状況に応じて見直してまいります。
426	P38	新たなサービス展開として動く図書館の配置を見直しとありますが、見直し状況が知りたいです。新たな施設配置と切り離せない重要な案件です。(同様の意見4件)		
427	P38	移動図書館は南部でのサービス展開が一切なされておりましたが、今後は展開されるべきだと思います。高齢者の利用が多い庄内図書館が移転する事を踏まえても、移動図書館(乳幼児がいる家庭/スマホが利用できないお年寄り向け)や宅配サービスは必須になると思われます。同じ南部地域に関しては、島江町南部、大島町、二葉町は図書館圏域には含まれていません。また、低下している低年齢層の利用者の向上に繋げるためにも、徒歩圏外の地域の住人も図書館利用をしやすくする事が必要ではないのでしょうか。	現在も大島町や二葉町、庄内町の市南部につきましても、動く図書館のステーションに巡回しております。今後は、(仮称)中央図書館を核とした新たな図書館サービス網を構築し、新たな施設配置とともに効果的な動く図書館のステーションを検討してまいります。	
428	集会室	P24	「野畑図書館は集会室利用が多い」と書かれています。私も学習会等でよく利用させてもらっています。小さい部屋や大きい部屋など、今ある集会室・会議室は絶対残しておいてください。(同様の意見6件)	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、野畑図書館は集会室や自学自習スペースの利用が多い点、東豊中図書館は子どもの利用が多い点を考慮し検討してまいります。
429	P23	長く小学校などで読み聞かせのお手伝いをさせていただいておりますが、やはり子どもたちの読み聞かせる作品を選ぶのは多くの本を実際に手にとり、目を通した中からより良いものを選びたいです。同じ仲間との打ち合わせの場所も必要です。		
430	P24	集会室で文庫の集まりや、世話人の勉強会、講座等を開いてきました。引き続き、集会室機能を提供されることを要望します。		
431	その他	集会室の利用ももっと発信し利用促進しませんか。図書館は市の宝であり、市として誇れる財産です。不要な箱物に市の財源を使わず、既存の施設を大事にして欲しいです。	図書館の資源を有効に活用し、サービスの向上に努めてまいります。	
432	P24	集会室をなくさないで欲しい。子ども達のスペースが必要だと思います。	みらいプランで示す図書館の位置付け(施設階層)ごとの役割を基本に、中央館・地域館・分館・サービスポイントづくりを進めますが、分館においては、地域の特性に応じた特徴ある図書館づくりが必要であると考えています。その考え方を「新たなサービス展開」等に追記します。(豊中市立図書館みらいプランP24、P25、P44)	
433	新規	P37	サービスポイントは上新田エリアにも設置が必要です。千里や東豊中図書館と大きな幹線道路に遮られています。新田南では地域自治システムの構築を検討中で、現在地域で集まれる場所がありません。そのため図書館を核とした施設の整備を強く望みます。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年(2017年)3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度(2014年度)比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年(2021年)2月に(仮称)中央図書館基本構想を策定し、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
434	P37	あまり実現性のない提案かもしれませんが、緑地公園(服部緑地)内に図書館が作れたら面白いと思います。大阪府と協議して豊中市民だけでなく近隣市町村の住民も含めて緑の中でゆっくりと本に接することができる施設になると思います。緑と本と音楽とスポーツと。人口重心も桜塚付近だと思うのであまり離れていません。	新たな施設配置において、緑地公園駅周辺のサービスポイントの設置を検討してまいります。	
435	市民参画	P23	来館者を増やすための「しかけづくり」「場づくり」に力を入れる(お金をかける)ために、小さな図書館は不要とするという印象があります。歩いて行ける小さな図書館を支えてきた方々の意見をしっかり聞いて欲しいです。	意見No.1に対する市の考え方でお示ししたとおり、将来にわたり持続可能な図書館サービス網を構築するため、(仮称)中央図書館の整備と新たな施設配置を進めることが必要ですが、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」を取り組むことで、「人と情報」、「人と人」のつながりを進めてまいりたいと考えています。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
436	市民参画	その他	文教都市豊中、人権の町豊中というなら今回のプランは撤回し、市民の声をきちんと聞き見直すべきです。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館を利用しにくかった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後も引き続き市民の皆さまと対話を重ねながら、新たな図書館サービスのあり方について検討をすすめてまいります。
437		その他	図書館サービス網の構築について、新たなサービス展開のところで、『市内のどの地域でも利用しやすいように』とあります。しかし、みらいプラン通りに廃館となる図書館がある地域は、どう考えても不便になってしまうと思います。また、廃館になる図書館を利用する人たちへの周知も徹底されておらず、もう決まったことのようになっていませんか。市民の意見や要望がどのように反映されたのですか。もちろんこれから反映してくださりますね。わたしたちは小さい頃から文化を大切にと教わりました。図書館が地域から減ることはその逆になってしまいます。中央にどれだけ大きな図書館を作っても、周りの図書館が廃館や、本の貸し借りしきれないサービスポイントなんかになったり、面積が大幅に減らされてしまうと、なんの意味もないと思います。どうか市民の声をちゃんと聞く姿勢を見せてください。このプランでは文化や交流を大切にできません。	
438		その他	蛸池と高川は来年度上半期に閉館、下半期に工事となっています。利用者に何の説明もなく、こんな性急なスケジュール案をだすのは、市民をないがしろにしすぎです。閉館に反対ですが、もし閉館するにしても中央館のできないうちに閉館するのはおかしい。中央館構想に書いていた 令和6年度（2024年度）に市民一人あたりの図書館費2300円を達成するためのサービス切り捨てとしか思えません。これのどこが「すべての人のわたしの図書館」ですか。	
439		P23	基本構想の「基本コンセプト」はつながる私の図書館で～すべての人の「わたしの図書館」をめざしてとなっています。そのためには身近で歩いて行ける所に図書館があってこそなのではないでしょうか。中央館についても市民の意見を聞き、長年図書館行政を支え、たずさわって来られた方の意見をもっと聞くべきです。（同様の意見3件）	
440		P23	あくまで「素案」という事ですが、びっくりしています。「素案」の配置では、現状と比べて ①残るもの 千里・庄内・「室」が1つと（中央館） ②縮小 2館とも500㎡に 野畑1/7に 東豊中1/2に ③廃止 蛸池・岡町・いぶき・幸町・服部・高川 阪急宝塚線をはさんで図書館空白地域がポツカリと2カ所。空白地域を承知での「みらいプラン」は図書館行政として問題ではないでしょうか。慣れ親しんでいる地域の方々の図書館が廃止・縮小となって”未来”が描けますか。～すべての人々の「わたしの図書館」をめざして～がテーマとなっていますが、廃止され、縮小されるのが前提となっていて、「わたしの図書館をめざして」なんてむごい表現だと心痛みます。人権を大切に考えると豊中市として、まるで廃止・縮小となっている地域の方々の思いをなきものとしているような…。今までずっと築いてこられた豊中の図書館、図書館員の方々そして市民の運動、住民の要求に行政が応え、議会で決議されていった、全国に誇る先駆性などなど、後から居ついた住民としてありがたく思っております。変わらず市民の声を聞いてください。話し合いを続けてください。	
441		P23	豊中に図書館が誕生したのは1945年（昭和20年）3月です。その図書館則の第1条 本館ハ図書記録ノ類ヲ収集保存シテ公衆ノ閲覧ニ供シ其ノ教養及学業研究ニ資スルヲ以テ目的トス その後の77年の道のりで、住民に少しでもよいサービスをと職員が努力がありました。中でも動く図書館は市内全域に本の貸出サービスをしたこと、小中学生室では早くから開業式をとることにより、本好きな子どもを誕生させました。読書会・子ども文庫の活動や運動は図書館を成長させる大きな原動力となりました。地域図書館や分室も増え、身近に本を読む習慣は多くの市民が享受してきました。社会の変化で市民の暮らしも変わり、図書館サービスもそれに沿って変化が必要です。今、叫ばれている「人材育成」は住民に、そして図書館機能を他の施設と連携しながら十分に活用できる司書が必要です。市民・職員が熱い心でこれからの図書館のあり方を討議することは豊中のまちづくりに繋がります。図書館施設が減り、蔵書が減ることは市が衰退する事に繋がります。	
442		P23	「市全体の図書館サービスの向上を図ります」とありますが、この配置で現在より向上するとは思えません。読書振興課から令和4年（2022年）10月から行った市民ワークショップでの話し合いで、このようになったと説明がありました。ワークショップ参加者としては納得できません。事実ですが真実ではないと思います。このような意見が出たのは間違いありませんが、一方で施設階層は望まない、地域の図書館は大切だから残してほしいという、多数の意見はどこへ行ったのですか。ワークショップの最後の会で賛同する意見にシールを貼った、あの資料を開示した上で、それをどう反映してこのような位置づけと役割になったのか説明してください。	
443		P23	（仮称）中央図書館基本構想に大反対です。地域に密着した図書館とは市民にとって使い勝手の良い図書館です。服部・高川図書館などを廃止するのはもってのほかです。何を考えているのか豊中市長の意見を聞きたい。みらいプランが市民に受け入れられるかどうか、「市民、住民投票」をしてください。多分否決されるでしょう。呆れています。市民は近くにあって利用しやすい図書館を望んでいます。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
444	市民参画	P5	現状報告は結果のみ示しているだけで、そこに至るまでどのような手当てをしたのか、またその結果どうだったか、への言及がない。これでは図書館を廃止ための理由付けにしかない。例えば、集会室の利用については、利用者や地域事情に即したものになっていないのではないかと。その声を聞き、見直しをすることが大切なのに、それがなされていません。	(前項の市の考え方参照)
445		その他	(3)ー1中央館について、候補地の選定をはじめ、関係者・市民の声を十分に聞いた上で何より住民が利用しやすい図書館になるよう慎重に進めて欲しいです。	令和4年(2022年)の市民ワークショップでもご意見をいただくなど、(仮称)中央図書館については、引き続き市民の声をを踏まえて利用しやすい図書館づくりに努めてまいります。
446		その他	ともかく話が急すぎます!! もっと市民や利用者の意見をきいて、決めてほしいです。もうすでにすべてが決まっている気がして、恐ろしい。こんなので良いのですか、豊中市!!!? (同様の意見21件)	みらいプランについては、シンポジウムや市のホームページで周知するとともに、パブリックコメントで多くの意見をいただきました。今後も、ホームページや館内での掲示、出前講座など、より多くの人に知っていただき、市民のみなさまとの対話の機会をつくるよう努めてまいります。
447		その他	図書館は市民のもので。市民を無視しています。	
448		その他	1月にすこやかプラザでありましたシンポジウムに伺いました。素案に「新たな図書館サービス網を示す「豊中市立図書館みらいプラン」を策定し、その内容を市民に周知するため、未来の図書館像について市民と考えるシンポジウム」を開催しました。」とあります。基調講演とパネルディスカッションで構成されていましたが、市民と考えるとしながら、質問時間が設けられていませんでした。通常シンポジウムであれば会場参加者からの質疑を含めた進行になります。タイトルにパネルディスカッションとあれば、そのつもりで皆さん出向いたはずで、あのようない時中断するような事態にはならなかったのではないかと思います。シンポジウムと称する会では、質疑応答の時間があることを期待してしまいます。豊中市民の、豊中の未来の図書館像について疑問や質問を受け付けてほしいです。「まだわからないんです。」と答えるにしても、対話する姿勢を少しでも見せてほしいです。豊中市に期待しているだけに残念な出来事でした。 この度豊中市公式LINEアカウントのお友達になりました。使いたれたツールで市とつながれるのはありがたいことです。 これからの豊中市に期待し、注視している市民はたくさんおります。どこも人手不足の折、大変だと思いますが、どうか市民の意見を聞く姿勢を大切に行政を、ぜひともお願い申し上げます。	
449		その他	豊中市には行政施策のすべてをカバーする自治基本条例があります。前文に「新たな公共」＝公共領域のサービスや課題の解決などは、行政がすべて担うのではなく、市民や事業者と協力し合って担っていくという考え方が示され、自治の主体である市民・事業者・市が、参画と協働によって自ら決定し責任を負うという、自治体運営に関わっていくまちづくり＝「市民自治」の考え方が述べられています。 中央図書館基本構想とそれに続くみらいプランは、その策定プロセスにおいて、この市民の参画・協働を“絵に描いた餅”状態にしてしまったことが一番の問題だと思います。ワークショップもシンポジウムもほぼ決まったことの説明会になっていて、市民の参画とは言えません。だからこそ「豊中図書館問題連絡会」が急遽結成され、市民タウンミーティングに多くの市民が参集し、署名も活発に行われています。～すべての人の「わたしの図書館」をめざして～ というみらいプランの目的に初めから逆行しています。自治基本条例の考え方に基づき、市民と行政が知恵を出し合い、市民参画の新しい図書館ネットワーク構築を希望します。 (同様の意見2件)	
450		その他	イベント開催の手伝いを地元の方に依頼しているのを知っています。こちらから求めないとそれらの情報が得られません。本当にもっと市民を、地元を巻き込む努力をしてはいかがですか。掲示板に貼る、HPに記載する、市報に出す、それで終わっていませんか。	
451		その他	豊中市立図書館みらいプランの周知のため、シンポジウムの開催だけでは不十分なので、広報や各図書館でもしっかり宣伝して、市民の意見をつかんで欲しいです。	
452		その他	現在の体制が変更になり、実質なくなる図書館がある近隣住民との住民説明会はどれほどの頻度で行ったのでしょうか。その時にどの様な意見が出たのでしょうか。もしくは、住民説明会を今後進めていくのであればどの様に進めていくのでしょうか。	
453		その他	素案や概要版には、図書館に勤務する職員の見えず、計画を進めている職員がどのくらい利用者の声を聞いたのか、近隣住民への説明会を実施したのか、住民説明会を今後どのように進めていくのかなどが見つけられません。 結果的に体制を変える事になったとしても、手続き的正義の観点からおかしいと思います。	
454		その他	このプランとパブリックコメント募集も知らない利用者が多いと思われるので、各図書館ごとに住民説明会を大々的に知らせて開催し、納得のいくよう説明することと、住民の意見を聞くよう要望します。 (同様の意見13件)	
455		その他	このような子ども達に関わる案件の意見公募は、市からのお知らせとして、小学校で配布するか、コドモンで配信して欲しいです。 既に他のことでは市からして連絡があるのに、自分たちに関わりのあることをお知らせしない理由がわかりません。市役所のHPと重複しても何ら問題ないとお思います。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
456	市民参画	その他	蛭池地域の小学校に勤務していますが、経済状況も厳しいご家庭も多く、文化・教養に関心をもつ余裕が少ない傾向にあります。本が好きな児童は、おこづかいなどでは本を購入できないため、学校と公共図書館の両方を利用し、人気の本もなかなか順番がまわってこなくても、辛抱強く待って、本が届くととても感謝しています。サービスポイントとして残るため今後もリクエストの本は受け取ることができるかとは思いますが、やはりフロアの書架の間を歩き回って、自分にはない興味関心をひろげてくれる図書館が、そういう本に出合わせてくれる司書の方との出会いがある「図書館」がこの地域にあり続けてほしいです。問題だと思うのは、ほとんどの地域市民の方（本校の児童・保護者を含め）がこの計画を知らないことです。周知をしないまま、一部の熱心な人たちだけが、かろうじてタウンミーティングなどに出て、意見を言っています。それさえも、結論が出てしまっている中で（意見を言っても何も変わらないことが伝わってくるなかで）進行していったので、市の行政に不信感が強くなっており、大変残念でした。もっと早い段階で（中央館などの構想がほぼ決定している状況より前に）市民の意見をきけたらよかったです。かなり強い意見を言われる市民の方もおられましたが、みなさん、それだけ図書館に期待されていたということでしょう。	(前項の市の考え方参照)
457		P23	素案を読んで余りにも知らないうちに いろいろ展開されているのに驚きました。図書館は知の拠点です。市民と、また成長する子どもたちとともになくてはならない大切な場所です。住民の意見を聞いて再度検討していただきたいです。 身近なところでは、野畑図書館が分館になって面積が今の半分程度になります。土日には子どもたちがゆっくりと絵本を広げて読むスペースが確保できなくなることが考えられます。デジタル化が進むとしても子どもの時に絵本をゆっくりとめくって読むという体験は紙の本でないと当分はできません。集会室の利用が多い点でも地域の拠点としての機能も果たしており、規模の縮小についても住民との対話を十分に行なってもらいたいです。また、市南部は徒歩圏内の図書館がなくなってしまう住民の割合が高くなり、図書館本来の機能が果たせなくなる危険性が高いと思われます。地方行政は住民との対話が重要なのは論を俟たないのでもう少し丁寧な説明が必要です。図書館は文教都市豊中のシンボルでもあり、重要な課題なのでそれぞれの地域ごとの説明も必要です。住民向け説明会の開催なども含めて丁寧な対応をよろしく願います。	
458		P42	地域住民の知らない間に閉館が決まっています。スケジュールありきで進めないで、再度市民も含めた中で検討すべきです。	
459		P42	すべてのスケジュールを白紙に戻し、市民とともに再検討してください。どれだけの市民が、今年中に図書館が3館も閉鎖されることを知っていたのでしょうか。図書館のあり方を考えることからもう一度議論し直し、もっと広く市民の意見、思いをプランに盛り込むためには、もっと時間が必要だと考えます。 (同様の意見3件)	
460		P23	「基本コンセプト」つながる。わたしの図書館でについて、地域の身近な所に図書館があつてこそつながれるのではないのでしょうか。中央図書館をどんなものにするのか考えた時に、市民との協働こそつながる図書館づくりに必要なのではないのでしょうか。1度や2度のシンポジウムで話す機会を設けたからと進めるべきではないと思います。豊中市の11の図書館をつくってきた人、この行政にたずさわった方の意見を聞き、もっと地域への説明会もどんどん市が計画して住民とともに考えるべきです。今も「知らなかった」と言う人が多い状況があることをお知らせします。地域住民への説明も行ってください。2月号の広報にも「みらいプラン」は出されていません。「つながる」を大事にするのであれば出すべきではないですが。	
461		P23	高齢化が進む現在、身近にある図書館を縮小したり廃止したりしないでください。長寿の豊中であろうとすれば文化の環境は壊さないでもっと充実の方向で考えてほしいです。基本は市民の声をよく聞いて検討してほしいです。 (同様の意見2件)	
462		P42	スケジュールについて、つい最近まで「まだ何も決まっていません」と言っていたのに、いきなり「〇〇図書館は廃止します」はひどすぎると思います。	
463		P42	プランの撤回を求めます。なぜなら施設の設置、改廃と中身の充実や検討、市民の声を汲み取るスケジュールが欠けています。老朽化した施設と言っても、こんなに急いで改廃すべきではありません。修繕すればまだまだ使えるはずですが。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
464	市民参画	その他	図書館行政として「第4次豊中市総合計画」など上位の計画を踏まえているとありますが総合計画の5章に明記された「自治の基本原則である『情報共有』『参画』『協働』に基づく市政運営を推進します」というところが抜けおちています。さらに「図書館協議会意見書」を反映と書かれていますが、図書館協議会意見書で「特に重要な2点」とされた ・今まで市民とともに培ってきた豊中市の図書館活動、市民協働による図書館づくり、図書館運営をベースとする。 ・地域館、分館がそれぞれ自主的な主体性をもって決めていく仕組みが大切であり、その活動をバックアップするための中央図書館であること。 この2点が無視されたプランです。市民は基本構想策定の頃から、参画を要望しています。市民を参画させないのはなぜですか。市民を参画させない市政運営が豊中市の行政の基本姿勢なのですか。みらいプランは「市民参画」で策定されるべきだと思います。 ※決めてから意見を聞くのは「参画」でも「協働」でもありません。	第4次豊中市総合計画の5章に示しております「持続可能な行財政運営の推進」の必要性は基本構想でもご説明してまいりました。基本構想の策定やみらいプランの素案作成にあたりましては、広報誌やwebサイト、館内掲示などのほか、出前講座等の機会を設け、内容の周知に努めてまいりました。また、オンラインミーティングや来館者アンケート、市民ワークショップなどの機会にいただいたご意見を参考に、基本構想の実現に向け、みらいプラン策定作業を進めているところです。これら市民参画の成果をもとに、今後も協働による地域課題の解決を支援できるよう、公正で効果的・効率的な図書館行政の運営に努めてまいります。
465		その他	新しい施設配置がどうなるのか、心配して尋ねても「まだ決まっています」。そしていきなり、このスケジュール（みらいプラン）を出すということは、市民の意見を聞く気がないかと思えません。 決めてから聞くのは、「参画」でも「協働」でもありません。決めてから「丁寧に説明します」は、押し付けでしかありません。「豊中市自治基本条例」に明記された、「市民の市政に参画する権利」を蔑ろにするのですか。図書館は市民のもので、市民も責任をもって、計画に参画するべきです。このスケジュールは一度白紙に戻して、地域住民を交えて、その地域の必要な図書館はどういう図書館なのか、今後の豊中市立図書館の新しい施設配置を考えていくのが、「豊中らしい図書館のありかた」です。	基本構想の策定やみらいプランの素案作成にあたりましては、広報誌やwebサイト、館内掲示などのほか、出前講座等の機会を設け、内容の周知に努めてまいりました。また、オンラインミーティングや来館者アンケート、市民ワークショップなどの機会にいただいたご意見を参考に、基本構想の実現に向け、みらいプラン策定作業を進めているところです。これら市民参画の成果をもとに、今後も協働による地域課題の解決を支援できるよう、公正で効果的・効率的な図書館行政の運営に努めてまいります。
466		その他	地域の図書館をどうするかは、市民参画で進めなければなりません。豊中市には児童館がありません。地域の図書館は児童館の役割も担ってきました。野畑地区には公民館がありません。野畑図書館は自治会活動の中心として大切な施設です。野畑図書館近隣の自治会もこのプランへの参画はもちろん、十分な説明もされていないと聞きます。 また、「豊中市子ども読書活動推進計画」の実施計画から、子どもたちが本に触れる機会を少しでも増やそう、「豊中版ブックスタート事業えほんはじめまして」でつながった親子さんを引き続き図書館や地域でサポートしよう、と各図書館で赤ちゃん向けのおはなし会や、居場所を市民と一緒に作ってきました。そうやってきめ細かに子育てを応援してきた市民団体にも説明はありません。地域の図書館に通っていた子どもたち、赤ちゃん連れのお母さんたちは、どこにいけば良いのですか。	居場所や交流の場となる公共施設等について、関係部局や機関と連携し様々な媒体や場面を活用しながら周知してまいります。
467		その他	意見交換を行うワークショップは、どの期間のうち何回行われたのでしょうか。 自治会報などにものせていただき、もっと市民にアピールして欲しかったです。	市民ワークショップは、令和4年(2022年)10月13日・27日、11月10日・24日の全4回で実施しました。広報誌や市ホームページ、チラシなどで参加者募集を行いました。今後も多様な媒体での広報に努めてまいります。
468		P21	市民ニーズに合った図書館サービスとあるが、市民が図書館に求めるニーズは市民に聞いて欲しいです。説明会だけでなくアンケートくらいとればどうでしょうか。	基本構想策定にあたり、オンラインシンポジウム、オンラインミーティング、関係団体や有識者へのヒアリングを実施するとともに、関係団体の皆さんと公共マネジメントの理解を深める勉強会を実施しました。併せて来館者アンケートの結果を参考に、構想策定に至りました。策定後は、事業者と意見交換するサウンディング型市場調査に取り組み、市民ワークショップ(全4回)を経て、素案に対する意見公募手続の内容を反映させ、プランの成案を得る予定にしています。公募手続期間中には市民向けシンポジウムを開きました。なお、市民グループや自治会からの要請により出前講座の機会を利用した意見交換会に参加しています。
469		P21	市民ニーズと合っていないのではなく、市民ニーズを知る努力が足りないと思っています。	
470		P25	図書館を利用する時間がない、使うきっかけがないという理由がありますが、時間がない人たちも今の身近にある図書館を利用している人の中にはいるのではないかと思います。みらいプランを広く知らせ、忙しい働く世代や時間のない人で利用している人に理由を聞いたりなどされたのか気になります。新しい図書館ができて、初めのきっかけとして人が来ても、持続的に利用してもらえる図書館になるか、一時的なものにならないようなプランになっているのか、現状の分析を細かくして欲しいです。	
471		P29	市民と一緒に中央館のあり方を検討しましょう。「文教都市豊中」にふさわしい新中央館をつくる期待がふくらみます。ニューヨーク公共図書館のように、豊中市民の生活に密着した存在の中央館を作りたいものです。	

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
472	市民参画	その他	今回みらいプランへの意見募集の際にも感じたのですが、熱心な一部の人の意見しかなかなか集められないのではないかと感じます。今日締め切りですが、まだ可能であれば、広く、今図書館に興味のない人々からも意見や要望、何でもかんでも気軽に意見を集められるような方法があれば良い、と個人的には思います。豊中市の図書館はとても充実したサービスだと感じています。他の、市外の図書館を見て感じたことは、もっと親しみやすくキャッチーな感じで市民に呼びかけるような雰囲気がないのではないかということです。例えば茨木中央図書館などと比較した際、図書館のキャラクターがいて（豊中もマチカネくんがいますが図書館のキャラクターはいないので）イラストを使って呼びかけるような雰囲気など、子供から大人、初めて来館した人にも親しみやすさを感じられると思いました。豊中市の図書館は、真面目な公共施設らしいイメージというか、少し堅い雰囲気があるような気がします。市民にもっと近づいて寄り添っているアピールをしてくれていると、誰からも親しみやすく安心して利用できるのかな、と思っています。今回のみらいプランの募集に関しても「皆さんの意見、たくさん聞かせてください！」というもっと、わかりやすく、誰でも、何か意見言ってみようかな、と思わせるくらい、市民を巻き込んでいます、という雰囲気で募集してもらえたら、いろんな意見が聞けるのではないかと感じました。締め切り間近で、まとまらず長文で、抽象的な部分が多くすみません。市民みんなが親しめる素晴らしい中央図書館になることを願っていますので、よろしくお願いします。	(前項の市の考え方参照)
473		その他	本決まりまで具体的なものを公表せず、決まったら一方的に決定事項を通知するだけで市民の声を聞く姿勢が見えません。あまりにも上から目線で独善的です。なぜ最初から市民の声を聞かないのでしょうか。なぜ市民参加で、より良い構想を創ろうという発想ができないのでしょうか。図書館を利用するのは市民なのだから、市民の声を聞かずして、良いものが作れるわけがありません。	
474		その他	本計画を進めている行政の方々はどうほどの頻度で図書館に通い利用者の声を聴いたのでしょうか。	
475		P29	中央館の建設にあたっては市民の声を十分聞き取ったうえで検討してください。	(仮称)中央図書館建設にあたりまして、広報誌や館内の掲示、出前講座など、より多くの人に知っていただく機会をつくるとともに、市民ワークショップなどご意見を広く集められるよう努めてまいります。
476		その他	みらいプランの中で、中央館、地域館の位置付け、建設地の設定は既定路線に従うとしても、分館やサービスポイントについては、豊中市の図書館サービスのあり方を含め、もう少し市民との対話を重ねて、丁寧に議論すべきではないでしょうか。	令和4年(2022年)の市民ワークショップでもご意見をいただくなど、基本構想の推進にあたっては、今後も市民の声を参考に利用しやすい図書館づくりに努めてまいります。
477		その他	みらいプランをすべての図書館で拡大して掲示して、広く知らせてください。(同様の意見7件)	みらいプランを各図書館で周知できるよう取り組んでまいります。
478		その他	蛍池・高川が令和5年(2023年)上半期で閉館すると書かれているにも関わらず、利用者、地域の人たちに知らされていないのは考えられないこと。自治基本条例に反すると思います。(同様の意見5件)	蛍池や高川地区について、説明会を開催します。みらいプランについては、シンポジウムや市のホームページで周知するとともに、パブリックコメントで多くの意見をいただきました。今後も、ホームページや館内の掲示、出前講座など、より多くの人に知っていただく機会をつくるよう努めてまいります。
479		P4	現在9館ある図書館が、中央館は新設され、庄内・千里は現状規模で残されるが、他の図書館は規模縮小化廃止されるという計画であり、分館が2つだと豊中市図書館の規模(面積)が半減という、教育文化都市を名のる豊中市として恥ずべき計画だと思います。多くの市民の願いがあって整備されてきた図書館であるという事を重く受け止めるべきです。予約図書を受取・返却のみをするサービスポイントは図書館とは呼べません。	将来にわたり持続可能な図書館サービスを提供するためには、施設配置や人員体制の見直しが必要であるとともに、これまで図書館を利用していない、利用できなかった方々に向けても「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」の電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスの充実に取り組みむなど、すべての人がそれぞれにあったサービスを楽しむことができるよう、市民の皆様と対話を重ねながら今後も図書館サービスの向上に取り組んでまいります。
480		P21	市民ニーズを捉え間違っています。図書館の役割や機能を見直す結果がサービスポイント化だとするならば、利用者の減少を食い止めることは難しいでしょう。その結果、さらに縮小や廃止の方向性は強化され、歯止めがかからなくなることを危惧します。	
481		その他	蛍池、服部、高川図書館廃止に大変ショックを受けています。この地域の人たちは電車やバスを利用しないと図書館へ行けなくなります。同じ市民なのにサービスを受けられなくなるのは納得できません。文化的サービスを受けられなくなるというのは地域間格差を広げることになり、市民の権利の侵害です。それも行政からの説明もいっさいなく、突然の閉館なんて許せません。説明会を開くべきです。	将来にわたり持続可能な図書館サービスを提供するにあたり施設配置の見直しは必要ですが、「Ⅲ-4(6)新たなサービス展開」の電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスの充実に取り組みむなど、今後も図書館サービスの向上に取り組んでまいります。みらいプランについては、シンポジウムや市のホームページで周知するとともに、パブリックコメントで多くの意見をいただきました。今後も、ホームページや館内の掲示、出前講座など、より多くの人に知っていただく機会をつくるよう努めてまいります。
482		P22	図13で図書館費が減少していることがわかります。市民1人あたりの図書館費が北摂近隣都市と比べ少ないと聞いています。他市と比較することなく図書館費をこれ以上削減することは、よく利用される文化の中枢を担う公共施設を削ることであり、市民は決して望んでいません。他市との比較も掲載したうえで、改めて市民の意見に耳を傾けるべきです。	市民一人あたりの図書館費の目標については、平成25年度(2013年度)に見直し開始当初の人員費をはじめ、最低賃金や消費税、光熱水費の社会経済要因などを加味して、令和3年度(2021年度)の図書館費を算出したところ、市民一人あたり2012円であったため、一定目標値を達成したものと考えています。引き続き、効果的・効率的な図書館運営に取り組みながら、持続可能な図書館サービスの提供に努めてまいります。
483		P4	庄内図書館と千里図書館は地域館と既に決定しているが、決定にあたっての議論を公開して欲しいです。	基本構想(P47)「Ⅳ豊中市立図書館の基本方針-3施設配置方針」の施設配置方針を示す中で、市中心部から離れた南部と北部エリアの利便性確保のため、2館を地域館として位置付けることとしています。いずれも市内図書館のなかでは、建設されてから日も浅く、基本構想の対象期間内に地域館としての諸機能(みらいプランP24)を担うことができると判断しています。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
484	市民参画	P5	現状報告は結果のみ示しているだけで、そこに至るまでにどのような手当てをしたのか、市民への報告がありません。不親切きわまりないように感じています。	図書館事業につきましては豊中市立図書館評価システムにより活動内容を検証しています。毎年評価項目表による実績を報告するとともに、5年に一度、その期間の活動を検証する自己点検報告書にまとめ、来館者アンケートの実施結果と併せて、図書館協議会の評価部会を臨時開催し、外部評価を行っています。内容につきましては、図書館webサイトや豊中市の図書館活動（冊子）等でお知らせしているところです。
485	表記	P2	諸計画のどこを連携するのかわかりにくく、具体的な記述が欲しいです。	諸計画との関係につきましては、基本構想（P3）でお示ししています。
486		P22	「これからの生活様式に即した非来館型サービス等の提供」とありますが、既存のデジタルサービスとの違いはありますか。どのようなサービスを展開するつもりなのか知りたいです。また非来館による利用スタイルと、図書館のつながる機能を大切にすることと相反するように思えます。図書館に来なくてもつながることはできるのでしょうか。	新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル化の推進により、図書館に行かなくても情報を得る方法の充実が必要です。そのため、電子書籍貸出サービスを実施するとともに、今後は新規登録のデジタル化も検討してまいります。また、図書館の利用が困難な人へのアウトリーチサービスも大切です。これまでの取組みと非来館サービスを進め、「人と情報」、「人と人」のつながりを進めてまいりたいと考えています。
487		P4	日本軍が戦争で負けた時「転戦」という言葉を使ったが、補完、集約の具体的な内容が不明。廃館があることをこの言葉でごまかしているのではないのでしょうか	基本構想でも分館の位置付けを示す際に、「中央館・地域館を補完」、「数施設に集約」と記載しています。みらいプランでは、前者につきましては、中央館や地域館から徒歩圏外にある地域の図書館として、野畑図書館や東豊中図書館が引き続き分館機能を果たしていくこととしています。後者につきましては、分館機能を野畑、東豊中の2館に集中させることを意味しております。
488		P16	各館施設現況について、各館の所在地が分かりません。またどのような機能と複合しているのかも分かりません。	各館の施設状況につきましては、『豊中市の図書館活動Ⅰ（報告）』などでお示しているように、服部、高川、千里、東豊中、螢池図書館、および前掲書には記載がありませんが、新しい庄内図書館におきましても、複数施設・機能との複合が実現しております。例えば介護予防センター、スポーツルーム、公民館、老人憩の家、こども園などの事例がございます。所在地は図12などの地図からお読み取りいただくことができます。
489		P16	それぞれの図書館の特性を示す記述を追加してはどうでしょうか。例えば千里図書館はビジネス支援に力を入れていることや、岡町図書館には医療・健康情報コーナーが設けられています。	「各館施設現況」において、暮らしの課題解決の記述を追加します。 （豊中市立図書館みらいプランP16）
490		P17	「図書館へは徒歩のほか、公共交通を利用しアクセスすることができます。」というのは、市民誰でもアクセスしやすい立地という意味でしょうか。図書館は駅・バス停から徒歩圏内かもしれませんが、公共交通機関を利用するには自宅から最寄りの駅・バス停まで歩かなければなりません。バスは運行本数が少ない路線もあり、公共交通機関を使って図書館へ行くというのは結構ハードルの高いことだという認識が必要です。現状が、誰でもアクセスしやすい立地であるかのような書き方は適切ではないと思います。	すべての市民の皆さまが徒歩のみの図書館利用は難しいと考えています。そのため、これまでも動く図書館や宅配サービスなどを実施してきたところであり、今後も電子書籍や動く図書館、アウトリーチサービスなど、利用しやすい手段を検討してまいります。
491		P18	図12「図書館からの徒歩圏800mと公共交通の状況」は何を意味しているのか不明です。参考として掲載されている図から類推する限り、現在の図書館配置で公共交通1路線と徒歩でアクセスできる範囲を示しているように思えるが、それではアクセスできないエリアも囲われています。この図では現状の図書館配置で1路線+徒歩でアクセスできる範囲を示すべきではないでしょうか。また人口総数メッシュを背景に使っていることを活かして、現状の図書館配置と参考図で、公共交通1路線と徒歩でアクセスできる範囲に含まれる人口総数をカウントできませんか。現状の図書館配置でカバーしている人口と、各配置案でのカバー人口の比較が数値でも確認できるようになり、良化するのか、悪化するのか一目瞭然で確かめられます。	各図書館へ徒歩と公共交通1路線でアクセスできる範囲の現況を示しています。
492		P19	図書館運営費（図書館費の動向）について、令和3年度（2021年度）に図書館費が激減した理由は何でしょうか。また、平成27年度（2015年度）の図書館費合計が前年より減っているのに、市民一人あたりの図書館費が大きく増えているのはなぜでしょうか。この統計は正確なのでしょうか。	令和3年度（2021年度）に図書館の施設管理業務を包括施設管理制度に移行したことにより、名目の図書館費は減少しております。市民一人あたりの図書館費は、基本構想において施設管理業務も含めることとなっております。また、平成27年度（2015年度）の図書館費についてはご指摘の通り数値の誤りがございました。図14の市民一人あたりの図書館費の平成24年度（2012年度）～平成27年度（2015年度）の数値については修正します。 （豊中市立図書館みらいプランP19）
493		P21	概要版「3.課題」に挙がっている子どもや若年層の利用推進及び「行きたくなる図書館づくり」のことを考えると、すべての図書館で市民交流や情報発信機能を持たせ、子ども文庫など市民の自主的、独創的な取り組みを支援することを位置付けてください。	「第3章豊中市立図書館サービス網の構築」の「1 図書館の位置付け（施設階層）ごとの役割」を基本に、これまでの市民協働事業の実績も踏まえ、地域の特性に応じた特徴ある分館づくりを検討してまいります。
494		P21	課題整理とあるが、課題の整理になっていません。ハード先行で、その理由となる現象のみを抽出しているだけに見えます。本来はソフト・システムを中心に課題整理し、その結果をハードに落とし込むことで提案するサービス網に説得力が生じます。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっております。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年度）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
495	表記	P23	何がしたいのかが分かりません。コンセプトだけは立派ですが、いったい何をしたいのかが矛盾だらけで分かりません。	公共施設全般の問題として、施設の老朽化対策が課題となっています。本市では平成29年（2017年）3月に「豊中市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設総量を平成26年度（2014年度）比で80%とする「施設総量フレーム」の中で、より良い公共サービスを実現する方針を示しました。図書館についても、施設の老朽化に伴い多額の更新改修経費が見込まれる中、令和3年（2021年）2月に（仮称）中央図書館基本構想を策定し、（仮称）中央図書館の整備と新たな施設配置の方向性を示しました。基本構想に基づき、将来にわたり持続可能な図書館サービス網の構築をめざすため、施設配置の見直しとともにこれまで図書館利用が困難であった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
496		P23	何のためにサービス網を構築しようとしているのかが分かりません。新たな施設配置や新たなサービス展開によって、どこをめざしているのか目標が必要ではないでしょうか。市全体の公共施設マネジメントや財政状況が関わってくるなら、図書館が市の中でどのように位置付けられ、どのような目標をもとにサービス網を構築しようとしているのか記載が必要ではないでしょうか。（同様の意見2件）	図書館については、これまでのサービスの枠組みを超えた、まちづくりの一翼を担う拠点としての役割も担うことから、今後の「図書館像」や「ビジョン」、「新たなサービス展開」等の内容を追記します。（豊中市立図書館みらいプランP23、P44、P45）
497		P21	15～29歳の図書館利用が減少しているのは、SNS等に費やす時間の増加、また読書をするにしても電子書籍で読む人が増加していることと関係しているように感じます。紙の本にはなじまない世代であれば、素案に書かれているように電子書籍を拡充するのは良いことだと思います。ただ若い世代にとってもネットでの付き合いも大事ですが、リアルでのやり取りもバランスの取れた人間形成にはやはり重要かと思えます。楽しそうなイベントを開くなど仕掛けを工夫すると若い人も集まってくれるのではないのでしょうか。図書館という公共の場、無料で気軽に集まれる場所が身近にあることは今後も不可欠です。	これまで図書館を利用しにくかった人が利用しやすいよう、サービスポイントを交通結節点である駅周辺に整備することとしました。また、今後は電子書籍貸出サービスやアウトリーチサービスなど、図書館サービスの充実に取り組んでまいります。
498		P21	利用していない人や利用する時間がない人への働きかけを強め、行きたくなる図書館づくりに向けた地域館や分館での滞在しやすい環境整備を謳っています。ただ中身の伴わない提案であれば、働きかけも旧態依然としたものになるでしょうし、素案からは「箱モノの目新しさ」で人を呼ぼうとしているようにしか見えません。	「第3章豊中市立図書館サービス網の構築」の「1 図書館の位置付け（施設階層）ごとの役割」を基本に、地域の特性に応じた特徴ある分館づくりを検討してまいります。
499		P21	P21の「配送」は何を指していますか。	ご指摘の箇所は「郵送貸出」に修正します。（豊中市立図書館みらいプランP21）
500		P38	「行きたくなる図書館」をより具体的に示す必要があります。地域館や分館についてもどのような図書館づくりをめざしているのか知りたいです。	みらいプランで示す図書館の位置付け（施設階層）ごとの役割を基本に、中央館・地域館・分館・サービスポイントづくりを進めますが、分館においては、地域の特性に応じた特徴ある図書館づくりが必要であると考えています。その考え方を「新たなサービス展開」等に追記します。（豊中市立図書館みらいプランP24、P25、P44）
501		P22	図書館費抑制のため現図書館の維持改修費を令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年で約41億円としています。新中央館の建設費と10年間の維持管理費（見込み）を示したうえでの検討が必要です。	基本構想（P28）で詳細をお示したように、本市の公共施設を現状のまま更新した場合の試算によると、今後40年間で大規模改修にかかる経費だけでも4000億円（年間100億円）を要すると見込まれています。図書館についても、市有施設全体での公共施設マネジメントの一環として考える必要があります。計画地選定にあたりましては、ご指摘の視点からも慎重に検討を進めてまいります。
502		P23	サービスポイントという言葉では、どういった役割をする施設なのかイメージしづらいため、日本語の表現にしてほしいです。	令和3年（2021年）2月に策定した（仮称）中央図書館基本構想において、サービスポイントを配置することを示し周知してまいりました。正式名称を図書サービスポイントとするとともに、機能も含めて今後周知してまいります。
503		P23	豊中市内の公共施設全体の利活用が必要である中、豊中市内に多くを展開している図書館は、施設間連携・活用のネットワークを担う中心となることが期待されていますが、本プランではそうした議論に至っていません。（教育施設以外の公共施設利活用の考え方が整理されていないとも言えます。）	図書館については、これまでのサービスの枠組みを超えた、まちづくりの一翼を担う拠点としての役割も担うことから、今後の「図書館像」や「ビジョン」、「新たなサービス展開」等の内容を追記します。（豊中市立図書館みらいプランP23、P44、P45）
504		P23	建物としての図書館の前に、システムとしての豊中市立図書館を先に考える必要があると思います。基本構想Ⅲ.6現状分析のまとめならびにⅣ豊中市立図書館の基本方針に書かれためざす図書館のすがた・機能を形にするのがみらいプランではないでしょうか。それを元にハードとしての図書館、図書館の配置を考えていかないと、行政の都合での各案の評価にしかありません。	
505		P23	多機能連携によるサービス提供の内容をくわしく記載してください。地域のニーズをどのように把握するのですか。	公民館等との多機能連携の方向性について、「ビジョン」や「新たなサービス展開」等に追記します。（豊中市立図書館みらいプランP23、P44、P45）
506		P23	多様なニーズへの対応を具体的に示してください。	新たな施設配置と新たなサービス展開により図書館サービス網を構築し、多様なニーズに対応してまいります。
507		P23	身近な閲覧環境とはどのような環境のことですか。	身近な図書館における図書などを閲覧するための場の環境を意図しています。
508		P23	サービスポイントの役割について記載してください。（同様の意見4件）	サービスポイントは予約資料の受取や貸出資料の返却に特化した施設イメージをお示ししています。令和元年度（2019年度）に実施したアンケート調査においても、駅前等利便性の高い場所への資料の返却・貸出が可能なポイントの設置を期待する意見が多く寄せられました。
509		P23	P23～25にかけて、重複する内容も見られますので、すっきりまとめてください。	ご意見の箇所は、図書館の位置付けと役割を明確にし、基本構想をより具体的に機能面からあり方を示すとともに、施設配置の考え方を順を追って説明しています。
510		P24	東豊中図書館の複合する施設はゆたかこども園のことですか。	お見込みのとおりです。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
511	表記	P27	現時点での人口重心がどこになるかを教えてください。	国勢調査の人口データを活用し、市民一人ひとりが同じ重さと仮定した時にバランスを保つことができる地点（人口重心）を算出しました。今回は夕日丘1丁目から中桜塚5丁目にかけての一带がそれにあたります。
512		P29	中央館の候補について、案①豊島公園での設置に賛成ですが、市民に意見を求めるのであれば、3案の必要経費の記載が必要です。基本コンセプトにも「事業コストを意識した運営計画」とあるにもかかわらず、記載がないのは不手際です。案①は、市有地なので経費が安くなるのではないかと期待しています。また、近くに文芸センターもあり豊中の文化拠点となるかもしれません。子どもを連れて図書館に来た場合、公園内で遊ぶこともできます。ローズ球場に来たついでに立ち寄りすることもできます。	（仮称）中央図書館の候補地については、「Ⅲ-4 中央館の候補地及び施設配置検討」の選定評価条件に沿って、令和5年度に1か所に選定する予定です。
513		P34	野畑図書館のあり方を記述しているか所に矛盾があるように思います。自習室の拡充とある一方で、分館に自習室機能はないと書かれています。市内北西部エリアをカバーするには、分館では機能不足ではないでしょうか。集会所機能の提供とありますが、面積500㎡では実現可能性を感じられません。	みらいプランで示す図書館の位置付け（施設階層）ごとの役割を基本に、中央館・地域館・分館・サービスポイントづくりを進めますが、分館においては、地域の特性に応じた特徴ある図書館づくりが必要であると考えています。その考え方を「新たなサービス展開」等に追記します。（豊中市立図書館みらいプランP24、P25、P44）
514		その他	表にしてありますが、一部読み取りにくく感じます。	多面的な評価に基づく判定についてご説明するため記載項目を省略せず掲載しています。
515		その他	まとめとして記載してあることが、それまでの説明と重複するため読みにくく感じます。どちらかを省けませんか。	囲みの中で最終的な考えをお示しするため、5館すべてに言及することにしています。
516		P37	表24「駅乗降客数（R1）と他図書館との位置関係」に北大阪急行電鉄桃山台駅が抜けています。	北大阪急行電鉄桃山台駅や阪急電鉄宝塚線三国駅は、市外に所在しておりますので、掲載しておりません。
517		P37	表24「駅乗降客数（R1）と他図書館との位置関係」を掲載している目的を教えてください。	配置の考え方を囲みの中にお示ししましたように、サービスポイント（交通結節点型）の配置を鉄道やバス路線の結節状況や乗降客数の状況なども勘案し決定して行くため、その参考となる事項をまとめた表として掲載しています。
518		P38	図書館みらいプランと号しているが、（仮称）中央図書館基本構想の中の図書館配置計画（図書館サービス網）に特化したものに見えます。まずは基本構想のⅣ-1豊中市立図書館のめざす姿、Ⅳ-2重点的な取り組み方針の具体的な展開案を提示するのが、「図書館みらいプラン」ではないでしょうか。	「新たなサービス展開」の項目ごとに内容を追記します。（豊中市立図書館みらいプランP44、P45）
519		P38	新たなサービス展開についてはより詳細に記載してはどうでしょうか。	
520		P38	全体的にやり直しをお願いします。「基本構想」は二本柱、「将来のニーズを見据えたサービス提供」及び「中央図書館を中心とする図書館ネットワークの構築」のようです。一方、「みらいプラン(素案)」の内サービス内容に言及しているのはP38の一部だけです。その実現に際して、中央図書館の整備が必要なものはないように思えます。また5つの図書館について「基本構想」を尊重するのであれば、判定基準として「将来のニーズ」つまり「新たなサービス展開」で想定している内容を提供できるかどうか加わるべきでした。老朽化した公共建築物の建て替え及び図書館の増床・新設には賛成します。	
521		P38	「市立図書館の重要と考える役割」として、子どもの利用が挙げられていますが、図書館は子どもや高齢者の居場所としての役割を担っていると思います。図書館がなくなる地域では代わりとなる「居場所」を市として何か計画しているのでしょうか。	居場所や交流の場となる公共施設等について、関係部局や機関と連携し様々な媒体や場面を活用しながら周知してまいります。
522		P38	アウトリーチサービスの充実について、具体的な内容を教えてください。	アウトリーチサービスの具体的な取組みについては、図書館に来館が困難な方への郵送貸出しを行う予定です。また、非来館型サービスとして、電子書籍の拡充を予定しています。
523		P38	新型コロナウイルス感染症の扱いが変わりつつあります。「非接触・非来館型サービスの充実」と「行きたくなくなる図書館づくり」との兼ね合いは変わるのでしょうか。	新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル化の推進により、図書館に行かなくても情報を得る方法の充実が必要です。そのため、電子書籍貸出サービスを実施するとともに、今後は新規登録のデジタル化も検討してまいります。また、図書館の利用が困難な人へのアウトリーチサービスも大切です。職員による対面のサービス等、これまでの取組みと非来館サービスを進め、「人と情報」、「人と人」のつながりを進めてまいりたいと考えています。
524		P42	すべての施設についてスケジュールを示すべきではないでしょうか。	（P42注記）千里、庄内図書館、いぶきサービス、利倉西センター図書室は現状を継続します。
525		P17	施設の統廃合により高齢者や障害者がどのようにアクセスできるのかをより具体的に示す必要があります。	施設配置の変更に伴い、図書館が遠くなることや、逆に近くなることも想定されます。また距離が変わらなくても、通いにくくなることや、逆に通いやすくなることも考えられます。よって公共交通1路線と徒歩でアクセスできる範囲を図でお示ししています。
526		P26	評価条件の項目にあるアクセス性と利便性の違いはありますか。	アクセス性からの評価につきましては、鉄道駅・バス停からの距離や前面道路の幅員、車線数、周辺道路の混雑状況を想定しています。利便性に関しましては、商業施設等周辺施設との近接性や圏域人口の観点から評価することが考えられます。どのような視点からの評価が適しているのか、引き続き研究してまいります。

No	提出意見の概要	素案ページ	提出意見の内容	市の考え方
527	表記	その他	「サービスポイント」「アウトリーチサービス」「レファレンス」「ニーズ」「アクセス」など、カタカナばかりで分かりにくいです。なぜ、日本語を使わないのでしょうか。幅広い人の理解を得ようと思えば、日本語で語りかけるべきです。 (同様の意見5件)	サウンディング型市場調査は、豊中市立図書館みらいプランP1下部、サービスポイント、アウトリーチサービスはP3下部、レファレンスはP12下部の初出に語釈を追加します。
528		その他	記入例がわかりにくいです。	今後、分かりやすい表記を検討してまいります。

### (3) その他意見公募手続を実施した案と定めた計画との変更点

(該当箇所)

(修正前)	(修正後)
<p>第1章「1 経過と目的」            新たな図書館サービス網を示す「豊中市立図書館みらいプラン」(以下、「みらいプラン」とする)を策定し、<u>その内容を市民に周知するため、</u>未来の図書館像について市民と考えるシンポジウムを開催しました。</p>	<p>第1章「1 経過と目的」            新たな図書館サービス網を示す「豊中市立図書館みらいプラン」(以下、「みらいプラン」とする)を策定しました。また、<u>パブリックコメントの周知も兼ねて、</u>未来の図書館像について市民と考えるシンポジウムを開催しました。</p>
<p>第1章「2 計画期間」            令和5年(2023年)●月から(仮称)中央図書館基本構想の実施期間。</p>	<p>第1章「2 計画期間」            令和5年(2023年)4月から(仮称)中央図書館基本構想の実施期間</p>
<p>第1章「4 基本構想の概要」  <u>みらいプランは、基本方針の主な取組みのうち、施設等に関連する取組みの計画です。</u></p>	<p>第1章「4 基本構想の概要」  <u>みらいプランは、基本方針の主な取組みを推進する計画です。</u></p>
<p>第2章「5 現況と課題の整理(2) 課題整理 ①」            基本構想の施設配置方針で、(仮称)中央図書館を中心とした新たな図書館サービス網を構築することとしており、地域館については、庄内図書館と千里図書館を配置することとしています。なお、庄内図書館と庄内幸町図書館は統合し、令和5年(2023年)2月に庄内コラボセンターに設置します</p>	<p>第2章「5 現況と課題の整理(2) 課題整理 ①」            基本構想の施設配置方針で、(仮称)中央図書館を中心とした新たな図書館サービス網を構築することとしており、地域館については、庄内図書館と千里図書館を位置付けています。なお、庄内図書館と庄内幸町図書館は統合し、令和5年(2023年)2月に庄内コラボセンターに設置しました</p>
<p>第2章「5 現況と課題の整理(2) 課題整理 ③」            効率的な図書館運営</p>	<p>第2章「5 現況と課題の整理(2) 課題整理 ③」            効率的で効果的な図書館運営</p>
<p>第4章「4 中央館の候補地及び施設配置検討(1) 検討手順」            候補地の選定評価条件(令和5年度)</p>	<p>第4章「4 中央館の候補地及び施設配置検討(1) 検討手順」            計画地の選定評価条件(令和5年度)</p>
<p>第4章「4 中央館の候補地及び施設配置検討(6) スケジュール」            (仮称)中央図書館 候補地選定</p>	<p>第4章「4 中央館の候補地及び施設配置検討(6) スケジュール」            (仮称)中央図書館 計画地選定</p>